永田佐次郎君　瀧口歸一君
石黒涵一郎君　寺田彦太郎君
松本正友君

出席政府委員左ノ如シ
目賀田種太郎君
若槻禮次郎君

委員長永田君　開議ヲ宣告ス
委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
杣山ト山野ニ區別アリヤ
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
地方ニヨリテ杣山ト云ヒ山野ト云フ
委員石黒君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
地割ニ依リ當番者ハ土地ヲ耕作スルノ權利ヲ有シ恰モ共有地ノ一部ヲ小作スルカ如キ狀アルカ
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
然リ然リト雖トモ耕作者ハ殆ト自己ノ所有ナリト信シ來リシ故ニ政府ハ彼此ノ所有權ヲ確定セムカ爲本案ヲ提出シタル所以ニシテ特ニ其確定ノ際協議ノ困難ナル場合ニ適用セムカ爲第二條第二項ノ規定ヲ設ケタリ
委員石黒君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
多數協議ニ付セハ紛議ヲ釀スノ憂ナキヤ如何
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス

實際整理局モ亦其ノ憂ヲ抱ク只可及的圓滑ノ方針ヲ取ルヘシト答フルノ外ナシ總テ大改革ヲ行フ際ハ多少ノ混雜ハ數ノ免レサル處内地ニ於ケル十九年ノ地租改正ノ如キモ其ノ一例ナリ
委員長永田君　休憩ヲ命ス于時午後一時十五分
休憩
委員長永田君　開議ヲ命ス于時午後二時四十五分
委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
地割ニ付不當ノ配當ヲ受クルモ人民ノ救濟ヲ求ムルノ權ナキヤ
政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
普通ノ訴訟手續ニ依リ訴願ヲ爲スコトヲ得ヘシ
委員小栗君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
仕明請地或ハ仕明地等ノ名稱ノ異ナル理由如何
政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
土地ノ慣習ノ然ラシムル處ナリ
委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
間切トハ如何
政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
恰モ内地ノ町村ノ如シ然レトモ往時ハ必ス一間切ニ一城ヲ構ヘシナリ
委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
明治十四年ノ頃金祿公債ヲ與フルト共ニ政府ニ其土地ヲ返還セシメタリト信ス如何

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
未タ返還セサルノ土地アリ且民法ニ於テモ三十年以上占有ノ事實アレハ所有權ヲ認ムル時効ノ規定アル以上ハ之カ所有權ヲ認メテ其ノ處置ヲ講スルヲ當然ナリト信ス

委員小栗君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
村持トナラサル土地ハ如何

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
地頭制度ノ廢止ト同時ニ土地ヲ割付タルモ其割付ヲ怠リタル土地今日猶存セリ今之カ占有ヲ奪フハ甚殘酷ナルカ故ニ時効法ニ則リ所有權ヲ認ムル意見ナリ

委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
第八條ノ質入土地ハ之ヲ質取主ノ所有ト看做スカ

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
今日ニ至リテハ其質入ヲ爲シタル時期判然タラサルモ多クハ三十年以上質取主ニ於テ占有セシモノナリ故ニ時効ノ効果ニヨリ質取主ノ所有權ヲ認ムルノ外ナシ

委員朝倉君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
官有トシテ殘ルヘキモノアルヤ

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲シ
杣山ノ如キ其ノ著シキモノナリ其ノ他ハ道路等ノ如キモ然リ

委員松本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
朱引トハ如何

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
地券ノ如キモノナリ

委員石黒君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
土地ヲ村民ノ共有トスルハ不都合ナリヤ

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
之ヲ共有トセハ整理ノ目的ヲ達スル頗ル難シ且夫レ今ヤ將ニ町稅ヲ徵收シ自治制ヲ施カムトスル時ニ當リ特ニ衆議院議員選擧法ヲ行ハムトスルニ際シ一個人ニ土地ヲ所有セシムルハ最モ必要ナリ況ヤ之ヲ共有セムトセハ租稅ノ滯納者不納者多ク徵稅ノ頗ニ堪ヘサルノ恐アルニ於テヲヤ

委員木村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
法律施行ノ日ヨリ一個年此儘ニ爲シ置クトキハ內地ヨリ狡民入リ來リ不正ノ利益ヲ貪ホルノ憂ナキヤ

政府委員若槻君　左ノ答辯ヲ爲ス
僅々一個年ノ間ナレハ內地ノ狡民モ亦施スニ由ナカルヘシ

委員長永田君　質問終了ヲ告ケタルヲ以テ逐條審議ニ付スヘキ旨ヲ告ク

委員長永田君　第一條第二條ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員石黒君　左ノ意見ヲ述フ
第二條中本員ハ「地割セル土地ハ」ノ下二十七字ヲ削除シ「所有トス」ノ下ヘ「但其配當ヲ受タル者其ノ權利ヲ承繼シタル者多數ノ協議ニ依リ此法律施行ノ日ヨリ一個年以內ニ地割換ヲ爲

スコトヲ妨ケス此場合ニ於テハ其ノ地割ニ依リ配當ヲ受タルモノヽ所有トス」ノ但書ヲ加ヘムコトヲ望ム

委員長永田君　石黒君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員長永田君　第三條ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員石黒君　左ノ意見ヲ述フ

第二項ノ關係人ノ意義廣汎ニ失ス既ニ第二條ニ修正アル以上ハ之ヲ削除スルモ差支ナカラムト信ス仍テ削除ヲ望ム

委員長永田君　石黒君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ取ル

擧手者多數　可決

委員長永田君　第四條以下全部ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ケ且左ノ陳述ヲ爲ス

第二條、第三條修正ノ結果トシテ其ノ意義ニ於テ第六條中ノ「第二條」ノ四字ヲ削除セサルヲ得ス

委員長永田君　自己ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員長永田君　本案全部ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者多數　可決

委員長永田君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後三時四十八分

報告

一沖繩縣土地整理法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十四日

沖繩縣土地整理法案委員長

永田佐次郎

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙略ス）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月十五日

委員長　永田佐次郎

理事　松本正友

○特許法案（政府提出貴族院送付）意匠法案（同上）商標法案（同上）及登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員十八名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

村野常右衛門君	山田莊左衛門君
永江純一君	大瀧傳十郎君
内藤守三君	初見八郎君
關直彥君	三輪潤太郎君
橋元勗君	武石敬治君
古谷新作君	雨森菊太郎君
宮原幸三郎君	西川宇吉郎君
北田豐三郎君	

一明治三十二年二月十三日午後一時委員參集シ年長者古谷新作君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

村野常右衛門君	山田莊左衛門君
大瀧傳十郎君	永江純一君
内藤守三君	關直彥君
三輪潤太郎君	橋元勗君
初見八郎君	雨森菊太郎君
古谷新作君	西川宇吉郎君
宮原幸三郎君	
北田豐三郎君	

當選者左ノ如シ

委員長　古谷新作君

理事　三輪潤太郎君

會議

第一回　明治三十二年二月十四日午後三時四十五分開會

出席委員左ノ如シ

村野常右衛門君	佐々木正藏君
大瀧傳十郎君	内藤守三君
三輪潤太郎君	橋元勗君
武石敬治君	古谷新作君
北田豐三郎君	宮原幸三郎君

出席政府委員左ノ如シ

藤田四郎君	柳谷謙太郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席セル者左ノ如シ

農商務特許局審判官中松盛雄君　永江純一君　關直彥君　平岡萬次郎君　雨森菊太郎君　西川宇吉郎君　倉富勇三郎君

委員長古谷君　開議ヲ宣告シ且付託法案中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案ハ未タ貴族院ノ議決ヲ經サルモノナルヲ以テ政府委員ノ請求ニ依リ本案ヨリ先ニ議決スヘキ旨ヲ告ク

委員橋元君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案提出ノ理由如何

政府委員倉富君　左ノ答辯ヲ爲ス

現行登記法ハ農商務省カ特許意匠及商標等ニ關シ登錄ヲ爲シタルトキハ之ヲ裁判所ニ通知シ裁判所ハ即チ右ノ通知ニ基キ之カ登記ヲ爲スモノナリ而シテ此ノ手續タル煩雜ナルノミナラス之ヲ從來ノ經驗ニ徵スルモ毫モ其實益ヲ發見スルコト能ハス即チ今日迄裁判所ニ是等登記ノ拔書ヲ請求シタルモノ明治二十四年二件明治二十五年三件明治二十八年特許一件意匠一件ノ少數ニ過キスシテ爾後絕テ之カ請求ヲ爲スモノナシ而シテ登記法ノ精神タル固ヨリ之ヲ一般人民ニ公示スルノ目的カルヘシト雖モ斯ノ如ク實益ノ存セサルモノニ對シ特ニ無用ノ手數ヲ煩ハシ之ヲ存スルノ必要ナク且特許意匠商標等ニ關シテハ既ニ公報ノ發行アリテ公示ノ方法備ハル今日ニ於テハ寧ロ之ヲ廢スルノ可ナルヲ信シ本案ヲ提出セリ

委員佐々木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

然ラハ本案ハ特許意匠商標三法案ノ成立ニ伴ヒテ其ノ必要ヲ認メタルモノニアラサルカ

政府委員倉富君　左ノ答辯ヲ爲ス

然リ固ヨリ三法案ノ成立ヲ條件ト爲シタルモノニアラス既ニ陳述シタルカ如ク從來ノ經驗ニヨリテ之ヲ廢スルノ可ナルヲ認メタルモノナリ而シテ今日之ヲ提出シタルハ宛モ特許意匠商標三法案ノ提出ニ際スルヲ以テ好時機タルヲ信シタレハナリ

委員大瀧君　左ノ意見ヲ望ム

本員ハ本案ニ付別ニ異議ナキヲ以テ可決セラレムコトヲ望ム

委員内藤君　左ノ意見ヲ述フ

本員モ亦之ニ賛成ヲ表スルモノナレトモ本案ハ他ノ三法案施行ノ日ヨリ廢止ストアルヲ以テ

未タ三法案成立ノ確定セサル前ニ於テ之ヲ議決スルハ其ノ順序ヲ誤ルモノニシテ假令之ヲ可決スルモ三法案ニシテ萬一成立セサルニ於テハ徒勞ニ屬スルノ恐アルヲ以テ本案ハ三法案議決ノ後ニ讓ルヲ以テ穩當ナリト信ス

委員佐々木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

順序ヨリ云ヘハ本案ハ他ノ三法案ト共ニ貴族院ニ提出スヘキモノナルニ殊更之ヲ分離シテ衆議院ニ提出シタルハ如何ナル理由ノ存スルヤ

政府委員倉富君　左ノ答辯ヲ爲ス

是ニ關シテハ別ニ深キ理由ノ存スルニアラス故ニ三法案ノ既ニ一院ヲ通過シタル今日ナルヲ以テ兎ニ角之ヲ議決セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ハ三法案ニ關聯スルヲ以テ之ヲ後ニ讓ルヲ可ナリト信ス如何

政府委員倉富君　左ノ意見ヲ述フ

之ヲ三法案議決ノ後ニ置キ、或ハ至當ナルヘキモ如斯例ハ從來屢々見ル所ニシテ既ニ本會ニ於テモ條件ヲ以テ議決シタル場合少カラサルヲ以テ敢テ差支ナシト信ス

政府委員藤田君　左ノ意見ヲ述フ

然ラハ本案ハ之ヲ訂正シテ七月一日ヨリ廢止スト爲シ更ニ提出スヘキニヨリ暫ク之ヲ措キ特許意匠商標三法案ニ付質問セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　本案ハ之ヲ質問ニ止メ特許法案ニ移リ質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員大瀧君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ニ對スル貴族院ノ修正ニ付テハ政府ハ異議ナキヤ

政府委員藤田君　左ノ答辨ヲ爲ス

政府委員ハ之ニ同意セリ

委員永江君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ノ大體ニ付一應說明セラレムコトヲ望ム

政府委員藤田君　左ノ陳述ヲ爲ス

今回特許意匠及商標三法案ノ改正ハ主トシテ條約改正ニ基クモノナリ即チ之ニ因リテ萬國工業所有權保護同盟ニ加入スルノ義務ヲ有スルカ故ニ其ノ結果三法案ニ二三ノ改正ヲ爲スノ必要ヲ生シタルモノナリ且是ト同時ニ近時工業技術ノ進歩ニ伴ヒ之カ改正ヲ要スル點亦尠カラサレハナリ今其ノ改正ノ主ナルモノヲ擧クレハ外國人ノ出願ニ關スル事項代理營業ニ關スル事項及外國人ニ對スル優先出願ノ期日ニ關シ歐洲大陸ニテハ六ケ月其ノ他ニ付テハ七ケ月ノ期間ヲ設ケ又從來ノ證據調ニ關シ一ツモ規定スル處ナカリシヲ以テ之ニ關シ相當ノ規定ヲ設ケ就中其ノ改正ノ著シキモノハ特許局ノ審判ニ對シ大審院ニ上告ヲ爲スノ道ヲ開キタルコトナリ其ノ他登錄證主ノ納付スル納付金ハ之ヲ毎年ニ分納セシムルコトニ改メタル等小部分ニ渉リテ修正ヲ加ヘタル所亦尠カラス

委員宮原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

飮食物ニ付テハ特許ヲ受クルコトヲ得サルニ本員ノ知ル所ニ依レハ曾テ醬油ノ釀造法ニ付特許ヲ受ケタルモノアルヲ聞ク果シテ然リヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

飮食物其ノ物ノ發明ニ付テハ特許ヲ與ヘサルモ其ノ製造方法ニ付テハ內外共ニ特許ヲ與フルナリ

委員宮原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

現行法ハ特許年限ヲ定メ五年十年十五年ノ三種ニ分テリ然ルニ此ノ改正案ニ依レハ一般之ヲ十五年ト定メタリ如斯年限ヲ一定スルノ必要アリヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

特許料ハ毎年之ヲ前納スルコトニ爲シタルヲ以テ假令特許年限最長期ヲ十五年ニ定メタリトスルモ其ノ間ニ於テ特許證主カ自己ノ發明シタル特許品ニシテ利益アラサルヲ發見シ最早其ノ特許ノ不必要ヲ認メタル場合ニ在テハ特許證主ハ其ノ次年ニ納付スヘキ特許料ヲ納付スルコトナクシテ其ノ特許權ヲ放棄スルコトヲ得ヘキヲ以テ一般十五年ト定ムルモ毫モ差支ナキヲ以テナリ

委員宮原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

第三十九條ニ所謂追加特許トハ如何ナルコトヲ言フヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

甞テ自己カ特許ヲ得タルモノニ付之ニ多少ノ改良ヲ加ヘ又ハ或幾部分ヲ之ニ追加シテ特許ヲ得ル場合ヲ謂フ

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二條ニヨレハ特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用キラレタルモノハ特許ヲ受クルコトヲ得サルヲ以テ若シ外國ニ於テ特許ヲ得タルモノニシテ日本ニ於テハ既ニ永ク知ラレアルモノ

ヽ如キハ本案ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得サルヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

外國ニ於テ既ニ特許ヲ得タルモノニシテ日本ニ於テ特許ノ保護ヲ受クルヲ得ル場合ハ第十四條ノ規定ノミニシテ即チ七ケ月ノ猶豫アルノミナリ

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二條第四項ノ如ク特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用井ラレタルモノニ付テハ特許ヲ受ケルコトヲ得スト制限ヲ設クルノ必要アルヤ既ニ最先ノ出願ヲ爲シタルモノニシテ自己カ之ヲ發明シタルコトノ明白ナル場合ニ於テハ之ニ特許ヲ與フルニ敢テ不可ナカルヘシト信ス如何

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

特許法ノ主義タル發明者ニ於テ秘密ヲ基礎トシテ之カ發明ヲ完成シタルモノナルコトヲ要ス是現行法ノ精神ト敢テ異ナルコトナキノミナラス世界各國ニ於ケル方針亦是ニ外ナラス

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本員ハ發明ヲ秘密ニセサルヘカラサルノ理由ヲ解スル能ハル從來我國及各國ニ於テ此ノ如キ制ヲ設ケタルハ抑如何ナル理由ナルヤ

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

抑モ特許法ノ精神ハ工業技術ノ進歩ヲ奬勵スルニ在ルヲ以テ發明ニ對シ特ニ或權利ヲ與ヘテ之ヲ保護スル所以ナリ故ニ可成多クノ發明ヲ奬勵セサルヘカラサルハ言ヲ俟タスト雖モ既ニ公ニ知ラレ若クハ公ニ用井ラレタルモノニ付テモ猶特許ヲ與ヘサルヘカラストセハ外國人ノ如キ多クノ發明ヲ有スルモノハ續々之カ特許ヲ出願スルニ至リ其ノ煩雜抱カラサルナリ且發

明者ハ何時ニテモ特許ヲ得ラルヽヲ以テ其ノ出願ヲ爲スヲ怠リ常ニ公衆ノ問ニ紛爭ヲ惹起シ底止スル所ヲ知ラサルニ至ラン是豈ニ最先ノ發明ヲ完成シタル者ヲ保護スルノ精神ニ適合スルモノナラムヤ

委員橋元君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二條ハ貴族院ノ修正ニ因リ如何ナル意味ニナリシヤ

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

本條ノ修正ハ唯文字ヲ削除シタルニ止マリ其ノ意味ニ至リテハ原案ト毫モ異ナル所ナク又全ク現行法ト同一ナリ而シテ原案ニ於テ方法云々トアリタル方法ノ意義ハ飲食物製造方法ヲ指シタルニアラスシテ第二號醫藥又ハ其ノ調合法ト云ヘルヲ指シタルモノナルヲ以テ飲食物ノ製造方法ニ付テノ發明ハ決シテ之ヲ除外シタルモノニアラス

委員關君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

代理人ニ或資格ヲ設ケサルヤ

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

現行法ニ於テハ何等ノ資格ヲ設ケサルモ今後登記ヲ爲スニ付テハ之カ資格ヲ定ムルコトニナルナリ

委員大瀧君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二十四條ハ結局出願ノ前後ヲ爭フコトニナルヤニアラスヤ

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

發明カ牴觸シタルトキハ其ノ發明完成ノ前後ヲ審査スルナリ

委員關君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
本案第六條以下ヲ閱スルニ代理人ノ資格ニ關シテハ一ツモ之ヲ規定スルモノナシ想フニ第八條ニ基キ別ニ之ヲ規定スルノ意ナルヘシ如何
政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス
然リ本條ニ依リテ其ノ資格ヲ定ムル筈ナリ
委員關君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
本員ハ豫メ之カ資格ヲ知ラムト欲スルモ之ニ關スル政府ノ意見ハ未タ定ラサルヤ
政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス
然リ之ニ關シテ未タ草案成ラス
政府委員藤田君　左ノ陳述ヲ爲ス
然レトモ略其ノ方針ニ付答辯スルハ敢テ難カラス即チ學士辯護士等ヲ主トスルモ從來ノ代理業者ニモ亦其ノ資格ヲ與ヘサル可カラスト信ス
委員大瀧君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
本案第三十八條第一項ニ於ケル期間ヲ三年ト定メタルニ付テハ理由ノ存スルコトナルヤ
政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス
此ノ規定ハ現行法第二十四條ニモ亦存スル所ニシテ外國ノ法律ニ倣ヒタルモノナリ蓋シ三年ヲ經過スレハ發明ヲ實施スルノ準備調フヘシト云フ豫想ニ基クヘシ
委員關君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
本案第三十五條ニ依リ特許局ノ審決ニ對シ大審院ニ上告ヲ爲シタルトキ法律上ノ點ニ關シ不當アル場合ハ其ノ破毀ヲ免レサルハ勿論ナルヘキモ若シ其ノ手續ニ關シ違背スル所アリタルトキハ通常裁判所ニ於ケルカ如ク亦破毀セラルヽモノナルヤ換言スレハ特許審判ニ關スル手續法ナルモノ存スルヤ
農商務特許局審判官中松君　左ノ答辯ヲ爲ス
審判ノ手續ニ付テハ此ノ特許法ニ於テ第三十二條以下ニ規定セリ
委員開君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
鑑定人證人又ハ宣誓等ハ如何ナル手續ニ依ルカ
農商務省審判官中松君　左ノ答辯ヲ爲ス
其ノ性質ニ於テ許ルス限リ民事訴訟法ヲ準用スル精神ナリ
委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
外國ニ於テ特許ヲ得タルモノニ付七ケ月ノ期間内ニ日本ニ於テ特許ヲ受ケタルモノアルトキハ其ノ期間内ニ日本ニ於テ之ヲ製造シタルモノニ對シ第四十五條ノ罰則ヲ遡リテ適用スルモノナルヤ
農商務省審判官中松君　左ノ答辯ヲ爲ス
特許權ノ發生ハ原簿登錄ノ日ヨリ起算スルモノナルコトハ既ニ第三條ニ規定セルカ如クナルヲ以テ決シテ遡リテ其ノ効用ヲ及ホサヽルナリ
委員長古谷君　意匠法案ニ移リ質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク
政府委員藤田君　左ノ陳述ヲ爲ス
本案ノ改正ハ全ク特許法案ト同一ノ方針ニ基キタルモノニシテ敢テ之ト異ナル所ナシ例ヘハ

萬國工業所有權保護同盟條約ニ依リ出願ニ關シ四ヶ月ノ保護期間ヲ存シ又ハ意匠取消ニ關スル規定ヲ設ケ又ハ意匠料ヲ毎年納付セシムルコトニ改正シタル等總テ特許法案ニ依準シタルモノナリ

委員關君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

意匠料ヲ毎年納メシムルハ煩雜ニアラサルナキヤ又之ヲ容易ニ徵收スルコトヲ得ルヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

此ノ件ニ關シテハ既ニ政府ニ於テモ種々考究シタル所ナルモ結局此ノ如ク規定シタルナリ而シテ此ノ手續タル或ハ多少ノ煩雜ヲ來スヘキモ之カ爲徵收ヲ爲ス能ハサルカ如キハ決シテナカルヘシト信ス何トナレハ意匠登錄主ニ於テ若シ其ノ納付ヲ怠ルトキハ之カ登錄ノ取消ヲ受クルノ恐アルヲ以テナリ

委員長古谷君　商標法案ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

本案ノ改正モ亦畧特許意匠兩法案ト同一ノ方針ニ出テタルモノナリ而シテ第二條ノ如キハ既ニ成例ニ屬スルモ重大ノモノト認メ特ニ法文ニ明記シタルモノナリ又本改正ニ依リ同業ノ組合ニ商標ノ權利ヲ專用セシムルノ道ヲ設ケタリ其ノ他取消ニ關スル規定及外國ノモノニ付テハ四ヶ月ノ猶豫ヲ與フル等總テ前二案ト毫モ異ナル所ナシ

委員永江君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

特許意匠及商標ノ專用年限ヲ各區別シタルハ如何ナル理由ナルヤ

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

各其ノ年限ハ現行法ト同一ナリ而シテ之ヲ區別シタルハ別ニ理由ノ存スルニアラス各國皆期セスシテ此ノ如キ規定ヲ存セリ

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二條第六號ニ於テ普通ニ使用セラルヽトアルハ如何ナル程度ヲ言フヤ

農商務特許局審判官中松君　左ノ答辯ヲ爲ス

之ニ關シテ一般ノ規定ナシ唯事件毎ニ之ヲ認定スルノ外ナシ歷史的著名ノモノ又ハ小說等ノ名稱ハ即チ普通ニ使用セラルヽモノト解シテ可ナラン然レ𪜈此ノ如キハ盖シ困難ナル問題ナリ

委員長古谷君　質問終了シタルニ付意見ハ次回ニ述フヘキ旨ヲ告ケ散會ヲ命ス于時午後四時十分

第二回　明治三十二年二月十五日午後一時四十五分開會

出席委員左ノ如シ

永江純一君　大瀧傳十郎君　關直彥君
三輪潤太郎君　橋元勗君　武石敬治君
平岡萬次郎君　古谷新作君　雨森菊太郎君
北田豐三郎君

出席政府委員左ノ如シ

藤田四郎君　柳谷謙太郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席セル者左ノ如シ

農商務省審判官中松盛雄君

委員長古谷君　開議ヲ宣告シ且特許法案ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員關君　左ノ意見ヲ述フ

本案ヲ詳細ニ審議スレハ或ハ修正ヲ要スヘキ點少ナカラサルヘキモ會期モ切迫シ且貴族院ニ於テ既ニ精密ノ審査ヲ經タルモノナレハ直ニ本案全部ヲ議題ト爲サムコトヲ望ム

委員長古谷君　委員關君ノ意見ニ異議ナキヲ以テ特許法案全部ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員三輪君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ貴族院ノ修正ヲ可ナリト信ス且既ニ會期モ切迫シタル今日ナルヲ以テ速ニ之ヲ可決セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　本案全部ヲ可決スルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長古谷君　意匠法案ノ全部ヲ議題トナスヘキ旨ヲ告ク

委員三輪君　左ノ意見ヲ述フ

本案モ前同斷貴族院ノ修正ヲ可ナリト爲スヲ以テ之ヲ可決セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　本案全部ヲ可決スルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長古谷君　商標法案ノ全部ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第二條ニ於テ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得サルモノヲ各項ニ記載セリ而シテ之ニ適合スルモノハ勿論登錄ヲ受クルコト能ハサルヘキモ若シ各項ニ記載アルモノヽ互ニ結合シテ異樣ノ觀ヲ呈スル場合ノ如キハ此ノ法文ニヨリテ登錄ヲ受クルコトヲ得ルモノト解シテ可ナラムヤ

如何

政府委員柳谷君　左ノ答辯ヲ爲ス

然リ登錄ヲ受クルコトヲ得ルナリ

委員三輪君　左ノ意見ヲ述フ

本案モ前二案ト等シク之ヲ可決セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　本案全部ヲ可決スルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長古谷君　登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員三輪君　左ノ意見ヲ述フ

本案モ共ニ之ヲ可決セラレムコトヲ望ム

委員長古谷君　本案ヲ可決スルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可法

委員長古谷君　委員會ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後二時十分

報告書

一特許法案(政府提出貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十五日

衆議院議長片岡健吉殿

特許法案外三件委員長　古谷新作

報告書

一意匠法案（政府提出貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十五日

意匠法案外三件委員長　古谷新作

衆議院議長片岡健吉殿

報告書

一商標法案（政府提出貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十五日

商標法案外三件委員長　古谷新作

衆議院議長片岡健吉殿

報告書

一登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關スル規定廢止法律案（政府提出貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十五日

登記法中特許意匠及商標ノ登記ニ關

スル規定廢止法律外三件委員長　古谷新作

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月十五日

委員長　古谷新作

理事　三輪潤太郎

○岡山縣下郡廢置法律案(政府提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス

井手毛三君　串本康三君　津野常君
植木致一君　阪本金彌君　東良三郎君
野間五造君　星野甚右衛門君　佐久間國三郎君

一明治三十二年二月十五日委員參集シ年長者佐久間君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

野間五造君　東良三郎君　星野甚右衛門君
阪本金彌君　串本康三君　井手毛三君
津野常君　佐久間國三郎君　植木致一君

當選者左ノ如シ

委員長　佐久間國三郎君
理事　野間五造君

會議

第一回　明治三十二年三月二日午後一時四十分開會

出席委員左ノ如シ

佐久間國三郎君　植木致一君　野間五造君
井手毛三君　東良三郎君　阪本金彌君

出席政府委員左ノ如シ

深野一三君　星野甚右衛門君　津野常君　串本康三君

委員長左久間君　開議ヲ宣告ス

政府委員深野君　左ノ陳述ヲ爲ス

本案ハ郡制施行ノ必要アルヲ以テ是非通過セラレムコトヲ希望ス他府縣ニ於テハ既ニ大抵之ヲ施行セリ

委員東君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

從來屢提出サレタルモノト本案トヲ對比スルニ其間多少ノ差異アルハ如何ナル理由ニ基クヤ

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス

著シキ點アラハ指示セラレムコトヲ望ム

委員坂本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

岡山縣ノミト云フカ京都府ニ於テモ未タ郡制ヲ施行セサルモノヽ如シ如何

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス

京都府ハ數千年來ヨリノ特別ノ事情アルニ依ル

委員坂本君　左ノ陳述ヲ爲ス

此廢置ニ付必要アリ參考トシテ京都府ノ廢置表ヲ示サレムコトヲ望ム

政府委員深野君　左ノ陳述ヲ爲ス

京都府ノミ舊來ノ名稱ヲ其儘存セリ兎ニ角同府ノ表ヲ提出セム

委員坂本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
從來屢提出ノモノヽ中ニテ御野及津高ノ内津高ヲ二分シ一ツ御野ニ一ヲ赤阪ニ爲セシ理由如何

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス
其ノ都度郡ノ調査ニ依リタルモノニシテ別ニ理由ナシ唯郡制施行上郡分合ノ必要アリ爾後ノ調査又ハ修正案ニ依リタルモノナリ

委員東君　左ノ陳述ヲ爲ス
京都府ニ限リ歷史的名稱ノ爲舊名ノ儘トスレハ岡山縣ニ於テモ全部トハ限ラス京都府ニ倣ヒ小郡ノミノ廢置ヲ爲シ出來得ヘクハ獨立ヲ希望ス

政府委員深野君　左ノ陳述ヲ爲ス
要スルニ京都ハ歷史上特種ノ事情アリ岡山縣ハ他府縣ト比較スルニ多少小ナリ自然分合ノ必要アル所以ナリ

委員野間君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
此郡ノ名稱中英田郡ト命名セシ理由如何

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス
名稱ニ付テハ別ニ理由ナシ改稱スルモ差支ナシ

委員野間君　左ノ述陳ヲ爲ス
古來ノ歷史ニ則リ縣多ト爲サムコトヲ希望ス

委員長佐久間君　散會ヲ命ス于時午後二時二十五分

第二回　明治三十二年三月三日午前十時五十分開會

出席委員左ノ如シ

井手毛三君　　津野常君
植木致一君　　東良三郎君
野間五造君　　佐久間國三郎君
深野一三君

出席政府委員左ノ如シ

委員長佐久間君　開議ヲ宣告ス

委員植木君　左ノ意見ヲ述フ
勝北、勝南、英田、吉野ノ四郡ハ其ノ面積ニ比シ人口甚僅少ニシテ到底行政自治ノ維持覺束ナキヲ以テ寧ロ今日ニ於テ之ヲ合併シ總稱シテ勝田郡ト修正セムコトヲ望ム

委員井手君　左ノ陳述ヲ爲ス
植木君ノ說ニ贊成ス地形ヨリ云フモ合併スルニ若カス

委員野間君　左ノ意見ヲ述フ
勝田、英田ノ二郡ヲ合スレハ其ノ地形偏長ト爲リ經濟ノ中心ヲ動スノ恐アリ昔時ヨリ二郡ニシテ其ノ間殊異ノ慣習風俗ノ行ハレ歷史上ノ關係亦少カラス然ルニ之カ百般特殊ノ慣行ヲ統一セムトスルハ決シテ望ムヘキニアラス

委員長佐久間君　植木君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ取ル
擧手者多數　可決

委員井手君　左ノ意見ヲ述フ
改正ノ赤坂郡ハ磐梨郡ヲ合シタルモノナレハ稱呼ニ不便ナキ限リハ兩郡ノ名稱ヲ折衷シ赤磐ト修正セムコトヲ望ム

委員長左久間君　委員植木君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員坂本君　左ノ意見ヲ述フ
植木君ノ修正說可決セラレタルニ付本員亦之ニ修正ヲ加ヘタキモノアリ凡ソ事物ノ名稱ハ其ノ俚耳ニ入リ易キモノヲ擇フニ如カス而シテ勝南、勝北、吉野、英田ノ四郡ハ土人常ニ呼テ作東四郡ト云フ故ニ作東郡ト改メラレムコトヲ望ム

委員植木君　自己カ付シタル勝田トセシ修正ヲ取消シ委員坂本君ニ贊成ス

委員長左久間君　委員坂本君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員坂本君　左ノ意見ヲ述フ
御野、津高ノ二郡ハ各獨立セシムルニ如カス若シ政府案ノ如クセハ美作ノ南海ヨリ山陰ノ山脈ニ連ナリ一長蛇ノ伏スカ如キ狀況ヲ呈シ郡制施行ノ整理得テ期スヘカラス況ムヤ一ハ交通便利ノ坦道ニシテ一ハ山村ノ避地百般ノ事物全ク其ノ趣ヲ異ニスルニ於テヲヤ故ニ之ヲ獨立セシムルヲ可ナリト信ス

委員長左久間君　委員坂本君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員坂本君　左ノ意見ヲ述フ
邑久郡幷ニ上道郡ハ何レモ岡山縣中最モ資力ニ富ムノ地ニシテ自治ノ精神盛ナリ而シテ人口モ亦他郡ノ之ニ比スキモノナシ且郡役所所在地ニ就テモ常ニ紛議純エス人心騷擾收マルノ時ナシ然ルニ今強テ之ヲ合併セムカ益人民ノ喧噪ヲ招キ行政上ノ不便思フヘシ況ムヤ兩郡ノ間ニ吉野川ト稱スル自然ノ區畫アリテ彼此ノ制度從テ異ナルニ於テヲヤ

委員井手君　左ノ意見ヲ述フ
凡ソ事業ニ改革ヲ加フルニ當リテハ多少人民ノ騷擾アルヘキハ素ヨリ其ノ處ナリ若シ獨立セシムルニ於テハ面積甚狹少トナリ行政自治ノ維持シカタキヲ信ス

委員長左久間君　委員坂本君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員東君　左ノ意見ヲ述フ
上房郡ト川上郡ノ間ニ一大高橋ノ之ヲ隔ツルアリ且二郡ハ常ニ反目シ獨立ノ念慮盛ナリ特ニ川上郡ハ一種異樣ノ習慣故俗ヲ存シ他郡ト融化シ難キハ其ノ實況ニ徵シテ明ナリ故ニ寧ロ之ヲ獨立セシメ行政ノ圓滑ヲ保ツノ優レルニ如カスト信ス

委員長左久間君　委員東君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長左久間君　已ニ修正シタル外本案全部ニ付起立ヲ以テ採決ス

起立者多數　可決

委員長左久間君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時手前十一時五十五分

報告

一岡山縣下郡廢置法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月三日　　岡山縣下郡廢置法律案委員長

佐久間國三郎

衆議院議長片岡健吉殿

(別紙略)

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年三月三日

委員長　佐久間國三郎

理事　野間五造

○香川縣下郡廢置法律案(政府提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定シ其ノ氏名左ノ如シ

熊代慊三郎君　　林喬君　　山本幸彦君

武市庫太君　　鹽田忠左衛門君　　新開貢君

清水靜十郎君　　原田赳城君　　江角千代次郎君

一明治三十二年二月十五日午後零時五十五分委員參集シ年長者山木幸彦君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

林喬君　　新開貢君　　熊代慊三郎君

武市庫太君　　山本幸彦君

當選者左ノ如シ

委員長　鹽田忠左衛門君

理事　江角千代次郎君

會議

第一回　明治三十二年二月十八日午後二時十五分開會

出席委員左ノ如シ

熊代慊三郎君　　山本幸彦君　　武市庫太君

鹽田忠左衛門君　　新開貢君　　清水靜十郎君

原田赳城君　江角千代次郎君

出席委員左ノ如シ

深野一三君

委員長鹽田君　開議ヲ宣告ス

委員山本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

廢置ノ必要如何

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案ハ郡制施行ノ必要ヨリ提出シタルモノニシテ今ヤ各府縣中其ノ施行ヲ見サルハ僅ニ本縣及岡山縣ノミト爲レリ今本案ニ對シ行政區域ノ小ナルハ其ノ維持ノ困難ヲ來スト論難スル者アルモ香川郡ニ於テハ三十年ノ調査ニ依レハ町村數二十五人口八萬千餘ニシテ各府縣平均一郡ノ人口六萬六千餘町村數二十三ニ超ヘ其ノ維持上敢テ差支ナシト信ス又三木山田兩郡ノ分レシコトハ二百年前ノコトニ屬シ一時經費ノ點ヨリ愛媛縣下ニ合併セシノミ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

委員熊代君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

現在行政區域内ノ輿論ハ如何

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス

三木郡ノ如キハ合併ヲ希望セリ

委員山本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

香川郡ハ之ヲ獨立セシメテ差支ナキヤ

政府委員深野君　左ノ答辯ヲ爲ス

差支ナシ

委員原田君　左ノ陳述ヲ爲ス

本案反對者ノ說ハ結局一方ハ小郡トナリ一方ハ大郡トナルト云フニ歸スルカ如シ本員ハ政府案ニ贊成ス

委員清水君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員ハ現在ノ行政區域ヲ以テ適當ナリト思考ス故ニ現在行政區域ヲ以テ郡ノ廢置ヲ爲スコトニ修正セムコトヲ望ム

委員新開君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員モ委員原田君ノ如ク政府カ郡ノ自治制ヲ布クカ爲新ニ北ノ郡ヲ置クハ贊成ナリ

委員長鹽田君　委員原田君ノ說ヨリ起立ヲ以テ採決セム

起立者多數　可決

委員長鹽田君　本案ノ審査終了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ散會ヲ命ス于時午後二時四十分

報告書

一香川縣下郡廢置法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十八日

香川縣下郡廢置法律案委員長

鹽田忠左衛門

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月十八日

委員長　鹽田忠左衛門

理事　江角千代次郎

○大分縣下郡界變更法律案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

土居平左衛門君　岡野寛君　金田平五郎君

横山通英君　小栗貞雄君　江島久米雄君

井上源衛君　杉下太郎右衛門君　佐藤通代君

一明治三十二年二月十五日午後零時四十六分委員參集シ年長者岡野寛君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

土居平左衛門君　岡野寛君　江島久米雄君

井上源衛君　杉下太郎右衛門君　佐藤通代君

當選者左ノ如シ

委員長　岡野寛君

理事　杉下太郎右衛門君

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後零時四十二分開會

出席委員左ノ如テ

土居平左衛門君　岡野寛君　横山通英君

小栗貞雄君　江島久米雄君　杉下太郎衛門君

佐　藤　通　代君

出席政府委員左ノ如シ

深　野　一　三君

委員長岡野君　開議ヲ宣告ス

政府委員深野君　左ノ陳述ヲ爲ス

大分縣豐後國速見郡湯平村ハ山脈ノ爲速見郡ノ他ノ村落ト阻隔セラルヽモ其ノ隣接スル同縣同國大分郡ノ部落トハ交通便利ニシテ人情風俗ヲ同フシ諸般ノ關係自ラ密ナルモノアリ依テ之ヲ大分郡ニ編入セムトス且當該郡長ノ報告ニ依レハ關係地方人民亦希望スル所ナリ今參考ノ爲報告書ヲ朗讀セム

本郡湯平村ヲ大分郡ニ編入ノ義ニ付取調方書記官ヨリ御照會ノ旨ニ依リ同村人民ノ意向取調候處大分郡ヘ編入ノ義ハ年來ノ希望ニシテ現今ニ於テモ異議ヲ抱候モノハ更ニ無之水利上ニ就テモ大分郡トハ最モ關係ヲ有シ現ニ水利組合ヲ設置シタル義ニ有之地形民情等ニ在テモ同郡ヘ編入相成候方適當ト相見込候右編入ニ付郡内折合上ニハ何等影響相及候義無之モノト存候此段及上申候也

明治三十一年八月八日

大分縣知事押川則吉殿

逸見郡長　國枝永吉

去九日付内一庶第五四五號ヲ以テ速見郡湯平村ヲ本郡内ニ編入ノ義ニ付當否ノ意見及郡内ノ折合並ニ水利ニ關スル事柄等取調上申可致御照會ノ處右ハ去二十三年中郡制實施準備ノ際當時ノ郡長瀧吉弘ヨリ及内申候次第モ可有之該村ハ本郡南部庄内地方ニ接續シ所轄速見郡役所ヲ距ル十二里本郡役所ヨリ九里餘單ニ其道路ノ遠近ヨリ見ルモ本郡所轄ニ編入シテ監督上其他庶般ノ上ニ便利ナルヘキハ勿論近年ニ至リ佐賀縣道ノ貫通ト共ニ該村里道ノ改築ヲ加ヘ今ヤ優ニ腕車ヲ通シテ佐賀縣道ト聯絡セルノ便ヲ得タルノミナラス從來該地方民生計上必要ノ貨物及物産ハ悉ク本郡内ニ於テ購求若クハ販賣致居候義ニシテ人情風俗ノ如キモ從テ速見郡内他村ニ比シ却テ本郡ト其趣ヲ同フシ浴客ノ如キモ主ニ大分大野直入郡等ノ人其大部ヲ占メ地勢上其他ニ於テ本郡内ト自然親密ノ關係ヲ有シ該編入ノ曉ニ於テモ本郡内折合上圓滑ヲ欠クカ如キハ毛頭無之被存候將タ又水利上ノ關係ヨリスレハ既ニ本郡内ニ通セル主ナル川流大分川ノ如キハ殆ント該村ニ發源セル有樣ニシテ之ニ依ルヘキ水利上ノ事業ハ已往將來共多々ナルヘキハ勿論ニ郡内南庄内村西庄内村ノ如キハ該村内ニ於テ堰堤等ヲ設ケ自村ノ灌漑ニ便シ直接利害休戚ノ關係ヲ生シ居リ候次第ニシテ該村民ニ於テモ前記種々ノ便否ヨリ本郡内ニ編入セラレ度年來ノ希望ニ候趣ニモ聞及候旁該村ヲ割キ本郡ニ編入スルハ相互ノ利便ニシテ至當ノ儀ト相見込候此段意見及上申候也

明治三十一年六月二十日

大分郡長　小倉左文

大分縣知事杉本重遠殿

以上ノ如クニシテ尚郡界變更後ノ西郡町村數及人口ヲ擧クレハ大分郡三十五ヶ町村人口十一萬八千四百三十七人速見郡二十二ヶ町村人口七萬二百九十六人ニシテ湯平村ハ人口千三百人ナリトス速ニ可決アラムコトヲ望ム

委員長岡野君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長岡野君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス乎

時午後零時五十五分

報告書

一大分縣下郡界變更法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十七日　大分縣下郡界變更法律案委員長　岡野寛

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月十七日

委員長　岡野寛

理事　杉下太郎右衛門

○水產調查及漁業練習ニ要スル船舶新營並ニ水產實習科ノ新設ニ關スル建議案(恒松隆慶君外七名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

早川龍介君　恒松隆慶君　藤金作君

大塚常次郎君　臼井哲夫君　大村和吉郎君

大矢四郎兵衛君　竹内正志君　山本貴三郎君

一明治三十二年二月十五日正午十二時委員參集シ年長者藤金作君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

恒松隆慶君　臼井哲夫君　大矢四郎兵衛君

大塚常次郎君　竹内正志君　山本貴三郎君

藤金作君　早川龍介君

當選者左ノ如シ

委員長　恒松隆慶君

理事　臼井哲夫君

會議

第一回　明治三十二年二月二十日午後二時十五分開會

出席委員左ノ如シ

恒松隆慶君　臼井哲夫君
藤金作君　早川龍介君　大村和吉郎君
竹内正志君　大矢四郎兵衛君　山本貴三郎君
出席政府委員左ノ如シ　大塚常次郎君
牧朴眞君

委員長恒松君　開議ヲ宣告ス

委員長恒松君　左ノ陳述ヲ爲ス

漁場ヲ調査探檢シ漁業ノ方法ヲ明示シ其ノ指導者ヲ養成スルカ爲水産調査船及漁業練習船ヲ新營シ及水産物ノ養殖漁撈ニ關スル實際的技術ヲ練磨スルカ爲選當ナル地方ニ實習場ヲ設備スルハ實ニ目下ノ急務ナリトス是本案ヲ提出シタル所以ニシテ事理極テ明白ナレハ急ニ贊成アラムコトヲ望ム

委員長恒松君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長恒松君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後二時二十五分

報告

一水産調査及漁業練習ニ要スル船舶並ニ水産實習所ノ新設ニ關スル建議案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十日　水産調査及漁業練習ニ要スル船舶新

營並ニ水産實習所ノ新設ニ關スル建
議案委員長　恒査隆慶

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十二日

委員長　恒松隆慶
理事　臼井哲夫

一人力車發明人ニ年金給與ノ建議案（關信之介君外一名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

關　信之介君　　阿部　孫左衛門君
森　東一郎君　　西田　收　三君
淺野　順平君
廣住　久　道君　　大三輪長兵衛君

一明治三十二年二月十五日午後一時委員參集シ年長者阿部孫左衛門君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

關　信之介君　　森　東一郎君
西田　收　三君
廣住　久　道君

當選者左ノ如シ

委員長　大三輪長兵衛君
理事　富永隼太君

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後二時三十五分開會

出席委員左ノ如シ

大三輪長兵衛君
富永隼太君
關　信之介君　　阿部　孫左衛門君
森　東一郎君　　西田　收　三君

廣住　久　道君

委員長大三輪君　開議ヲ宣告ス

委員關君　左ノ陳述ヲ爲ス

本請願ハ本議會ニ初メテ呈出シタルモノニアラス既ニ第九議會及第十議會ニ於テモ貴衆兩院ニ呈出セリ當時ハ各自獨立シテ請願ヲ爲シタルモ前議會ノ時要助外三名共同發明人タルコト判明セシヲ以テ今回ハ即チ四人相合シテ本請願ヲ呈セリ即チ明治二年中和泉要助高山幸助鈴木德次郎及工人西田虎次郎ノ發明ニ係リ翌三年東京府ノ許可ヲ得テ廣ク世ニ行ルヽニ至レリ初メ要助其考案ヲ建テ幸助德次郎之ヲ輔佐シ虎次郎之ヲ製造シ四人相竢テ其ノ成功ヲ見ルニ至レリ若シ此ノ發明ヲシテ專賣特許條例發布後ニ出テシメハ此ノ四人ハ巨大ノ利ヲ得ヘカリシニ惜ム可シ事明治ノ初年ニ屬セシカ爲世ヲ益スルノ大ナルニ拘ハラス寸毫ノ益ヲ受クル能ハスシテ皆窮困ニ陷リ內要助ハ年老テ侍養ノ子女ナク他家ニ寄食シ虎次郎ハ一定ノ住居ナク幸助及德次郎ハ既ニ死亡シ其ノ子等僅カノ生活ヲナスニ過キス故ニ本人及遺族等ニシテ斯ノ如キハ甚タ哀憫ニ堪ヘサルヲ以テ速記發明人源綱紀ニ年金ヲ賜ハリタル例ニ倣ヒ和泉要助外三名ニ對シ適度ノ年金又ハ一時金ヲ給與スルコトニ議決セラレムコトヲ望ム

委員長大三輪君　左ノ陳述スルコトヽシテハ如何

請願者ノ提出書類ヲ取寄セシ上議スルコトヽシテハ如何

委員長大三輪君　散會ヲ命ス于時午後三時三十分

第二回　明治三十二年二月二十日午後一時開會

出席委員左ノ如シ

大三輪長兵衛君　　關　信之介君　　阿部　孫左衛門君
富　永　隼　太君　　西　田　收　三君　　森　東一郎君

委員長大三輪君　開議ヲ宣告ス

委員西田君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ此ノ參考書ニ徵シ請願人等ヲ以テ發明人ト認メテ差支ナシト信ス然レ𪜈必シモ年金ヲ給與スルヲ要セス一時賜金ヲ給セハ即チ足ラム

委員森君　左ノ意見ヲ述フ

發明人ハ思フニ此ノ四人ナラム然レ𪜈不幸ニシテ專賣特許條例發布以前ノ發明ニ係ルカ故ニ又如何ムトモ爲シ難シ依テ本員ハ別ニ年金若ハ一時賜金ヲ給與スル必要ナシト信ス

委員長大三輪君　左ノ意見ヲ述フ

委員西田君及委員森君ノ意見アルニ付採決セムト欲スレ𪜈前回及當回ニ於テモ政府委員欠席シテ其ノ意見ノアル所ヲ聞クヲ得サレハ甚タ遺憾トスル所ナリ本案ニシテ否決スレハ止ム若シ之ヲ可決セハ其ノ給與方法ニ付政府委員ノ意見ヲ問サル可ラサルモノアリ依テ之カ採決ヲ延ハシテハ如何

委員關君　左ノ陳述ヲ爲ス

委員長大三輪君ト同感ナルモ兎ニ角表決ヲ取リ其ノ給與スルト否ヲ定メ若シ給與スルコトニ決スレハ其ノ給與方法如何ハ委員長大三輪君ヨリ政府委員ニ計リ追テ報告セラレムコトヲ望ム

委員長大三輪君　然ラハ西田君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ採決セム

擧手者多數　可決

委員長大三輪君　政府委員ノ意見ヲ聞キ其ノ上報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後一時二十分

報告

一人力車發明人ニ年金給與ノ建議案(關信之介君外一名提出)

右ハ本院ニ於テ第十行目「和泉要助外三名ニ對シ」ノ下「年金若ハ」ノ四字ヲ削除スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十二日　人力車發明人ニ年金給與ノ建議案委員長　大三輪長兵衛

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

委員長　大三輪長兵衛
理事　富永隼太

明治三十二年二月二十二日

○建議案栗（原亮一君外八名提出）委員會會議課

委員成立

一明治三十二年二月十四日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

久米民之助君　小田貫一君　高須賀穰君
中島祐八君　佐藤清君　富田仙助君
田中正造君　中村榮助君　鮫島相政君

一明治三十二年二月十五日午後零時五十三分委員參集シ年長者中村榮助君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

久米民之助君　高須賀穰君　中島祐八君
中村榮助君　鮫島相政君

當選者左ノ如シ

委員長　鮫島相政君
理事　中村榮助君

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後零時三十五分開會

出席委員左ノ如シ

鮫島相政君　小田貫一君　久米民之助君
中村榮助君　高須賀穰君　佐藤清君

出席政府委員左ノ如シ

田邊輝實君

委員長鮫島君　開議ヲ宣告ス

委員高須賀君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

議場建築調査會ヲ設クルトキハ三萬圓ノ費用ヲ要スト聞ク政府ハ猶今日ニ於テ之ヲ設クルノ必要ヲ認ムルヤ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

現在ノ議場ハ假令修繕ヲ加フルニ爾後十五ヶ年間ヲ出テスシテ使用ニ堪ヘサルニ至ルヘシ故ニ速カニ調査會ヲ設ケ委員ヲ外國ニ派遣シ歐米議事堂ノ構造體裁ヲ見聞セシメ以テ十分愼重ノ調査ヲ爲スノ必要アルヲ認ム是レ政府ハ本案ノ通過ヲ望ム所以ナリ

委員高須賀君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

前回ノ速記錄ヲ看ルニ修繕ヲ加フレハ十七ヶ年間ハ用ルヲ得ヘシトアリ然ルニ猶調査ヲ急ク必要アリヤ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

這般新築セムトスル議場ハ頗ル其ノ規模ヲ宏大ニスルノ計畫ナレハ完成ノ期限モ約十五個年位ノ長キニ至ルヘシ故ニ速カニ新築ニ着手セサレハ其ノ落成ヲ告ケサルニ先タチ現在ノ議場其ノ用ニ堪ヘサルニ至ルヘシ若シ事茲ニ至ラハ其ノ不都合思フヘシ是レ政府カ速カニ此ノ調査ニ着手セムトスル所以ナリ

委員高須賀君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

若シ目下委員會ノ審査中ニアル選擧法改正案ニシテ通過セハ議員ノ數モ頗ル增加スヘキヲ以テ現在ノ議事堂ニテハ狹隘ニ失シ爲ニ其ノ用ヲ辨スル能ハサルノ憂ナキヤ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

選擧法改正ノ結果議員ノ數增加スルニ至ラハ此ノ議事堂ヲ現在ノ儘使用スルコト能ハサルヲ以テ各廊下ノ方ニ向テ增築スル計畫ナリ

委員佐藤君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

新築費ハ大凡幾何ナリヤ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

大約一千萬圓位ハ要スルナラム但シ學士技術家及實驗者等ノ給料モ少額ニ非サレハナリ

委員小田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

調査ノ爲委員ヲ外國ニ派遣スル費用モ調査費三萬圓ニ包含スト聞ク果シテ然ラハ若シ調査會ノ結果更ニ委員ヲ外國ニ派遣スルノ必要生セシトキハ別ニ其ノ費用ヲ請求スルノ豫定ナルカ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

調査ノ結果再ヒ外國ニ派遣スルノ費用ハ此ノ三萬圓ノ中ニ包含セス故ニ再派遣ノ必要アルトキハ政府ハ次ノ議會ニ之ヲ提出スルノ意見ナリ

委員高須賀君　左ノ意見ヲ述フ

議場建築ノ調査ハ本員モ亦之ヲ必要ト認ムルモ本年ヨリ調査會ヲ設クルノ必要アリヤ否ヤ稍疑ナキ能ハス速記錄ニヨリ察スルニ嚮ニ此調査費目ノ否決セラレタルハ三萬圓ノ中二萬圓ハ

之ヲ委員ノ外國派遣ニ要ストアリタルニ由ル此ノ點ニ付政府モ各委員モ更ニ熟考アラムコトヲ望ム

委員久米君　左ノ陳述ヲ爲ス

嚮ニ否決セラレタルハ其ノ費途ノ如何ニ依リシニ非ス內務省ノ保管ニ屬ストアリタルニ由ル完成期限十五個年中調査ノミニ付テモ猶三年間ヲ要スヘシ但シ一國議場ノ構造體裁ハ外國人ノ最モ注視スル所ナレハ勉メテ其ノ完全ヲ期セサルヘカラサレハナリ故ニ本員ハ殊ニ調査ニ着手サレムコトヲ望ム

委員高須賀君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

調査會ヲ設クルトキハ實際幾何ノ費用ヲ要スルヤ

政府委員田邊君　左ノ答辯ヲ爲ス

大體ノ豫算ハ別冊ノ如ク調製セリ就テ一覽アラムコトヲ望ム猶諸君ノ意見ニ依リ更ニ協議ヲ遂ケム

委員長鮫島君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長鮫島君　本案ノ審査結了セシヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後一時十五分

報告書

一建議案（栗原亮一君外八名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十七日

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議作ヲ作ル

明治三十二年二月十七日

建議案委員長
鮫島相政

委員長　鮫島相政
理事　中村榮助

○著作權法案（政府提出貴族院送付）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ本會委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

三輪傳七君　磯田和藏君　赤土亮君
金井貢君　渡邊猶人君　大隈秀麿君
市島謙吉君　本間直君　宮原幸三郎君

一明治三十二年二月十六日午後零時四十分委員參集シ年長者本間直君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

金井貢君　大隈秀麿君
本間直君　市島謙吉君
宮原幸三郎君

當選者左ノ如シ

委員長　渡邊猶人君
理事　宮原幸三郎君

會議

第一回　明治三十二年二月二十日午前十時四十七分開會

出席委員左ノ如シ

三輪傳七君　赤土亮君
渡邊猶人君　大隈秀麿君
市島謙吉君　本間直君

宮原幸三郎君
出席政府委員左ノ如シ
小倉久君
森田茂吉君
水野練太郎君
（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ具ノ大要ヲ掲ク）
委員長渡邊君　會議ヲ宣告ス
委員市島君　萬國版權同盟ニ加入ヲ約シタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　米國ノ萬國版權同盟ニ加入セサル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　本法施行時期ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　本案用語復製ナル文字ノ範圍ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員長渡邊君　復製ノ意義ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　無名變名ト實名ノ登錄トノ間ニ著作權保護ノ期間ヲ異ニシタル理由及無名變名ノ著作權保護ニ關スル第五條ト第十二條トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　著作權所得ノ形式ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第十五條二項ト第五條トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員市島君　第五條原著作者ノ翻譯權消滅ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第十條相續人ナキ場合ノ著作權消滅ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　雜誌ノ表紙ニ於ケル轉載禁止ノ效力ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　雜報轉載禁止ノ效力ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　寫眞種子板販賣ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員宮原君　演劇脚本版權ノ效力ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第三十一條ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第二十九條第一項第一號乃至第五號節錄又ハ引用ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第二十九條第一項第三號ヲ貴族院ニテ加入シタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　第二十九條第一項第三號ト條約トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員市島君　發明ニ關スル著作物ノ著作權ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス
委員長渡邊君　第二十二條ノ美術上ノ著作物ノ復製ノ意義ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員

水野君答辯ヲ爲ス

委員宮原君　本法施行前ノ著作物ノ著作權期間ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員市島君　權利者カ出版又ハ翻刻ヲ承諾シタル後ニ序文又ハ批評等ヲ附加セラレタル場合ニ於ケル承諾ノ効力ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員長渡邊君　第十九條但書ノ必要ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員市島君　第十九條但書ノ範圍ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員市島君　同盟國内ノ書籍ヲ同盟以外ノ國人翻譯シタル場合ニ於ケル著作權上ノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員赤土君　第二十一條一項ト第二十八條トノ開係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員水野君答辯ヲ爲ス

委員長渡邊君　質問ノ有無ヲ問フ

委員長渡邊君　散會ヲ命ス于時午前十一時五十二分

第二回　明治三十二年二月二十一日午後二時十七分開會

出席委員左ノ如シ

三輪傳七君　赤土亮君
大隈秀麿君　渡邊猶人君
市島謙吉君　宮原幸三郎君
本間直君

出席政府委員左ノ如シ

森田茂吉君　水野練太郎君

委員長渡邊君　開議ヲ宣告シ且質問ノ有無ヲ問フ

委員市島君　左ノ意見ヲ述フ

質問ナキニ依リ本員ハ本案ニ對スル意見ヲ述ヘム本員ハ本案全部ニ付賛成スルモノナリ併シ替成ヲ爲スニ付テハ茲ニ意見ヲ付スルノ止ムヲ得サルモノアリ前回質問ノ際陳述セシ如ク政府カ版權同盟ニ加入ヲ約シタルハ我帝國文明ノ爲ニ大ナル利益ヲ蒙リタルナリ彼ノ米國ノ如キ先進ノ國ニシテ尚且之ニ加入セサルハ一ニ内部學術ノ進歩ニ不利益ナラムコトヲ慮リタルニ依ル後進國タル日本其ノ加入ノ爲大ナル不利益ヲ受クル亦當然ナリ殊ニ内地雜居ノ曉外國圖書ノ翻譯ヲ要スルモノ夥多ナラム畢竟當局者失誤ノ結果ナリ然レトモ一旦條約ヲ以テ定メタル以上ハ今日又如何トモスルコトヲ得ス之カ準備トシテ本案ヲ制定スル亦止ムヲ得サル所ニシテ本員ノ賛成亦此ノ趣旨ニ基クニ外ナラス又本案細目ニ付著作權ヲ第三者ニ對抗スル條件トシテ登錄ヲ要スルトセルカ如キ政府委員ノ説明ニテハ訴訟上ノ關係ノ爲ナリト云ヘル外何等理由ノ見ルヘキナク如此復雜ナル手續ハ實際不便ナリト信ス又貴族院修正中問題集答案ノ如キ保護ノ精神ハ同感ナルモ體裁上不同意ヲ唱ヘサルヲ得ス詳密審査ヲ遂クレハ或ハ此等ノ欠點夥多ナラム然レトモ會期切迫ノ今日修正兩院協議會ヲ開ク加キ手續ヲ爲スノ餘日ナク且條約實施上必要ナル法案ト信シ貴族院修正案ハ變更セサル精神ニテ茲ニ理由ヲ述ヘ賛成ヲ表スル所以ナリ委員諸君本員ト同感可決ヲ與ヘラルレハ本會議ニ於テ報告ノ際右ノ意見ヲ報道アラムコトヲ望ム

委員宮原君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員モ同理由ニテ本案可決ヲ望ム
政府委員水野君　左ノ陳述ヲ爲ス
版權同盟加入ノ不利益ナル市島君ノ說ノ如シ然レトモ法權回復ト多年國民希望ノ條約改正ノ爲メ重要ノ條件トナリ止ムヲ得ス加入ヲ約セシナリ又本案ニ付テハ諸君ニ於テ不同意ノ點アラムモ他日實施ノ上欠點アレハ修正ヲ求ムルコトヽセム
委員長渡邊君　異議ノ有無ヲ問フ
異議ナシ　可決
委員長渡邊君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ議長ニ報告スル旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後二時三十五分

報告書

一著作權法案（政府提出貴族院送付）
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
明治三十二年二月二十一日

著作權法案委員長
渡邊猶人

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル
明治三十二年二月二十一日

委員長　渡邊猶人

○臺灣事業公債法案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

大野龜三郎君　新井章吾君　野田卯太郎君
久米民之助君　中村彌六君　竹内正志君
野間五造君　西村眞太郎君　佐藤里治君

一明治三十二年二月十六日午後一時三十五分委員參集シ年長者佐藤里治君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

久米民之助君　新井章吾君　野田卯太郎君
佐藤里治君　野間五造君　西村眞太郎君
竹内正志君

當選者左ノ如シ

委員長　佐藤里治君
理事　野間五造君
理事　宮原幸三郎

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後三時十七分開會

出席委員左ノ如シ

佐藤里治君　野間五造君　新井章吾君
竹内正志君　久米民之助君　西村眞太郎君
野田卯太郎君

出席政府委員左ノ如シ

阪谷芳郎君　後藤新平君　祝辰巳君
森田茂吉君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ揭ク）

委員長佐藤君　開議ヲ宣告ス

政府委員阪谷君　本案ノ大體ニ付說明ヲ爲ス

委員野間君ハ臺灣ニ於ケル財政方針ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ本案計畫ハ完全ニ實功ヲ收メ得ヘキヤ否ニ付政府委員ノ確言ヲ要求シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員竹内君ハ臺灣銀行設立ノ目的ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員竹内君ハ本案ハ最初六千萬圓ノ公債ヲ募集スルノ計畫ナルヲ四千萬圓ニ改メタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員久米君ハ臺灣事業公債ノ利子ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員竹内君委員久米君ハ公債應募者ノ有無及其ノ配當金ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員阪谷君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ臺灣鐵道會社所有品買收ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ鐵道測量方法及其ノ維持方法ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員新井君ハ鐵道布設ノ方法及支線敷設ノ有無ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員竹内君ハ鐵道維持費及鐵道收入ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君　鐵道敷設ノ起點及石材枕木等ノ購買ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　散會ヲ命ス　午時午後零時二十六分

第二回　明治三十二年二月十八日午前十一時十八分開會

出席委員左ノ如シ

佐藤里治君　野間五造君　新井章吾君
野田卯太郎君　西村眞太郎君
竹内正志君　久米民之助君

出席政府委員左ノ如シ

後藤新平君　祝辰巳君
森田茂吉君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ揭ク）

委員長佐藤君　開議ヲ宣告ス

政府委員祝君　前回野間君ノ質問中鐵道石材及枕木購買ニ付答辯ヲ補ヒ委員野間君ハ其ノ豫算算出ノ方法ニ付更ニ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ鐵道敷設擔當者及其ノ使役者ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員西村君ハ明治三十六年度迄ニ完成スル鐵道ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員西村君ハ鐵道敷設計畫中打狗嘉義間ヲ先キニシ新竹嘉義間ヲ後ニシタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ此ノ計畫ニ係ル鐵道ハ海岸線ナルヤ高地線ナルヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ鐵道敷設ト臺灣土質トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員西村君ハ鐵道敷設費ト築港トノ權衡ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員竹內君ハ此ノ鐵道設計ノ趣旨ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　散會ヲ命ス于時午後零時二十六分

第三回　明治三十二年二月二十日午前十一時十三分開會

出席委員左ノ如シ

佐藤里治君　野間五造君　竹內正志君
新井章吾君　西村眞太郎君　久米民之助君

出席政府委員左ノ如シ

祝辰巳君　森田茂吉君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長佐藤君　開議ヲ宣告ス

委員野間君ハ臺灣鐵道中別ニ幹線ヲ敷クコトナキヤ否及此ノ鐵道ハ單線ナルヤ複線ナルヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ淡水臺北間ノ鐵道敷設ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員竹內君ハ本案ニシテ通過セハ私設鐵道會社ノ處置ハ之ヲ如何ニスヘキヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員西村君ハ二十年ノ計畫ヲ爲サヽルモ一年若ハ二三年ノ計畫ヲ爲スノ不可ナル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ臺灣ニ於ケル鐵道中橫斷線敷設ノ必要ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ鐵道賃金ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ鐵道ニ用フル石炭ノ供給及其ノ代價ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　土地調査ニ付大體ノ說明ヲ政府委員ニ要求シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員竹內君ハ大租權買收ノ結果ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君委員久米君ハ土地調査ニ於ケル臺帳ノ名義ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員竹內君委員野間君ハ大租權買收價格及其ノ土地ノ見積ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　散會ヲ命ス　于時午後零時四十七分

第四回　明治三十二年二月二十二日午前十一時五十五分開會

出席委員左ノ如シ

佐藤里治君　野間五造君　大野龜三郎君
野田卯太郎君　新井章吾君
出席政府委員左ノ如シ
後藤新平君　祝辰巳君　森田茂吉君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ大要ヲ掲ク）

委員長佐藤君　開議ヲ宣告ス

委員野間君ハ築港計畫ノ大體ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野田君ハ港內浚渫ノ面積及浚渫船其ノ他之ニ要スル器械ノ代價ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ基隆居留地ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ突堤費ニ於テ最初ノ計畫ヲ變シ二百萬圓ノ見積ヲ爲セシ理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ新營廳舍ノ場所及此ノ費用ヲ一般ノ豫算ニ編入セス事業公債ヲ以テ之ニ充ツル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野間君ハ住居ニ於テ一般人民及軍隊ト官吏トノ關權衡ヲ失スルコトナキヤ否ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君答辯ヲ爲ス

委員野田君ハ監獄及囚徒ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員後藤君政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　散會ヲ命ス　于時午後零時三十分

第五回　明治三十二年二月二十八日午前十一時五分開會

出席委員左ノ如シ

佐藤里治君　野間五造君　西村眞太郎君
久米民之助君　新井章吾君　野田卯太郎君
中村彌六君　大野龜三郎君　竹內正志君

出席政府委員左ノ如シ

後藤新平君　祝辰巳君　阪谷芳郎君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長佐藤君　開議ヲ宣告ス

委員竹內君ハ淺漲港內ノ所有者ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員竹內君ハ廳舍新築ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員新井君ハ廳舍新築中各廳舍ノ費用ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員祝君答辯ヲ爲ス

委員長佐藤君　本案ノ質問終了シタルヲ以テ大體ニ付審議スヘキ旨ヲ告ク

委員西村君ハ本案ハ豫算案ト關係ヲ有スルヲ以テ豫算議決ノ上之カ決議ヲ爲スノ意見ヲ述ヘ委員大野君委員久米君委員新井君ハ之ニ反對シ政府委員後藤君ハ豫算案ニ先チ本案ヲ決議スルノ希望ヲ述フ

委員長佐藤君　西村君ノ意見ニハ贊成者少ナキヲ以テ直ニ本案ニ付審議ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西村君委員竹内君委員野間君ハ本案ヲ否決スルノ意見ヲ述ヘ委員新井君委員久米君之ニ反對ノ意見ヲ述ヘ委員竹内君委員野間君ハ更ニ本案反對ノ理由ヲ述ヘ政府委員後藤君本案維持ノ理由ヲ述フ

委員長佐藤君　西村君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者四名　正半數

委員長佐藤君　可否同數ニ付自己ノ意見ニ依リ原案ヲ可決シタル旨ヲ告ク

委員長佐藤君　逐條ニ付審議ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員野田君ハ第五條中繰替支辨スルノ爲ノ下「一箇年以内ノ期限ヲ以テ臺灣銀行ヨリ」ノ十七字ヲ加フルノ意見ヲ述フ

委員長佐藤君　野田君ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員野田君ハ第六條ヲ削除スルノ意見ヲ述ヘ政府委員阪谷君ハ之ニ反對ノ意見ヲ述フ

委員長佐藤君　野田君ノ意見ニハ贊成者ナキヲ以テ直ニ原案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長佐藤君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後零時三十四分

報告

一臺灣事業公債法案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十八日

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙略）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十八日

臺灣事業公債法案委員長

佐藤里治

委員長　佐藤里治

理事　野間五造

○關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案（恒松隆慶君外三名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

菅原傳君	本城安次郎君	恒松隆慶君	
藤澤幾之輔君	門馬尚經君	長瀨清一郎君	
中辰之助君	村瀨庫次君	大津淳一郎君	

一明治三十二年二月十六日午後零時三十分委員參集シ年長者門馬尚經君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

菅原傳君	本城安次郎君	恒松隆慶君	
藤澤幾之輔君	門馬尚經君	長瀨清一郎君	
中辰之助君	村瀨庫次君	大津淳一郎君	

當選者左ノ如シ

委員長　恒松隆慶君

理事　門馬尚經君　藤澤幾之輔君

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後三時五分開會

出席委員左ノ如シ

恒松隆慶君			
菅原傳君	本城安次郎君	長瀨清一郎君	
藤澤幾之輔君	門馬尚經君	大津淳一郎君	

出席政府委員左ノ如シ

目賀田種太郎君

委員長恒松君　開議ヲ宣告ス

委員長恒松君　左ノ陳述ヲ爲ス

本案ハ理由書ニ詳ナル如ク重過燐酸石灰骨粉肉骨粉及血粉等ノ肥料ヲ輸入稅表中免除ノ部ニ加入シタシト云フニアレトモ此ノ他尚トウマス燐酸及骨類魚類中ニモ數多ノ免稅スヘキ肥料アリテ之ヲ一々列記スルヨリモ肥料全體ニ對シ其ノ輸入稅ヲ免除スルヲ穩當ナリト信スルヲ以テ本案中（四九九ノ次ニ「四九九ノ二重過燐酸石灰「四九九ノ三骨粉、肉骨粉及血粉」）トアルヲ（五一四ノ次ニ「五一四ノ二肥料其ノ他別項ニ揭ケサル各種ノ肥料」）ト修正スルヲ可ナリト信ス

委員長恒松君　自己ノ修正意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長恒松君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後三時三十分

報告

一關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案（恒松隆慶君外三名提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通リ修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十七日　關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律
案委員長

衆議院議長片岡健吉殿

恒松隆慶

（別紙略）

衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月十七日

委員長　恒松隆慶
理事　門馬尚經

○實業教育費國庫補助法中改正法律案（脇坂行三君外二名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十五日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

小崎義明君	脇坂行三君	青木正太郎君	
小林乾一郎君	梶野敬三君	名須川良平君	
星松三郎君	廣住久道君	鈴木文三郎君	

一明治三十二年二月十六日午後零時四十分委員參集シ年長者名須川良平君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

小崎義明君	脇坂行三君	名須川良平君
星松三郎君	廣住久道君	鈴木文三郎君

當選者左ノ如シ

委員長　名須川良平君
理事　脇坂行三君

會議

第一回　明治三十二年二月十七日午後二時三十五分開會

出席委員左ノ如シ

脇坂行三君	青木正太郎君
名須川良平君	星松三郎君

廣住久道君　鈴木文三郎君
出席政府委員左ノ如シ
上田萬年君　寺田勇吉君
委員長星君　開議ヲ宣告ス
委員鈴木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
補助ヲ受クル公立農學校ハ全國ニ幾何アルカ
政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス
補助ヲ受クル農學校ハ全國ニ十一個所アリ其ノ補助金額ハ多キハ八百圓少キハ百五十圓ニシテ其ノ所在ハ岩手縣、宮城縣、青森縣、長崎縣、新潟縣、秋田縣ニ各一個所高知縣、靜岡縣ニ各二個所其ノ他北海道ニ一個所アリ
委員名須川君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
各府縣一個所ト限リタルモノカ
政府委員寺田君　左ノ答辯ヲ爲ス
否何等ノ制限ナシ若シ必要アレハ一府縣ニ二校ニテモ補助スルコトアリ
委員鈴木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
補習學校ニモ補助ヲ與フルカ
政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス
然リ
委員長星君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
水產學校ノ如キ特別名稱アルモノニモ亦補助ヲ與フルカ
政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス
然リ
政府委員寺田君　左ノ陳述ヲ爲ス
水產學校ニモ補助ヲ與フルコトアルニ相違ナキモ農學校附屬トシテ之ヲ與フルナリ
委員長星君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
政府ニ於テハ水產業ナル二字ヲ加入スルニ不同意ナキカ
政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス
不同意ニハアラサルモ從來農業中ニ水產業ヲ包含セシメ來レリ故ニ實業教育國庫補助擴張ノ曉之ヲ加入スルモ差支ナシト考フルノミ
委員坂脇君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
農業中ニ水產ヲ含ムト云フモ政府ニ於テハ實業教育費補助ノ點ニ於テ擴張ノ精神ナレハ水產學校ニ對スル方針モ擴張改良發達ニ在ラム如何
政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス
本省ニ於テモ水產ニ付採ル所ノ方針ハ第一水產學校ヲ起スニハ教科書ヲ要ス之ヲ和漢書ニ求ムルモ適當ノモノナク之ヲ洋籍ニ求ムルモ亦完全ノモノナシ故ニ第一着トシテ教科書調製ニ着手セリ次期ニハ或ハ之ヲ發表スルヲ得ヘシ第二ニ教師ノ養成ナリ曩ニ府縣師範學校卒業生十五名ヲ農商務省水產講習所ニ入學セシメタルニ其ノ卒業生ノ現時職業ハ水產業七名郡視學一名水產講習所一名小學校教員四名就職セサル者二名ナリ已ニシテ其ノ需用ハ少ナク未タ十

分ナル進歩ト云フヲ得ス然レトモ政府ハ右ノ方針ニテ其ノ發達ヲ計ル精神ナリ

委員脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

將來ハ文部省ニテ教師養成所ヲ設立スル精神ナルカ

政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス

固ヨリ其ノ希望ナルモ三十年度ニ養成シタル教師ノ需用ノ情況ニ徹スルモ未タ獨立ノ學校ヲ設立スル時期ニアラス漸次其ノ發達ニ伴ヒ設立スルノ意見ナリ

委員青木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

水產業ナル文字ヲ加入スルモ事實ニ於テハ從來ト同一ナラムト信ス如何

政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス

之ヲ加フルモ事實上ハ差支ナシ

政府委員寺田君　左ノ陳述ヲ爲ス

水產學校ハ農業學校ト看做ストノ勅令モアリテ農業中ニ水產ヲ包含スルヤ明カナリ故ニ之ヲ改正スルモ事實上從來ト又何等ノ差異ナシ

委員脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

然ラハ改正ノ必要ナシトノ意見ナリヤ

政府委員寺田君　左ノ答辯ヲ爲ス

不賛成ナルニ非ス然レトモ既ニ水產ヲ農業ト區別セハ又養蠶學校ヲ區別スル必要生ス

委員脇坂君　政委府員ニ左ノ質問ヲ爲ス

水產業ニ付テハ輿論モ其ノ進歩ヲ希ヒ實際モ亦方ニ發達ノ途ニ在リ然ルニ政府ニ於テハ水產業ナル三文字ヲ加入スルモ從來ト異ナルコトナシト答辯セラルヽハ提出者ノ意見ハ當ニ文字ノ加入ニ止マラス實際大ニ之カ發達ヲ奬勵セムカ爲其ノ補助ヲ與フルコトヲ欲スルニ在リ此點ニ付當局者ノ意見如何

政府委員寺田君　左ノ答辯ヲ爲ス

固ヨリ之ヲ等閑ニ付スト云フニ非ス

政府委員上田君　左ノ陳述ヲ爲ス

終リニ臨ムテ一言セム事實ニ於テ之カ擴張ヲ期スルトノ提出者ノ意見ハ政府ノ大ニ賛同スル所ナリ擴張ニ伴フ補助金增加又法規ノ改正ハ來年頃ニハ政府自ラ請求スヘシ故ニ暫ク本案ヲ延期セラレムコトヲ望ム

委員青木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

十一個所一個年補助金總額及實業教育費補助金總額如何

政府委員寺田君　左ノ答辯ヲ爲ス

實業教育費補助金額ハ從來十五萬圓ナリシモ三十二年度ヨリ二十五萬圓トナレリ補助スル金額ハ宮城縣八百圓、岩手縣八百圓、青森縣三百圓、長崎縣四百圓、高知縣二百圓、秋田縣百五十圓、靜岡縣前門二百圓、同三ツ濱二百五十圓、高知縣二百五十圓、新潟縣二百五十圓、北海道二百五十圓ニシテ總計二千八百五十圓トナル

委員脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

農業學校ノ名稱ニテ水產ヲ教授スル所アルカ

政府委員上田君　左ノ答辯ヲ爲ス

福井縣農學校大分縣農學校ニハ水產科アリ

委員脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

其ノ他ノ名稱ニテ教授スル所アルカ

政府委員寺田君　左ノ答辯ヲ爲ス

文部省ノ調ヘニテハ此ノ如キ學校ナシ

委員脇坂君　左ノ陳述ヲ爲ス

本案成立スルトスルモ直ニ補助ヲ與フヘシト云フニアラス只益々水產ノ改良發達ノ奬勵ヲ欲スルニ在リ

委員長星君　採決スル旨ヲ告ク

委員梶野君　左ノ意見ヲ述フ

農工商ト云フハ本邦ノ熟語ナレハ精神ニ於テハ差異ナキモ法文ノ體裁上第二條ノ工業農業トアルヲ農業工業ト改メ本案ニ加入セムコトヲ望ム

委員脇坂君　左ノ意見ヲ述フ

精神ニ差異ナキコトナレハ梶野君ノ意見ニ同意セム

政府委員上田君　左ノ意見ヲ述フ

明治三十一年ノ議會ニ於テ商業ノ下ニ商船ト加入セリ商業ノ次ヘ水產ト加入スレハ法文體裁上不都合ナラン委員梶野君ノ加入意見ニハ政府モ同意スヘシ

委員長星君　梶野君ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長星君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後二時二十分

報告書

一實業教育費國庫補助法中改正法律案（脇坂行三君外二名提出）

右ハ本院ニ於テ「第二條第一項中」ノ次ヘ「工業農業ヲ農業工業ト改メ」ノ十二字ヲ挿入スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月十七日　實業教育費國庫補助法中改正法律案委員長

星　松三郎

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

委員長　星　松三郎

理事　脇坂行三

明治三十二年二月十七日

○肥料取締法案（利光鶴松君外三名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十六日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

石井鼎君	牧口義方君	利光鶴松君	
福田久松君	菅野善右衛門君	石谷董九郎君	
布施甚七君	松尾又雄君	小松喜平治君	

一明治三十二年二月二十日午後零時五十分委員參集シ年長者福田久松君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

牧口義方君	福田久松君	小松喜平治君	
松尾又雄君	利光鶴松君		

當選者左ノ如シ

委員長　石谷董九郎君

理事　利光鶴松君

會議

第一回　明治三十二年二月二十一日午後零時四十分開會

出席委員左ノ如シ

利光鶴松君	石井鼎君	石谷董九郎君	
福田久松君	布施甚七君	小松喜平治君	

松尾又雄君

出席政府委員左ノ如シ

和田彦次郎君

委員長石谷君　開議ヲ宣告ス

政府委員和田君　左ノ陳述ヲ爲ス

政府ニ於テモ肥料取締ノ必要ヲ感シ從テ其ノ取締法發布ノ必要ヲ認ムルヲ以テ本案ニ對シテハ敢テ異議ナキ所ナルモ唯本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムト修正アラムコトヲ望ム其ノ理由ハ本案通過ノ上ハ之ニ伴フ施行細則ヲ制定セサルヘカラス而シテ細則ヲ制定スルニ當ツテ取締上ノ取扱ノ實際ヲモ調査シ且檢査方法ニ就テハ他省トモ交渉ヲ遂ケサルヲ得サルノミナラス又外國ノ事例ヲモ參酌スルノ必要アルヲ以テ到底來ル七月一日マテニハ其ノ調査完了シ難シト信スレハナリ

政府委員和田君　委員福田君ニ左ノ質問ヲ爲ス

例ヘハ十貫目ノ肥料ヲ二分シテ各二人ニ分配スルカ如キ塲合ニハ其ノ一ヲ提出セサルヘカラサルヤニ思考ス此ノ塲合ニ第四條ノ適用アルヤ

委員福田君　左ノ答辯ヲ爲ス

然リ第四條ノ適用アリ

委員利光君　左ノ意見ヲ陳述ス

第四條中「見本トシテ」トアルハ見本ナル文字ハ法律上ノ用語ヲ爲サヽルノ感アレハ「檢査ノ爲」ト修正アラムコトヲ望ム

委員福田君　左ノ意見ヲ陳述ス
本法施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトニ修正アラムコトヲ望ム
委員長石谷君　委員利光君委員福田君ノ修正意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ
異議ナシ　可決
委員長石谷君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス乎
時午後一時

報告書

一肥料取締法案(利光鶴松君外三名提出)
右ハ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也
明治三十二年二月二十一日
肥料取締法案委員長
石谷董九郎

衆議院議長片岡健吉殿

(別紙畧)
右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル
明治三十二年二月二十一日

委員長　石谷董九郎
理事　利光鶴松

○種牡馬檢查法中改正法律案(奈須川光寶君外八名提出)委員會會議錄

委員成立
一明治三十二年二月十六日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ
吉岡直一君　草苅武八郎君　須藤善一郎君
阿部孫左衛行君　佐伯誠一郎君　橋元勗君
下飯坂權三郎君　奈須川光寶君　大津淳一郎君
一明治三十二年二月十八日午後零時三十分委員參集シ年長者吉岡直一君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス
出席委員左ノ如シ
吉岡直一君　須藤善一郎君　阿部孫左衛門君
大津淳一郎君
委員長　大津淳一郎君
理事　須藤善一郎君
當選者左ノ如シ

會議
第一回　明治三十二年二月二十日午後一時三十分開會
出席委員左ノ如シ
大津淳一郎君　草苅武八郎君　下飯坂權三郎君
橋元勗君　奈須川光寶君　佐伯誠一郎君

須藤善一郎君

出席政府委員左ノ如シ

和田彦次郎君

委員長大津君　開議ヲ宣告シ且本案ニ付政府委員ノ意見ヲ問フ

政府委員和田君　左ノ意見ヲ述フ

大體ニ付テハ不同意ヲ稱ヘス只本案ノ趣旨ニ牴觸セサル範圍ニ於テ文字ヲ改メムトスルノ意見ヲ有ス逐條審議ノ際ニ至テ述フヘシ

委員長大津君　左ノ陳述ヲ爲ス

文字修正ノ意見ハ此際述ヘラレムコトヲ望ム

政府委員和田君　左ノ修正意見ヲ述フ

現行法第一條中「此法律ニ依リ」ノ下「毎年」ノ二字ヲ加フ

第三條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但地方ノ狀況ニ依リ此年限ニ依ラサルコトヲ得

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第九條　北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ因リ農商務大臣ハ當分ノ內島嶼ニ限リ此法律ヲ施行セサルコトヲ得

第九條以下順次繰下

委員奈須川君ハ左ノ意見ヲ述フ

本員ハ政府委員ノ意見ノ如ク單ニ但書ヲ加フルノミニテハ滿足スルコト能ハス元來種牡馬ノ種付ハ三月ヨリ六月マテヲ最モ緊要ノ時期トス然ルニ從來實際ノ狀況ニ依レハ毎年三月マテニ種牡馬ノ檢査ヲ了ヘタルコトナシ爲ニ種付ノ好期ヲ失シ少カラサル不利ヲ來ス故ニ證明書ノ期限ハ之ヲ無期トシ實際ノ便利ヲ計ラレムコトヲ望ム

政府委員和田君　左ノ意見ヲ述フ

毎年一回檢査シテ適否ヲ見ル以上ハ原則トシテハ證明書ノ效力ハ之ヲ一年間ト爲サヽルヘカラス然レトモ地方ノ狀況ニ依リ此ノ年限ニ依ラサルコトヲ得ト云フ但書ヲ付スル以上ハ毫モ不都合ナカルヘシ

茲ニ於テ各委員協議ノ上政府委員ノ修正意見ニ同意スルコトニ決ス

委員長大津君　左ノ陳述ヲ爲ス

滿場一致ヲ以テ政府委員意見ノ通修正シ本案ヲ可決シタルモノト認メ異議ナキヤ

異議ナシ　可決

委員長大津君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後二時三十分

報告

一種牡馬檢査法中改正法律案（奈須川光寶君外八名提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十日

種牡馬檢査法中改正法律案委員長

大津淳一郎

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙署）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十日

委員長　大津淳一郎

理事　須藤善一郎

○外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

齋藤和平太君　岡野寛君　小倉信近君

津野常君　花井卓藏君　木村格之輔君

藤野辰次郎君　伊藤直純君　江角千代次郎君

一明治三十二年二月二十日正午十二時委員參集シ年長者岡野寛君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

齋藤和平太君　岡野寛君　小倉信近君

津野常君　花井卓藏君　木村格之輔君

藤野辰次郎君　伊藤直純君　江角千代次郎君

當選者左ノ如シ

委員長　岡野寛君

理事　花井卓藏君

會議

第一回　明治三十二年二月二十一日午前十時開會

出席委員左ノ如シ

岡野寛君　花井卓藏君

齋藤和平太君

木村格之輔君
江角千代次郎君
出席政府委員左ノ如シ
河村讓三郎君
委員長岡野君　會議ヲ宣告ス
政府委員河村君　左ノ陳述ヲ爲ス
本案ノ規定ハ内外人ノ間ニ其ノ事情ヲ異ニセルヨリ來リタルモノニシテ即チ外國人ハ其ノ書類ノ公私ニ拘ハラス決シテ印形ヲ使用スルコトナク又外國官廳ト雖モ之ヲ用ユル場合極メテ稀ナリ故ニ法令ノ規定ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ於テ本邦人ト等シク之ニ捺印ヲ强ユルハ頗ル困難ナルノミナラス到底實行シ能ハサル所ナリ又訴訟費用支拂ノ無資力證明ノ如キモ實際内地臣民ト同一ノ取扱ヲ爲スコト能ハサル事項ニ屬セリ是レ本案第一條第二條ノ規定ヲ要スルニ至リタル所以ナリ
委員藤野君　左ノ意見ヲ述フ
本案ハ何レモ至當ノ規定ナリト信スルヲ以テ速ニ可決セラレムコトヲ望ム
委員齋藤君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ齋藤君ノ意見ニ贊成ス
委員木村君　左ノ意見ヲ述フ
第一條ノ如ク法令ノ規定ニ依リ署名捺印スヘキ場合ニ内外人ノ間ニ其ノ區別ヲ設ケ特ニ外國人ニ便宜ヲ與フルノ必要ナシ殊ニ證據法上ニ於テ印形ヲ使用スルヲ以テ確實ナリト信スルヲ

以テ第一條ノ規定ニ反對スルモノナリ
委員伊藤君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ木村君ノ意見ニ贊成ス
委員花井君　左ノ意見ヲ述フ
本案ノ規定ハ今遽カニ之ヲ議スルノ必要ヲ認メサルヲ以テ須ラク諸法案ノ完備スルヲ待テ之ヲ決スルヲ可トス故ニ本案ニ反對スルモノナリ
委員江角君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ花井君ノ意見ニ贊成ナリ
委員長岡野君　委員木村君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
擧手者少數　否決
委員長岡野君　委員花井君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
擧手者少數　否決
委員長岡野君　原案ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
擧手者少數　否決
委員長岡野君　本案ニ付テハ二說アリテ何レモ贊成者過半數ニ充タサルモ本案ハ之レヲ廢棄スヘカラサルモノト認メ協議委員ヲ選定シ更ニ本案ヲ付託スヘキヤニ付異議ノ有無ヲ問フ
異議ナシ　可決
委員長岡野君　協議委員二名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ
木村格之輔君　小倉信近君　藤野辰次郎君

委員長岡野君　散會ヲ命ス于時午前十一時十五分

第二回　明治三十二年二月二十二日午後一時十分開會

出席委員左ノ如シ

岡野寬君　木村格之輔君　伊藤直純君
小倉信近君　藤野辰次郎君
出席政府委員左ノ如シ
小松原英太郎君　河村讓三郎君

委員長岡野君　開議ヲ宣告ス

委員小倉君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員ハ協議會ノ報告ヲ爲スヘシ本案ハ前會ニ於テ修正案原案共ニ過半數ノ贊成ヲ得サル爲委員長ハ三名ノ協議委員ヲ選定シ之ニ成案ヲ付託セリ而シテ之カ協議ノ結果再ヒ原案ヲ復活シ之ヲ以テ委員ノ成案ト爲スニ決セリ而シテ之ニ對シ別ニ修正ヲ加フルノ必要ヲ認メサルヲ以テ速ニ本案ヲ可決セラレムコトヲ望ム

委員伊藤君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

第三條ノ施行期日ハ之ヲ明ニ規定スルコトヲ得サルヤ

政府委員河村君　左ノ答辯ヲ爲ス

之ヲ規定スルハ容易ナルモ若シ之ヲ規定セハ本案ニ訂正ヲ加フルコトヽナリ又貴族院ニ回付セサルヘカラサルノ煩アルヲ以テ可成原案ノ儘ニ存セラレムコトヲ望ム

委員伊藤君　左ノ意見ヲ述フ

本案ニ對シ異議ナキヲ以テ可決セラレムコトヲ望ム

委員長岡野君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長岡野君　委員會ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後一時十五分

報告書

一外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律案(政府提出貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十二日　外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル法律案委員長　岡野寬

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十二日　委員長　岡野寬　理事　花井卓藏

○關稅法案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十八日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

小林乾一郎君　菅原傳君
岩瀨武司君　井上彦左衛門君
四宮有信君　鞍谷清愼君
星松三郎君

一明治三十二年二月二十日午後一時十五分委員參集シ年長者小林乾一郎君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

四宮有信君　中村榮助君
星松三郎君　井上彦左衛門君
鞍谷清愼君
菅原傳君

當選者左ノ如シ

委員長　星松三郎君
理事　四宮有信君

會議

第一回　明治三十二年二月二十一日午後二時二十分開會

出席委員左ノ如シ

井上彦左衛門君　菅原傳君
四宮有信君　岩瀨武司君
中村榮助君
星松三郎君

出席政府委員左ノ如シ

目賀田種太郎君

委員長星君　開議ヲ宣告ス

政府委員目賀田君　本案ニ付左ノ說明ヲ爲ス

現行關稅法ハ二十三年中ノ制定ニ係ルヲ以テ從テ當時諸外國トノ條約ノ範圍ニ窘束セラレ頗ル遺憾ノ感アリシモ今ヤ全ク條約改正ノ業成リ關稅ノ執行ニ付テハ全然獨立ノ地位ヲ保有スルコトヲ得タルヲ以テ幾多ノ慣例ヲ參酌シ本案ヲ制定セリ而シテ從來施行セラレタルモノト異ナリシ要點ハ第一、從來ノ開港場ナルモノヲ廢シ更ニ通過貨物ニ關スル件ヲ定メ其ノ通路ハ勅令ヲ以テ定ムルコト第二、從來貨物ニ關スル故障ハ行政官ノ判斷ニ任シタリト雖モ是等ハ特別ノ技術ヲ有スル者ヲシテ判定セシムルヲ可ナリト信シ之カ委員會ヲ設クルコトヽ爲セリ其ノ他從來ノ手續ニ關スル事項中繁冗ト認ムル點及稅關長ノ職權ニ關シ改正シタルモノ多シ然リ無シ

委員四宮君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

通過貨物ニ關スル規定ヲ設クルハ取締上一層困難ヲ招クニ非スヤ

政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス

擔保ヲ供セシムルヲ以テ此ノ憂ナシ

委員井上君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
葉煙草專賣法實施トナルトキハ營業者ノ需メニ應スルニ差支ナキヤ
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
差支ナシ
委員井上君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
第三條ニ於テ輸入申告ノ日ノ法規ニヨリ徵收ストアルハ保稅倉庫規則ニ牴觸セサルヤ
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
牴觸セス
委員中村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
政府委員ハ本案第三條ハ葉煙草專賣法ト全ク關係ナシト認ムルヤ
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
葉煙草專賣法ハ外國葉煙草ノ輸入ヲ禁スルモノニシテ本案第三條ハ輸入シ得ラルヽモノニ付適用スヘキ法規ヲ定メタルモノナレハ全ク關係ナシ
委員長星君　散會ヲ命ス于時午後二時四十五分
第二回　明治三十二年二月二十二日午後四時二十分開會
出席委員左ノ如シ

井上彦左衛門君　菅原傳君　四宮有信君
中村榮助君　小林乾一郎君　岩瀨武司君
星松三郎君

出席政府委員左ノ如シ

目賀田種太郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席セル者左ノ如シ

大藏書記官金子直君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長星君　開議ヲ宣告ス
委員井上君ハ專賣品庫置キニ關スル期間ノ件ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員目賀田君答辯ヲ爲ス
委員菅原君　第三條但書ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ大藏書記官金子直君答辯ヲ爲ス
委員井上君ハ第百三條ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員目賀田君答辯ヲ爲ス
委員中村君第三條保稅倉庫ノ件ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員目賀田君答辯ヲ爲ス
大藏書記官金子君ハ本案ノ主趣ニ付大體ノ說明ヲ爲ス
委員菅原君ハ保稅倉庫ニ庫入ノ日關稅ヲ納付スルヤ否ヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ大藏書記官金子君答辯ヲ爲ス
委員井上君第三十九條ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ大藏書記官金子君答辯ヲ爲ス
委員井上君ハ外國貨物ニ件ノ付政府委員ニ質問ヲ爲シ大藏書記官金子君答辨ヲ爲ス
委員長星君　散會ヲ命ス于時午後四時五十分
第三回　明治三十二年二月二十四日午後三時十五分開會
出席委員左ノ如シ

井上彦左衛門君　中村榮助君　星　松三郎君
四宮有信君　小林乾一郎君　菅原傳君
鞍谷清愼君

出席政府委員左ノ如シ
目賀田種太郎君

委員長星君　開議ヲ宣告ス
委員菅原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
通過稅ヲ課スルノ可否如何
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
屢外國ノ疎成品ヲ輸入シ內地ニ於テ之ニ製作ヲ加ヘ之ヲ他ニ輸送スルハ經濟上明ニ本國ノ利益ナルヲ以テ政府ハ將來通過稅ヲ課セス以テ外國ノ疎成品ノ輸入ヲ奬勵スルノ精神ナリ
委員菅原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
第三條ノ稅金徵收期如何
政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス
施行細則ヲ以テ規定スルノ計畫ナリ然レトモ命令ヲ以テ定ムルモ差支ナカルヘシ
委員菅原君　左ノ陳述ヲ爲ス
通過稅ヲ課スルノ適否ハ經濟上ノ問題ニシテ而シテ本員ハ經濟上ヨリ之ヲ打算シテ寧ロ賦課スルノ適當ト認ム殊ニ現今條約ニ於テ之ヲ課セサルコトヲ定ムルモ本員ハ進ムテ是等ノ條約ハ總テ之ヲ改正セラレムコトヲ望ム又第三條ノ課稅倉庫ニ關スル規定中庫入申告ノ日ハ二樣

ノ意義即チ一ハ倉入ノ日一ハ倉庫ヨリ引出ノ日ニモ解セラルヽノ疑アレハ施行細則ニ於テ明ニ規定ヲ設ケラレムコトヲ望ム
委員中村君　左ノ陳述ヲ爲ス
保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ニ付テノ規定ハ現行法ニ比シ頗ル不備ニシテ或ハ爲ニ行政訴訟ノ起ルヤモ保シ難シ故ニ此ノ點ニ付テハ他ノ法律ヲ以テ充分ニ之ヲ補ハレムコトヲ望ム而シテ本法ハ性質並ニ事實上ヨリ論スレハ適當ナリト信ス
委員長星君　原案全體ニ付異議ノ有無ヲ問フ
異議ナシ　可決
委員長星君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後三時四十分

報告書

一關稅法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候ニ付此段及報告候也
明治三十二年二月二十四日

關稅法案委員長
星　松三郎

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル
明治三十二年二月二十四日

委員長　星　松三郎

理事　四宮有信

○郡制改正法律案(政府提出)及府縣制改正法律案(同上)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月十八日議長ノ指命ヲ以テ本會ノ委員十八名ヲ選定ス其氏名左ノ如シ

多田作兵衛君	西谷金藏君	後藤文一郎君	
千田軍之助君	粕谷義三君	武市庫太君	
大野龜三郎君	河北勘七君	田口卯吉君	
望月長夫君	高川定次郎君	新開貢君	
江島粂雄君	工藤行幹君	喜多川孝經君	
佐々木正藏君	西川卯吉郎君	北田豐三郎君	

一明治三十二年二月二十日午後一時委員參集シ年長者多田作兵衛君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

西谷金藏君	後藤文一郎君	千田軍之助君
粕谷義三君	武市庫太君	新開貢君
北田豐三郎君	喜多川孝經君	佐々木正藏君
河北勘七君		

當選者左ノ如シ

委員長　多田作兵衛君
理事　粕谷義三君

會議

第一回　明治三十二年二月十九日午前十時五十八分開會

出席委員左ノ如シ

西谷金藏君　後藤文一郎君　千田軍之助君
柏谷義三君　武市庫太君　新開貢君
北田豐三郎君　喜多川孝經君　佐々木正藏君
河北勘七君

出席政府委員左ノ如シ

深野一三君　一木喜德郎君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ揭ク）

委員長多田君　開議ヲ宣告シ且郡制第一章總則全體ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第三條第二項ノ「所屬未定地」トハ如何ナル性質ノ地所ナリヤヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員新開君委員武市君ハ本案第二條ト府縣制第二條ト文字ノ異ナル點ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第二章第四條ヨリ第六條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第六條ノ選舉權ト被選舉權トニ納稅ノ額ニ等差ヲ置タル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員柏谷君ハ第五條第三項ヲ置タル理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員後藤君ハ議員ノ數ヲ十五人以上三十八以下ト定メタル標準ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君ハ全國中一郡三十箇村以上ヲ有スル郡ノ數ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ全國總村數及役場數ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第七條ヨリ第九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員柏谷君ハ第八條第三項ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第六條第八項ヲ置タル理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員後藤君ハ第九條ニ於テ選舉通知ヲ發スルニ「少クトモ七十日前」トシタル理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第十條第十一條ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員新開君ハ第十一條第三項ノ適例ヲ政府委員ニ質問シ政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第十一條第十項ノ適例ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第十二條ヨリ第十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員柏谷君ハ第十五條第二項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員後藤君ハ第十五條第五項ニ違背シタル者ノ制裁ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員柏谷君ハ第十五條ノ投票用紙ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員後藤君ハ第十五條第六項ノ場合ニ於テ代書投票ノ効力ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第十六條ヨリ第二十條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員北田君ハ第十六條第二項第二第三ノ場合ハ幾部無効トシタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員武市君ハ第十六條第四項ノ敬稱ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員喜多川君ハ第十六條第二項ノ幾部無効ノ中ニ第四ヲ加ヘサリシ理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第二十一條ヨリ第二十三條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第二十四條ヨリ第二十八條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ代書投票ノ事實カ開票前ニ明白ナル場合ニ於テ如何ニ處理スヘキヤニ付政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員高川君ハ第二十一條第二項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員粕谷君ハ第二十六條ノ被選權ヲ有セサルモノ及後ニ至リ被選權ヲ失ヒタルモノヽ兩者ヲ含ムヤ否ヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第三十條ヨリ第三十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第三十一條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員後藤君ハ第三十四條制定ノ理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君ハ本案大體ニ付質問スヘキコトアルヲ以テ發言ヲ求メ委員長多田君之ヲ許可ス

委員佐々木君ハ郡制全廢說ニ對スル政府ノ意見及本案ニ大地主制ヲ廢シタル理由郡會議員ヲ一般選擧ニ改メタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第三十六條ヨリ第四十三條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員後藤君ハ第三十八條ニ於テ郡會ノ通常會ノ會期ヲ十四日以內ト定メタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員新開君ハ第四十二條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第三十八條ノ十四日ヲ短縮スルニ付政府ノ意向ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君ハ現在郡制ヲ施行セル府縣ノ數及本案ノ投票ハ單記聯記何レノ制ヲ採レルヤヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第四十四條ヨリ第五十二條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員粕谷君ハ第四十七條中「處分」ノ文字ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員北田君ハ第五十一條中會議錄ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　休憩ヲ命ス于時午後零時十三分

休憩

委員長多田君　開議ヲ宣告ス于時午後一時六分

委員喜多川君ハ本案大體ニ付質問ヲ爲ス旨ヲ告ケ郡ヲ自治體ト爲スノ必要ニ付政府ニ於テ取調ヘタル所ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員多田君　第五十三條ヨリ第五十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員佐々木君ハ名譽職參事會員ノ被選資格ヲ郡會議員ニ限リタル理由ヲ政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第五十六條ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君委員新開君ハ本條第五號ノ解釋幷ニ現行法ノ規定ヲ改メタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君政府委員深野君答辯ヲ爲ス

委員長多田君ハ本條第四號ノ「重要」ノ文字ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員高川君ハ郡會規則營造物管理法等立案ノ標準ハ豫メ内務大臣ヨリ訓示スルヤ否ヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第五十七條ヨリ第六十一條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第五十七條ノ檢查委員ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第五十九條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員柏谷君ハ第五十九條第二項制定ノ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員柏谷君ハ第六十一條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員高川君ハ第六十條制定ノ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第六十二條ヨリ第六十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君委員長多田君委員高川君ハ第六十三條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員武市君ハ臨時議長ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第六十六條ヨリ第七十條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員喜多田君ハ第六十六條第六號ノ解釋ニ付政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員新開君ハ第六十七條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第七十一條ヨリ第七十九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員柏谷君ハ第七十一條ノ停會日數ニ最長限ヲ示サヽリシ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第八十條ヨリ第八十四條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君ハ第八十一條ノ「實費」ノ意義ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員武市君ハ第八十二條ノ支給方法ニハ郡會ノ議決ヲ要シ第八十條ノ場合ニハ要セサル規定ヲ置タル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第八十五條ヨリ第九十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ告ク

委員柏谷君ハ第九十二條第二項第三項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第九十五條ヨリ第九十九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員新開君ハ第九十一條第九十二條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君ハ第九十一條ノ適例ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員深野君政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君委員後藤君ハ委員高川君第九十二條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第九十五條ヨリ第百四條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第九十五條末項ヲ置タル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百五條ヨリ第百十九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第百五條ノ「特定」ノ意義ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君ハ第百十六條第二號ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第百五條ノ場合ニ於テ郡參事會ノ意見ヲ徵スルコトヲ要スト規定シタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員新開君ハ郡會カ決算審査ノ報告ヲ法律命令ニ違背セリト認ムルトキハ如何ニ處決スルヤノコトヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百二十條ヨリ第百二十九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員佐々木君ハ郡制施行ノ上ハ郡事業一ツモナキ場合ニ於テモ尚機關ノ設備ヲ要スルヤ否ヤヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員喜多川君ハ大體ニ付質問ヲ爲ス旨ヲ告ケ政府郡制發布ノ必要ヲ認メタル理由ヲ詳細ニ答辯セラレムコトヲ求メ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君　半數改選ヲ認メタル必要ノ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　郡制ノ質問ヲ了リタルヲ以テ散會ヲ命ス于時午後二時四十八分

第二回　明治三十二年二月二十日午前十時五十五分開會

出席委員左ノ如シ

多田作兵衛君　西谷金藏君　後藤文一郎君
千田軍之助君　粕谷義三君　武市庫太君
大野龜三郎君　河北勳七君　田口卯吉君
望月長夫君　高川定次郎君　新開貢君
江島衆雄君　工藤行幹君　喜多川孝經君
佐々木正藏君　西川卯吉郎君　北田豐三郎君

出席政府委員左ノ如シ

松平正直君　深野一三君　一木喜德郎君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長多田君　開議ヲ宣告シ且ツ府縣制第一條ヨリ第三條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ第二條ノ「慣例」ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第四條ヨリ第六條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ議員ノ數ヲ三十人ト定メタル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員工藤君ハ本案ニ於テハ衆議院議員選舉法改正案ニ反シ被選資格ニ十圓以上ノ納稅ヲ要件トシタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員北田君委員望月君ハ第五條第二項第三項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員望月君委員北田君委員田口君ハ第六條第九項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第七條ヨリ第十二條ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ選擧人名簿ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第十四條ヨリ第十八條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ投票自署制ヲ採リタル理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第十九條ヨリ第二十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第二十六條ヨリ第三十一條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第三十二條ヨリ第三十九條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第十五條第三項及第十九條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第四十條ヨリ第四十七條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ第四十一條第四號「讓受」中ニハ寄付ヲ包含スルヤ否ヤ及第四十三條ノ所謂法律命令ノ存否ニ付政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員望月君委員喜多川君委員西谷君委員長多田君委員佐々木君ハ第四十四條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員高川君ハ第四十七條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第四十八條ヨリ第五十五條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ第三十條第三項制定ノ理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第五十六條ヨリ第六十一條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第五十九條ノ「處分」ヲ「執行」ト改ムルニ付政府委員ノ意見ヲ質問シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第六十二條ヨリ第六十四條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第六十五條ヨリ第六十七條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君委員後藤君委員北田君委員田口君委員長多田君委員高川君ハ第六十五條第一項第二項ノ解釋又ハ適用ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員多田君　第六十八條ヨリ第七十四條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君委員長多田君委員新開君委員佐々木君委員江島君ハ第六十八條第五號ノ解釋又ハ適用ニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員深野君政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員望月君ハ府縣會若クハ府縣規則ノ議決權ヲ第六十八條ニ加ヘサリシ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員田口君ハ府縣制ニ於ケル府縣知事ノ資格ノコトニ關シ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第七十五條ヨリ第七十七條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第七十八條ヨリ第八十二條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ第八十二條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員千田君ハ第七十八條第七號委員田口君ハ同條第六號ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第八十三條ヨリ第九十二條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第八十七條ノ「專決處分」ノ意義ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第九十三條ヨリ第九十七條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員田口君ハ第九十三條ノ有給吏員ノ性質ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員武市君ハ第九十六條第一項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第九十八條ヨリ第百六條迄ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第百三條第百五條ノ解釋ニ付及第百六條「特定行爲」ノ意義ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員佐々木君　第百三條第二項ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員北田君ハ第百三條ノ適用及第百四條ニハ法人ヲ含ムヤ否ヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百七條乃至第百十三條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員武市君ハ第百八條ノ解釋ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百十四條ヨリ第百十七條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君ハ第百十四條制定ノ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百十八條ヨリ第百二十六條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員望月君ハ第百十六條第二項ノ適用ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員望月君ハ第百十二條ノ適用ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員喜多川君ハ第百十六條ノ適用ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百二十七條ヨリ第百三十一條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長多田君　第百三十二條ヨリ第百三十六條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員喜多川君ハ第百三十三條第三號第五號ノ加キハ府縣知事ニ委任スルニ於テ如何ナル差支ヲ生スルヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員西谷君ハ第百三十三條第四號ノ適用ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　第百三十七條ヨリ末條マテニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員後藤君ハ第百三十七條制定ノ理由ヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員新開君ハ營造物ノ中ニハ堤防モ包含スルヤ否ヤヲ政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員一木君答辯ヲ爲ス

委員長多田君　質問終了シタルヲ以テ休憩ヲ命ス

休憩　午後零時四十八分

委員長多田君　會議ヲ宣告ス

委員長多田君　第一條ヨリ第三條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ニ可決シタル旨ヲ告ク

委員長多田君　第四條ヨリ第六條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員後藤君ハ第五條中「七十萬未滿」トシ「七十萬以上」トアルヲ「五十萬以上」トシ「五十萬未滿」トアルヲ「三萬ヲ加フル每ニ」トシ「七萬ヲ加フル每ニ」トアルヲ

午後三時十五分

「五萬ヲ加フル毎ニ」ト修正セムトノ意見ヲ述フ
委員千田君ハ人口七十萬未滿ハ議員三十五人ト修正シ他ハ後藤君ノ修正說ニ同意スル旨ヲ述フ
委員佐々木君ハ後藤君ノ修正說ノ「百萬以上ハ五萬ヲ加フル毎ニ」トシタルヲ「五十萬以上ハ三萬ヲ加フル毎ニ」ト修正セムトノ意見ヲ述フ
委員長多田君　委員千田君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者多數　可決
委員長多田君　委員佐々木君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者少數　否決
委員長多田君　委員後藤君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者多數　可決
委員後藤君ハ第六條第一項中「府縣會議員ノ選擧權」ノ下「及被選擧權」ノ五字ヲ加ヘ第二項ヲ削除セムトノ意見ヲ述フ
委員望月君ハ第九項中「府縣ノ爲請負ヲ爲ス者」ノ下「又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員」ノ十六字ヲ加ヘ他ハ委員後藤君ノ修正說ニ賛成スル旨ヲ述フ
委員江島君ハ第二項ノ年額十圓トアルヲ五圓ト修正セムトノ意見ヲ述フ
委員長多田君　委員後藤君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者少數　否決
委員長多田君　委員江島君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者少數　否決

委員長多田君　原案ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者少數
委員長多田君　委員長ノ意見ヲ以テ原案ニ可決シ望月君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者多數　可決
委員長多田君　第四條ハ異議ナキヲ以テ原案ニ可決シ第七條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク
委員佐々木君ハ半數改選ノ制ヲ廢シ四年毎ニ總改選ヲ爲スコトニ修正セムトノ意見ヲ述フ
委員長多田君　委員佐々木君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者少數　否決
委員長多田君　第七條ハ原案ニ可決シ第八條ヨリ第十七條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク
委員粕谷君ハ第十五條第二項ノ「三日前」トアルヲ「五日前」ト修正セムトノ意見ヲ述フ
委員長多田君　異議ナキヲ以テ粕谷君修正說ニ可決シ他ハ原案ニ可決シ第十八條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク
委員後藤君ハ第二項ヲ削除セムトノ意見ヲ述フ
委員長多田君　異議ナキヲ以テ委員後藤君ノ修正意見ニ可決シタル旨ヲ告ク
委員佐々木君ハ無記名投票制ヲ記名投票制ニ改メムトノ意見ヲ述フ
政府委員一木君委員西谷君委員後藤君ハ反對意見ヲ述ヘ委員千田君委員望月君ハ賛成意見ヲ述フ
委員長多田君　委員佐々木君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル
　擧手者多數　可決

委員長多田君　第十九條ヨリ第二十七條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　第二十七條ハ第十八條修正ノ結果文字ニ修正ヲ加フルコトヽシ他ハ異議ナキヲ以テ原案ニ可決シタル旨ヲ告ク

委員長多田君　第二十八條ヨリ第四十條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ニ可決シタル旨ヲ告ク

委員長多田君　第四十一條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員千田君ハ教育、衛生、土木、警察等地方經濟ニ關スル府縣會モ府縣會ノ議決事件トセムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　委員千田君ノ修正說ハ後ニ議スルコトヽシ第四十二條ヨリ第五十マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ニ可決シ第五十一條ヨリ第五十五條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第五十六條ヨリ第六十四條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ニ可決シ第六十五條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第六十六條ヨリ第六十八條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第六十八條第五號中「工事ノ執行ニ關スル規定」ノ下「其ノ他重要ナル事項」ノ九字ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

委員江島君ハ賛成意見ヲ委員大野君ハ反對意見ヲ述フ

委員長多田君　委員西谷君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員長多田君　第六十九條ヨリ第九十四條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員後藤君ハ第九十四條中ノ「實費」トアル文字ヲ悉ク「費用」ト改メムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ委員後藤君ノ修正說ニ及他ハ原案ヲ可決シ第九十五條第九十六條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員後藤君ハ本條ニ於テモ「實費」ヲ「費用」ニ改メムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ委員後藤君ノ修正說ニ可決シ第九十八條ヨリ第百六條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第百七條ヨリ第百十二條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第百十三條ヨリ第百三十三條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第百三十四條ヨリ第百三十六條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第百三十七條ヨリ第百四十二條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第百四十二條第二項トシテ左ノ趣意ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

「本法發布ノ日ヨリ施行ノ日ニ至ル迄ノ間ニ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス其議員ハ本法施行ノ日迄在職スルモノトス」

委員長多田君　異議ナキヲ以テ西谷君ノ修正說ニ及他ハ原案ヲ可決シ第百四十三條ヨリ第百四十七條迄ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ニ可決シ第四十一條ノ千田君修正說ヲ議スル旨ヲ告ク

此間各委員協議ノ上委員千田君ハ右ノ修正說ヲ撤回スル旨ヲ述フ

委員長多田君　府縣制改正法律案ハ議了シタルヲ以テ郡制改正法律案ニ移リ第一條ヨリ第三條迄ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第四條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第五條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員後藤君ハ第一項ノ次ニ「特別ノ事情アル郡ニ於テハ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十八マテ增加スルコトヲ得」ノ一項ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ委員後藤君ノ修正說ニ可決シ第六條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員望月君ハ第二項ヲ削除シ第一項「郡會議員ノ選擧權」ノ下ニ「及被選擧權」ノ五字ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　委員望月君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員粕谷君ハ本條ノ末項「郡ノ爲請負ヲ爲ス者」ノ下「又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員」ノ十六字ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ粕谷君修正說ノ通可決シ第七條ヨリ第十五條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員佐々木君ハ投票ハ府縣制ト同ク記名ニ改メムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ佐々木君修正說ノ通可決シ及他ハ原案ヲ可決シ第十六條ヨリ第二十二條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ可決シ第二十三條ヨリ第五十四條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員佐々木君ハ第五十四條第一項名譽參事會員ハ郡會議員互選ノ制ヲ廢シ一般公民ヨリ選擧スルコトニ修正セムトノ意見ヲ述ヘ委員粕谷君ハ反對意見ヲ述フ

委員長多田君　委員佐々木君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長多田君　第五十五條第五十六條ヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員武市君ハ第五十六條第五號ヲ府縣制ト同一ノ精神ニ改メ其ノ文字ハ左ノ如クセムトノ意見ヲ述フ

「及ヒ工事ノ方法順序ニ關シ重要ノ事項」

委員粕谷君委員望月君ハ武市君ノ文字修正說ニ反對意見ヲ述フ

委員長多田君　武市君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長多田君　第五十七條ヨリ第五十六條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第七十一條ヨリ第八十四條マテヲ議題ニ供スル旨

ヲ告ク

委員後藤君ハ第八十一條中「實費」トアルヲ「費用」ト改メ「職務ヲ取扱フ爲」トアルヲ「職務ノ爲」ト修正セムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ委員後藤君修正說ヲ可決シ及他ハ原案ニ可決シ第八十五條ヨリ第九十九條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員佐々木君ハ第九十條中「直接國稅」ノ四字ヲ削除セムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　佐々木君ノ修正意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長多田君　凡テ原案ヲ可決シ第百條ヨリ第百七條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第百五條中「郡參事會ノ意見ヲ徵シ」トアルヲ「郡會ノ意見ヲ徵シ」ト修正セムトノ意見ヲ述ヘ委員後藤君ハ第百六條モ同樣ノ修正ヲ爲サムトノ意見ヲ述ヘ委員新開君ハ反對意見ヲ述フ

委員長多田君　委員西谷君委員後藤君ノ修正說ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長多田君　凡テ原案ヲ可決シ第百十九條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員長多田君　異議ナキヲ以テ原案ヲ可決シ第百二十條ヨリ第百二十九條マテヲ議題ニ供スル旨ヲ告ク

委員西谷君ハ第百二十四條ニ府縣制ト同樣ノ修正ヲ加ヘムトノ意見ヲ述フ

委員長多田君　異議ナキヲ以テ第百二十四條ハ委員西谷君修正說ノ通他ハ原案ヲ可決シタル旨ヲ告ク

委員長多田君　郡制府縣制兩案共議了シタルヲ以テ字句ノ修正ハ委員長ニ委任サレタルモノト異議ナキヤヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長多田君　閉會ヲ命ス于時午後五時三分

報告

一府縣制改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十日

衆議院議長片岡健吉殿

府縣制改正法律案委員長

多田作兵衛

（別紙畧）

報告

一郡制改正法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十日

衆議院議長片岡健吉殿

郡制改正法律案委員長

多田作兵衛

（別紙畧）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十日

委員長　多田作兵衛

理事　粕谷義三

○小學校教育費國庫補助法案（大隈英麿君外三名提出）及小學校教育費國庫補助法案（根本正君外八名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

大隈英麿君　工藤行幹君　安部井磐根君

三田村甚三郎君　根本正君　安藤龜太郎君

下飯塚權三郎君　鈴木儀左衛門君　三輪傳七君

一明治三十二年二月二十一日午後零時十五分委員參集シ大隈英麿君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

大隈英麿君　安藤龜太郎君

下飯塚權三郎君　三輪傳七君

當選者左ノ如シ

委員長　安部井磐根君

理事　安藤龜太郎君

會議

第一回　明三十二年二月二十二日午後零時三十七分開會

出席委員左ノ如シ

工藤行幹君　三田村甚三郎君

大隈英麿君

根本正君　安藤龜太郎君
鈴木儀左衛門君　三輪傳七君
下飯塚權三郎君

出席政府委員左ノ如シ
澤柳政太郎君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長代理安藤君　開議ヲ宣告シ委員工藤君ヲ委員長代理トシ今日ノ議事ヲ整理セシムルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長代理工藤君　委員長席ニ就ク

委員根本君ハ此ノ二案ヲ一括シテ議題ニ付セムトノ意見ヲ述ヘ委員下飯塚君委員安藤君賛成ノ旨ヲ述フ

委員長代理工藤君ハ補助金ノ給與ニ關シ此ノ二案ノ間ニ異ナル點アルヲ以テ先ツ二案中何レヲ採用スヘキカヲ決議セムトノ宣告ヲ爲ス

委員根本君ハ自己提出ニ係ル法案ヲ採用セラレムコトヲ望ム旨ヲ述ヘ委員安藤君ハ委員根本君ノ意見ニ賛成ノ旨ヲ述フ

委員三輪君ハ速ニ採決ヲ望ム旨ヲ述フ

委員長代理工藤君ハ根本君提出ノ案ヨリ採決スル旨ヲ告ク

委員三田君ハ根本君等提出ニ係ル議案ノミヲ議決セムトノ意見ヲ述フ

委員長代理工藤君ハ委員根本君提出案第二條削除ノ意見ヲ述フ

委員根本君ハ委員代理工藤君ノ修正意見ニ賛成ノ旨ヲ述フ

委員長代理工藤君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長代理工藤君　閉會ヲ命ス于時午後一時三分

報告

一小學校教育費國庫補助法案（大隈英麿君外三名提出）
一小學校教育費國庫補助法案（根本正君外八名提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十二日

小學校教育費國庫補助法案委員長代理
工藤行幹

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙略）

衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十二日

委員長　安部井磐根
理事　安藤龜太郎

○信用組合設置ニ關スル建議案（中埜廣太郎君外四名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

田邊爲三郎君	喜多川孝經君	內山松世君	
寺田彥太郎君	中埜廣太郎君	青木正太郎君	
田中喜太郎君	永江純一君	林元俊君	

一明治三十二年二月二十一日正午十二時委員參集シ年長者寺田彥太郎君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

林元俊君	田中喜太郎君	內山松世君	
青木正太郎君	永江純一君	寺田彥太郎君	
喜多川孝經君	中埜廣太郎君	田邊爲三郎君	

當選者左ノ如シ

委員長　寺田彥太郎君

理事　田邊爲三郎君

會議

第一回　明治三十二年二月二十三日午後一時十二分開會

出席委員左ノ如シ

寺田彥太郎君　田邊爲三郎君　中埜廣太郎君

內山松世君　永江純一君　林元俊君

青木正太郎君　田中喜三郎君　喜多川孝經君

出席政府委員左ノ如シ

藤田四郎君

委員長寺田君　開議ヲ宣告ス

委員中埜君　左ノ陳述ヲ爲ス

信用組合設備ノ產業ノ改良進步ヲ計ル一良手段タルハ既ニ世間ノ定論トス而シテ今日其ノ設備ナキハ實ニ生產界ノ一大缺典ト云ハサルヘカラス是本員等カ本案ヲ提出シテ信用組合法案ノ提出ヲ政府ニ求ムル所以ナリ

委員長寺田君　本案ニ付異議ノ有無ヲ無フ

異議ナシ　可決

委員長寺田君　本案ノ審查終了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後一時二十五分

報告

一信用組合設置ニ關スル建議案（中埜廣太郎君外四名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十三日　信用組合設置ニ關スル建議案委員長

寺田彥太郎

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十四日

委員長　寺田彦太郎

理事　田邊爲三郎

○國事犯罪者家祿賞典祿處分法案（關信之介君外十五名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十日議長ノ指名ヲ以テ本會委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

菊地九郎君　大津淳一郎君　首藤陸三君

關信之介君　千田軍之助君　小田貫一君

多田通君　原田赳城君　和泉邦彦君

一明治三十二年二月二十一日午後一時二十分委員參集シ年長者和泉邦彦君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

大津淳一郎君　關信之介君　千田軍之助君

小田貫一君　和泉邦彦君

當選者左ノ如シ

委員長　關信之介君

理事　大津淳一郎君

會議

第一回　明治三十二年二月二十二日午後四時二十分開會

出席委員左ノ如シ

菊地九郎君　大津淳一郎君　首藤陸三君

關信之介君　小田貫一君　原田赳城君

和泉邦彦君

出席政府委員左ノ如シ

田尻稻次郎君　松尾臣善君

委員長關君　開議ヲ宣告ス

委員首藤君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員ハ提出者ノ一人トシテ提出ノ理由ヲ述ヘムニ明治二十七年法律第二十號ハ國事ニ關スル犯罪ノ爲ニ諸祿ヲ沒收セラレタル者ニ復祿ノ恩典ヲ與ヘタリ然ルニ該法律ハ藩制廢止ヲ分界トシテ刑ノ宣告ノ遲速ニ依リ復祿ノ恩典ニ浴スルト否トノ差異ヲ生セリ新ノ如キハ固ヨリ其ノ當ヲ得タルモノト云フヲ得サルヲ以テ茲ニ明治二十七年法律第二十號ノ恩典ニ洩レタルモノニ其ノ恩典ニ與カルコトヲ得セシメム爲ニ茲ニ本案ヲ提出シタリ本案ヲ實施スルモ其ノ恩典ニ浴スル者ハ千名以内ニテ其ノ金額大凡三十一萬四千五百餘圓ニ過キサレハ速ニ協賛ヲ與ヘラレムコトヲ望ム

政府委員松尾君　左ノ陳述ヲ爲ス

明治二十七年法律第二十號ハ藩制廢止ヲ分界トシテ復祿ノ恩典ヲ與ヘキ者ト否ヲ別チタルカ爲假令明治二十二年ノ大赦ニ依リ復族セシ者ト雖モ其ノ廢止以前ニ係ルモノハ該法律ノ趣旨ニ適ハサルヲ以テ政府ニ於テ又復祿スルノ理由ナシ故ニ政府ハ本案ニ反對セサルヲ得ス

委員首藤君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

同一國事ニ關スル犯罪ニシテ曩ニ佐賀藩士其ノ他ノ者ニ復祿ノ恩典ヲ與ヘタル理由如何

藩制廢止前ハ祿ノ與奪ハ藩主ノ全權ニ屬シ其廢止後ニ至リ法令ヲ以テ之ヲ處分スルコトヽナリタルヲ以テ明治二十七年法律第二十號モ亦藩制廢止ノ前後ヲ以テ復祿ヲ與フルト否トノ畛域ヲ分テリ從テ法律ノ下ニ立チ法律ヲ執行スヘキ職掌アル行政官ノ處置トシテハ法律ノ命スル所ニ從ヒ刑ノ宣告遲速ノ爲ニ恩典ヲ與フルト否トヲ決スルハ亦止ムヲ得サル所ナリ

委員首藤君　左ノ陳述ヲ爲ス

同一國事ニ關スル犯罪ニシテ刑ノ宣告遲速ノ爲ニ恩典ニ浴スルヲ得ルト否トノ差異ヲ生スルハ明治二十七年法律第二十號制限ノ結果ナリ行政官ノ處置トシテハ政府委員ノ說明ノ如クナルモ提出者ノ意見ハ其ノ不公平ヲ矯正セムトスルニ在リ

政府委員松尾君　左ノ意見ヲ述フ

首藤君ノ意見ハ明治三年九月十日ノ藩制廢止ヲ分界トシタル爲不公平ヲ生スルト云フニアルモ法律論トシテハ此分界ヲ置クハ實ニ止ムヲ得サルモノナリ明治三年九月十日以前ニアリテハ祿ノ與奪ハ一ニ藩主ノ全權ニアリタルヲ以テ若シ藩主カ其ノ權能ニ基キ既ニ正當ニ處分ヲ爲セシモノニモ猶復祿セシムルコトヽセハ又他ノ正當ノ權能ニ基キ適法ニ處分セル事項ニ付テモ更ニ再處分ヲ爲サヽルヘカラサルニ至リ遂ニ底止スル所ナキニ至ルヘシ故ニ政府ハ本案ニ賛成スル能ハス

委員大津君　左ノ陳述ヲ爲ス

舊藩主カ既ニ處分ヲ爲シタルモノニ付一々再處分ヲ爲ストセハ事或ハ不能ニ屬セム然レ𪜈本案ハ舊藩主ノ處分シタルモノヲ悉ク處分スルト云フニアラス王政維新ノ際國事ニ關スル犯罪ノ爲沒祿セラレタル者ノ復祿ヲ求ムルニ在リ其區域モ自ラ明カニシテ其ノ取調亦何等ノ困難

ナシト信ス然ラハ均シク復族セラレタルモノニ對シ一部ニ復祿ノ恩典ヲ與ヘテ他ニ與ヘサルノ理由ナキヤ明カナリ

委員長關君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ大赦令ニ依リ既ニ復族セラレタル以上ハ法理上既往ニ遡リテ全然罪ナキモノナレハ其ノ復族ト同時ニ復祿セシムヘキモノト信ス

政府委員松尾君　左ノ意見ヲ述フ

罪ナシト云フニアラス宥恕サレタルノミ

委員首藤君　左ノ陳述ヲ爲ス

此ノ法案ヲ實施スルモ亦政府委員ノ答辯ノ如キ憂ナシト信スルヲ以テ敢テ政府ノ同意ヲ望ム爲ス

委員小田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

政府委員ハ舊藩主カ其ノ全權ノ下ニ處分セシモノニ對シ更ニ復祿ノ處分ヲ爲セハ亦際限ナカルヘシト論スルモ本案ハ維新ノ際國事ニ關スル犯罪ノ爲沒祿サレタルモノヲ他ノ復祿ヲ受ケタルモノト同一ノ恩典ニ浴セシメムトスルニ在リ依テ第一條ニ明治元年以後ト加入スルモ政府委員ノ憂フルカ如キ理由ナケレハ政府委員モ亦同意スルナラム如何

政府委員松尾君　左ノ答辯ヲ爲ス

明治二十七年法律第二十號ノ趣旨ニ反スルヲ以テ同意シ難シ

委員原田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ノ場合ト同一ノ犯罪ヲ犯シ大赦ヲ與ヘラレ復族ト同時ニ復祿セラレタル者アルカ其ノ有無ハ事實取調ノ上ニアラサレハ答辯シ難シ

委員首藤君　左ノ陳述ヲ爲ス

仙臺ニテ復族セシ者ハ三十九人其ノ內ニテ復祿セシモノ三十八人殘一人ハ明治三年八月ニ刑ノ宣告ヲ受ケタル爲此恩典ニ浴セサリシナリ

委員原田君　左ノ意見ヲ述フ

藩制廢止前ノ藩主ノ處分ハ委任ニ基クモノニシテ猶今日知事ノ處分ノ如キモノナリ故ニ政府委員ノ答辯ノ如ク藩制廢止ノ前後ニ依リ處分ノ效力ヲ區別スルノ理由ナシト信ス

委員小田君　左ノ意見ヲ述フ

藩制實施ノ前後ニ依リ政府委員ハ沒祿處分ノ效力ニ差異ヲ設ケムトスルモ藩主ノ處分ハ今日ノ知事ノ處分ト同一ニシテ唯將軍ヲ經由スル間接委任タル點ニ於テ差異アルノミニシテ其ノ處分ト異ナルコトナシト信ス

政府委員松尾君　左ノ陳述ヲ爲ス

同一ノ犯罪ニシテ藩制廢止ノ前後ニ依リ一部ハ復祿ノ恩典ヲ得他ハ之ヲ得サル不公平ニシテ其ノ之ヲ得サルモノヽ事情憐ムヘキモノアルコトハ政府モ亦察スル所ナルモ本案ヲ實行スルコトトセハ他ニ之ニ類スルモノ續々出テ遂ニ際限ナキニ至ラム歲入塡補ニ困メル今日財政上モ顧ミ熟考ノ上決議アリタシ

委員原田君　左ノ意見ヲ述フ

本案ノ問題ハ財政上ノ問題ニアラス同一犯罪ニシテ一ハ恩典ニ浴シ一ハ浴セストスルハ其ノ當ヲ得ス此ヲ救濟スルハ本案提出ノ理由ニシテ全ク別箇ノ問題ニ屬スルモノト信ス

政府委員田尻君　左ノ陳述ヲ爲ス

法律施行ノ區域ニ於テ多少ノ不當ハ之ヲ忍ハサルヲ得サルハ數ノ免レサル所ニシテ本案ヲ明治元年以後ノモノトスルモ其ノ以前ノモノニ付テハ同一ノ不都合アラム敢テ望ム熟考ノ上採決アラムコトヲ

委員長關君　委員小田君ノ意見ノ如ク本案第一條中國事ニ關スル犯罪ノ上ニ明治元年以後ト加入スルコトニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長關君　本案ノ審査終了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後五時五分

報告

一國事犯罪者家祿賞典祿處分法案(關信之介君外十五名提出)

右ハ本院ニ於テ第一條中「國事ニ關スル犯罪」ノ上ニ「明治元年以後」ノ六字ヲ加入スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十二日　國事犯罪者家祿賞典祿處分法案委員長

關信之介

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十二日

委員長　關信之介

○要塞地帶法案(政府提出貴族院送付)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

佐々友房君　持田直君　吉岡直一君

土居平左衛門君　山内吉郎兵衛君　花井卓藏君

石原半右衛門君　中山平八郎君　宮原幸三郎君

一明治三十二年二月二十二日午後零時三十分委員參集シ年長者山内吉郎兵衛君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

山内吉郎兵衛君　中山平八郎君　持田直君

石原半右衛門君　宮原幸三郎君　吉岡直一君

當選者左ノ如シ

委員長　山内吉郎兵衛君

理事　花井卓藏君

理事　大津淳一郎

會議

第一回　明治三十二年二月二十五日午前十一時四十分開會

出席委員左ノ如シ

山内吉郎兵衛君　宮原幸三郎君　吉岡直一君

中山平八郎君　　土居平左衛門君

出席政府委員左ノ如シ

中村雄次郎君

委員長山内君　開議ヲ宣告シ且大體ニ付質問ヲ爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長山内君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

第三條ニ於テ各區ノ間數ニ差アル理由如何

政府委員中村君　左ノ答辯ヲ爲ス

敵地攻撃ノ場合ニ於テ凡ソ六千間ハ之ヲ攻撃線ト稱シ其ノ戰況ノ利アルニ從ヒ其ノ地ニ砲臺ヲ築キ漸次戰歩ヲ進ムルモノトス而シテ要塞地帶ヲ三區ニ分チ各區其ノ間數ヲ異ニシタル理由ハ防禦營造物ニ對スル危險ノ程度ヲ異ニスルヲ以テ其保護ノ爲又禁止制限ノ程度ヲ異ニスルノ必要アレハナリ

委員長山内君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

現ニ存在スル建物ニ對シテハ本案ノ施行上如何ナル處分ヲ爲スヘキヤ

政府委員中村君　左ノ答辯ヲ爲ス

現在ノ分ハ其儘保存セシメ只實際上危險アリト思料スル部分ヲ限リ買收スヘシ

委員宮原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

第九條ニ於テ漁獵、採藻及艦船ノ繫泊、土砂ノ堀鑿等ヲ禁シタル理由如何

政府委員中村君　左ノ答辯ヲ爲ス

海ノ深淺及海底ノ形狀ヲ探知セラルヽノ恐レアルヲ以テナリ尤モ許可ヲ與ヘタルモノハ差支ナシ

委員宮原君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

許可ハ豫メ受クルコトヲ得ルヤ將又其ノ都度受クヘキカ

政府委員中村君　左ノ答辯ヲ爲ス

第十九條ノ規定ハ豫メ許可スル場合ニシテ第九條ハ主トシテ其ノ都度ニ許可スル規定ナリ

委員長山内君　本案ハ貴族院ノ審査ニ係リ別ニ說明ノ求ムヘキモノナシト認ムルニ依リ直ニ討議ニ入ルヘキ旨ヲ告ケ原案全體ヲ議題ト爲ス

委員宮原君　左ノ意見ヲ述フ

本案ハ國防上多少ノ制限ヲ加フルノ要アリト信スルヲ以テ速ニ可決セラレムコトヲ望ム

委員長山内君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長山内君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午前十一時五十四分

報告書

一要塞地帶法案（政府提出貴族院送付）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

要塞地帶法案委員長

山内吉郎兵衛

明治三十二年二月二十五日

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十五日

委員長　山內吉郎兵衛
理事　花井卓藏

○登錄稅改正法律案（政府提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

齋藤安雄君　片岡久一郎君　松本正友君
浦野錠平君　佐藤伊助君　木村格之輔君
木村誓太郎君　橋本久太郎君　有馬要介君

一明治三十二年二月二十二日午後零時十八分委員參集シ年長者木村誓太郎君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

齋藤安雄君　松本正友君
木村誓太郎君　橋本久太郎君　佐藤伊助君
有馬要介君

當選者左ノ如シ

委員長　木村誓太郎君
理事　松本正友君

會議

一明治三十二年二月二十三日午後零時四十五分開會

出席委員左ノ如シ

松本正友君　佐藤伊助君
木村誓太郎君　有馬要介君　木村格之輔君

出席政府委員左ノ如ノ

目賀田種太郎君

委員長木村(誓太郎)君　開議ヲ宣告ス

政府委員目賀田君　左ノ陳述ヲ爲ス

今回政府ハ特許、意匠、商標ニ關スル改正法律案ヲ提出シ右三者ノ新規登錄ハ該法ニ依リ登錄稅法ノ支配ヲ脫シ特許料、意匠料、商標料ヲ徵收スルノ制トナリタルヲ以テ自然登錄稅法ト牴觸スル塲合ヲ見ルニ至レリ依テ之ヲ避クルカ爲本法ヲ提出シ且右ノ結果トシテ本法ノ支配ヲ受クヘキモノハ讓渡其有質入ノ三トナルヲ以テ之ニ關スル規定ヲ設ケタリ

委員長木村(誓太郎)君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

新規登錄ノ塲合ヲ登錄稅法ヨリ削除シ特許法、意匠法、商標法ニ於テ規定セシ理由如何

政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス

特許料、意匠料、商標料ハ普通登錄稅ト其ノ徵收方法ヲ異ニスルヲ便益ナリト信シ特別ノ規定ヲ設ケシノミ

委員長木村(誓太郎)君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

現行法ニハ賣買讓與書入質入トアルヲ今回讓渡其有質入トセシモ差支ヲ生スルコトナキヤ

政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス

差支ナシ

委員長木村(格之輔)君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

特許、意匠、商標ハ書入ヲ許サヽルヤ

政府委員目賀田君　左ノ答辯ヲ爲ス

特許法ニ於テ其ノ規定ナキヲ以テ之ヲ許サヽルモ差支ナキコトヽ信ス

委員長木村(誓太郎)君　原案全體ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村(誓太郎)君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後一時

報告

一登錄稅法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十三日　登錄稅法中改正法律案委員長

木村誓太郎

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十三日

委員長　木村誓太郎

理事　松本正友

○事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

佐伯誠一郎君　望月圭介君　高津雅雄君
長坂重孝君　新井啓一郎君　工藤行幹君
降旗元太郎君　江島粂雄君　江藤新作君

一明治三十二年二月二十二日午後零時三十五分委員參集シ年長者工藤行幹君投票管理者ト爲リ委員長理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

佐伯誠一郎君　望月圭介君　高津雅雄君
長坂重孝君　新井啓一郎君　工藤行幹君
降旗元太郎君　江島粂雄君　江藤新作君

當選者左ノ如シ

委員長　工藤行幹君
理事　長坂重孝君

會議

第一回　明治三十二年三月七日午後四時十分開會

出席委員左ノ如シ

望月圭介君　高津雅雄君
新井啓一郎君　工藤行幹君
江島粂雄君　江藤新作君
長坂重孝君

新井啓一郎君　工藤行幹君　江島粂雄君

出席政府委員左ノ如シ

荒井賢太郎君

委員長工藤君　開議ヲ宣告ス

委員新井君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ハ臺灣事業公債法案ト相關連スルモノナリ然ラハ若該法案ニシテ否決セラルヽ如キコトアラハ政府ハ本案ヲ如何ニ處分スル考ナルカ

政府委員荒井君　左ノ答辯ヲ爲ス

臺灣事業公債法案ニシテ否決セラレタルトキハ政府ハ本案ヲ撤回スル考ナリ

委員長工藤君　本案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長工藤君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後四時十八分

報告

事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月八日

事業公債及鐵道公債特別會計法中改正法律案委員長

工藤行幹

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年三月八日

委員長　工藤行幹

理事　長坂重孝

○中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三君外三名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ニ依リ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

内藤正義君	雨森菊太郎君
村野常右衛門君	脇坂行三君
鈴木文三郎君	小林乾一郎條
小栗貞雄君	本間直君
	大須賀庸之助君

一明治三十二年二月二十二日午後零時三十五分委員參集シ年長者脇坂行三君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

内藤正義君	雨森菊太郎君
村野常右衛門君	脇坂行三君
小栗貞雄君	本間直君
	鈴木文三郎君
	大須賀庸之助君

當選者左ノ如シ

委員長　脇坂行三君

理事　小栗貞雄君

會議

第一回　明治三十二年二月二十四日午後一時五十分開會

出席委員左ノ如シ

脇坂行三君　　衫野常右衛門君

雨森菊太郎君

小林乾一郎君　本間直君　鈴木文三郎君
小栗貞雄君　大須賀庸之助君

出席政府委員左ノ如シ
木内重四郎君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ
農商務書記官美濃部俊吉君　東京工業學校長手島精一君　農商務屬兼技手平野耕輔君

委員長脇坂君　開議ヲ宣告ス

委員小栗君　委員長脇坂君ニ左ノ質問ヲ爲ス
本會議ニ於テ田口君ヨリ質問アリシ如ク本案ノ必要ハ之ヲ認ムルモ若シ工業ナル意義ヲ廣ク解スルトキハ際限ナキ大事業ト爲ルニ至ラム何等ノ制限ナキカ

委員長脇坂君　左ノ答辯ヲ爲ス
提出者ノ考ニテハ始メヨリ完全ナルモノヲ望ムニ非ス可成目下ノ急ニ應スヘキモノヲ先ニシ漸次擴張スル考ナリ

委員鈴木君　委員長脇坂君ニ左ノ質問ヲ爲ス
事業ノ範圍ニ付提出者ノ考案如何

委員長脇坂君　左ノ答辯ヲ爲ス
設立スルコトニ確定スレハ政府ニ對シ充分ナル調査ヲ求メムト欲スル考ナリト雖トモ中央工業試驗所ハ萬事ヲ網羅シテ試驗スルコトハ能ハサルヘシ自然工業學校又ハ地方試驗場等ニ試驗委托ヲ爲スヲ要スルコトナラム此ノ點ニ付テハ委員諸君ニ於テモ政府委員ニ質疑シ利害ヲ

審議セラレタシ

委員雨森君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
曩ニ實業會アリシ際中央工業試驗所設置ノ計畫ヲ爲シ經費ノ豫算案モ既ニ編製セラレタルヤニ聞ケリ其ノ際ノ計畫幷ニ其ノ豫算ノ大體如何

政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス
前內閣時代ニ於テ高等會議ヲ開キタル際大石大臣カ中央工業試驗所設置ニ付議員ノ意嚮ヲ諮ヒタルニ異論者ナキニアラサリシモ其ノ多數ハ之ヲ認メタルヲ以テ大臣ハ豫算ヲ提出スル考ナリキ其ノ後內閣ハ變動ヲ爲シ大石大臣去リ新大臣モ前大臣ノ方針ヲ襲用シ其ノ必要ヲ認メ居レトモ其ノ計畫經費豫算等ハ未タ確定セス何レ次期議會迄ニ確定シ豫算ヲ提出スル考ナリ

委員木間君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
工業ナル意義如何

政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス
工業ナル意義ヲ廣ク解スレハ種々ナルモノヲ包含スト雖トモ斯クスレハ自然經費莫大ニ爲リ良結果ヲ得ルコト難カルヘシ本員一個ノ考ニテハ第一ニ海外貿易ヲ進歩セシムルニ急務ト認ムヘキモノヲ先ニスルヲ得策ナリト信ス

委員本間君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
海外貿易物品中ノ生絲ノ如キハ生糸檢查場ナルモノアリ是ハ工業試驗場トハ其ノ性質異ナルカ

政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス

大ニ其ノ性質ヲ異ニセリ工業試驗所ニテハ其ノ製造ノ方法器械ノ點ニ付試驗ヲ爲シ研究ヲ爲シ檢査場ニテハ主トシテ既ニ製作セラレタル物品ノ品格ヲ判定ス

委員小栗君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

工業試驗所ハ尚衛生試驗場ノ如キカ

政府委員木內君　左ノ答辯ヲ爲ス

衛生試驗場ノ如ク他ヨリ依賴ヲ受ケ試驗スルニ止マラス自ラ進ムテ化學上ノ分析又ハ研究ヲ爲スカ爲ニ或物品ノ試作モ必要ナラム

委員小栗君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

工業試驗所ノ設置ノ必要ナルコトハ本員ハ之ヲ認ムルヲ以テ本案ニ贊成スヘシ其ノ事業ノ目的ニ付政府ノ意見ニテハ國家ノ爲ニ工業ニ關シ改良進歩ヲ計ルハ主タルモノニシテ箇人ノ依托ニ應スルハ從タル事ナルカ如シ此ノ點ニ付當局者ノ意見如何

政府委員木內君　左ノ答辯ヲ爲ス

如何樣ニ解セラルヽモ事實ニ於テハ異ナルコトナカラム自ラ進ムテ試驗ヲ爲スト同時ニ依托ニ應スルコトモアリ

委員小林君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

政府ニ於テ此案ヲ提出セムトセシ計畫及經費ノ見積如何

農商務書記官美濃部君　左ノ答辯ヲ爲ス

高等會議ニ對シテハ單ニ諮問ヲ爲シタルニ止マリ未タ確定セルコトニアラスト雖トモ該豫算ハ全體ニテ二十五萬九千圓其ノ使途ハ地所建築費十六萬圓器械費十五萬圓其ノ他試驗場建築ノ爲ニ要スル技師ノ給金事業着手迄ノ技師給金及建築設計ヨリ事業着手迄諸種ノ經費等ニ殘額五六萬圓ヲ充ツル豫定ナリシ又其ノ組織ハ全體ヲ六部ニ大別シ第一部織物及之ニ牽連スル染物試驗、第二部窯業ノ改良試驗、第三部、第一部、第二部ニ屬セサル化學工業試驗、臨時必要ニ應スル種々ノ試驗、又依托ニ依ル分析、第四部特ニ依賴ニ依リ爲ス分析試驗猶ホ衛生試驗所ヲ擴張シタル如キモノ第五部器械金屬電氣ニ開スル試驗、第六部雜務是レ其ノ大畧ナリ

委員雨森君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

三十六萬圓ハ創立ノ際ノ經費豫定ナルモ以後年々經常費ノ見込如何

農商務書記官美濃部君　左ノ答辯ヲ爲ス

建築費、土地費等ヲ除ケハ經常費額ト見テ可ナラム

委員小栗君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

依托ニ應シテ分析又ハ試驗ヲ爲ス場合ニハ手數料ヲ納付セシムルカ

農商務書記官美濃部君　左ノ答辯ヲ爲ス

然リ

委員長脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

豫算ハ次期議會ニ提出スルカ

政府委員木內君　左ノ答辯ヲ爲ス

提出スル考ナリ然レトモ金額ハ前ニ答辯シタル額ト同一ナルヤ否ヤハ確答スルコトヲ得ス

委員長脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

政府ハ本案ニ不同意ナキカ

政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス
大體ニ於テ同意ス
委員雨森君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
商工高等會議ニテハ地方工業試驗場ニモ補助ヲ與フル諮問アリタルカ
政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス
當時議員中ニモ若シ經費ヲ要スルコトナレハ見合スヘシト云ヘルモノアリキ本員モ始メヨリ大規模ト爲スヨリハ小規模ニテ滿足シ漸次擴張スルヲ得策ナリト信セリ
委員鈴木君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
現今地方工業試驗場ナルモノアルカ
政府委員木内君　左ノ答辯ヲ爲ス
此ノ如キ名稱ニテハ未タ之レナシト雖トモ京都ノ陶磁器試驗所堺ノ酒釀造試驗所等アリ
委員長脇坂君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
京都ノ陶磁器試驗所ノ組織如何
農商務屬兼技手平野君　左ノ答辯ヲ爲ス
京都陶磁器試驗場ノ組織ニ付テハ其詳細ノ事ハ未タ取調ヘ居ラサルモ元來同試驗所ハ市立ニ屬シ本邦工業ニ關スル試驗所ノ嚆矢タリ其ノ設置ノ當時ニ在リテハ一方ニ於テハ舊慣ヲ打破スルカ爲ニ反對ノ議論モアリテ其ノ成功ヲ危ミタレトモ爾來其ノ效績大ニ現ハレ來リ現今ニテハ當業者モ其ノ必要ヲ認ムルニ至レリ
委員雨森君　左ノ意見ヲ述フ
工業ノ改良進歩ヲ計ルニハ地方工業試驗場ニ補助ヲ與ヘ奬勵スルヲ必要ナリト信スルヲ以テ末行「政府ハ速ニ」ノ次ニ「中央工業試驗所ヲ設立シ及地方工業試驗所ヲ補助スルノ」文學ヲ挿入スルコトニ議決セラレタシ
委員小栗君　左ノ意見ヲ述フ
地方工業試驗所ノ補助ニ付テハ本員ハ之ヲ認メサルニ非スト雖トモ提出者ノ意見並ニ政府委員ノ答辯ノ如ク始メハ成ルヘク規模ヲ小ニシ漸次擴張スルハ我國現狀ニ於テ當然ノ事ト考フ若シ補助ヲ與フルトセハ事業大トナリ却テ本案ノ目的ヲ達スル上ニ於テ得策ニ非スト信ス故ニ原案ノ如ク可決セラレタシ
委員鈴木君委員村野君委員小栗君ノ說ニ賛成スル旨ヲ陳述ス
委員長脇坂君　委員小栗君ノ說ニ付異議ノ有無ヲ問フ
異議ナシ　可決
委員長脇坂君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後四時五分

報告

一中央工業試驗所設立ニ關スル建議案(脇坂行三君外三名提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
明治三十二年二月二十四日　中央工業試驗所設立ニ關スル建議案委員長
脇坂行三

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十四日

委員長　脇坂行三
理事　小栗貞雄

○鐵道敷設工事ヲ豫定期限内ニ竣工スヘキ建議案（降旗元太郎君外十名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

出水彌太郎君　杉田定一君　戸狩權之助君
堀家虎造君　降旗元太郎君　橋元勗君
秋山元藏君　畠山雄三君　江角千代次郎君

一明治三十二年二月二十二日委員參集シ年長者出水彌太郎君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

出水彌太郎君　杉田定一君　戸狩權之助君
堀家虎造君　降旗元太郎君　橋元勗君
秋山元藏君　畠山雄三君　江角千代次郎君

當選者左ノ如シ

委員長　降旗元太郎君
理事　秋山元藏君

會議

第一回　明治三十二年二月二十四日午後二時十分開會

出席委員左ノ如シ

杉田定一君　堀家虎造君　降旗元太郎君

橋元昌君
出席政府委員左ノ如シ
松本荘一郎君
田尻稻次郎君
秋山元藏君
委員長降旗君　開議ヲ宣告ス
委員秋山君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
鐵道敷設法ニ規定セル第一期鐵道豫定線ハ豫定期限即チ明治三十七年度迄ニ竣工スヘキ見込アリヤ
政府委員松本君　左ノ答辯ヲ爲ス
豫算ヲ別問題トスレハ豫定期限ヲ二三年モ延期セハ十分工事ヲ完成スル見込アリ
委員橋本君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
政府ハ法律規定ノ豫定期限内ニ竣功シ能ハサルコトヲ知テ今日迄該法律案ヲ提出セサリシ理由如何
政府委員松本君　左ノ答辯ヲ爲ス
前途ノ目的ヲ定メタル後大藏省財政ノ都合ヲ見計ヒ時期ヲ俟テ提出スル意見ナリ
委員堀家君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
法律規定ノ豫定期陳ヲ二年間延期セハ必ス工事ヲ竣功シ得ルヤ
政府委員松本君　左ノ答辯ヲ爲ス
三年モ延期セハ竣功ノ見込アレトモ豫算確定セサルカ爲工事ヲ進行スル能ハス
委員橋元君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス
鐵道敷設ノ事業タルヤ繼續事業タルカ故ニ豫メ豫算ヲ確定セムコトヲ要ス之レニ付大藏省ノ意見如何
政府委員田尻君　左ノ答辯ヲ爲ス
目下如何トモスル能ハス既ニ諸君ノ知ラルヽ如ク明治二十九年度以來ハ歲入歲出相償ハス漸ク三十二年度ニ至リ稍財政ノ基礎確立シ數多ノ戰後經營事業ノ完成モ近キニアレハ毎年諸君ト豫算ヲ協議シ工事完成ノ方法ヲ講スルヨリ他ニ途ナキモノト信ス

第二回　明治三十二年二月二十五日午後四時三分開議
（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）
出席委員左ノ如シ
出水彌太郎君　杉田定一君
戸狩權之助君　降旗元太郎君
畠山雄三君　堀家虎造君
秋山元藏君
出席委員左ノ如シ
松本荘一郎君
委員長降旗君　開議ヲ宣告ス且豫定期限内ニ竣功セシムル爲ニ要スル毎年度ノ支出額ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス
委員出水君　鐵道調査會ノ權限ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス
委員戸狩君　大藏省カ遞信省ノ繼續案ニ同意セサル理由ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松

本君答辯ヲ爲ス

委員長降旗君　散會ヲ命ス于時午後一時一分

第三回　明治三十二年三月二日午後零時四十八分開會

出席委員左ノ如シ

降旗元太郎君　堀家虎造君　杉田定一君
戸狩權之助君　出水彌太郎君　畠山雄三君
橋　元　勗君　秋山元藏君

出席政府委員左ノ如シ

松本莊一郎君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ揭ク）

委員長降旗君　開議ヲ宣告ス

委員堀家君　財源ナキノ理由ヲ以テ本案反對ノ意見ヲ述フ

委員戸狩君　左ノ意見ヲ述フ

近時經濟上ノ情況ニ付テ察スルニ一億七千圓餘ノ公債ヲ募集シ三十七年度ニ至リ之ヲ返濟スルハ敢テ至難ノ事ニアラス若シ豫定期限内ニ之ヲ内地ニ募集シ得サレハ外債ヲ募集スルモ亦可ナリ且今ヤ二期線ヲ一期線ニ繰上クルハ我社會ノ輿論ナリ其ノ輿論ノアル所ヲ察シ之ヲ完成セシムルハ政府當然ノ責任ナリ

委員堀家君　左ノ意見ヲ述フ

凡ソ事業ノ成効ヲ望マハ先ツ財源ノ如何ヲ慮カラサルヘカラス今ヤ戰後經營ノ爲國庫窮乏ヲ告クルノ際徒ニ難キヲ政府ニ强フルハ識者ノ與スル能ハサル所特ニ貴衆兩院ヲ通過シタル豫算年度割ヲ變更セサル可ラサルノ煩アリ强テ建議ノ主旨ヲ貫徹セムトスレハ實ニ無定見ノ甚シキモノナリ

委員橋元君　左ノ陳述ヲ爲ス

議會ニ於テ決定シ既ニ法律ニ規定シ工事ニ着手シタルモ豫定期限内ニ完成ノ見込ナキヲ以テ此ノ建議ヲ提出シタリ財源云々ノ如キハ別問題ナリ財源如何ハ政府ノ專ラ與ル所ニシテ本員等ノ知ラサル所ナリ要スルニ本案ハ政府ノ緩慢ヲ責ムルニアリ

委員杉田君　左ノ意見ヲ述フ

經費ノ配合ハ政府ノ任務ナリ本員等ノ與ル所ニアラス生產事業ニ大關係ヲ有スル鐵道ノ如キハ一日モ早ク完成ノ途ヲ講セサル可ラス況ヤ既ニ法律ニ定マレル一期線ノ如キヲヤ

委員橋元君　左ノ意見ヲ述フ

理由書中杜撰ノ個所アリ「工事ヲ」ノ下八字ヲ削除セムコトヲ望ム

委員長降旗君　委員橋元君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員長降旗君　本案全體ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者多數　可決

委員長降旗君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後一時五十分

報告

一鐵道敷設工事ヲ豫定期限内ニ竣工スヘキ建議案(降旗元太郎君外十名提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月二日　鐵道敷設工事ヲ豫定期限内ニ竣工スヘキ建議案委員長　降旗元太郎

衆議院議長片岡健吉殿

(別紙略)

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年三月三日

委員長　降旗元太郎

理事　秋山元藏

○鐵道敷設法中改正法律案(菊地九郎君外三十一名提出)及私設鐵道條例中改正法律案(田口卯吉君外三十三名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

出水彌太郎君　杉田定一君
堀家虎造君　戸狩權之助君
秋山元藏君　降旗元太郎君
畠山雄三君　橋元勗君
江角千代次郎君

一明治三十二年二月二十二日委員參集シ年長者出水彌太郎君投票管理考ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

出水彌太郎君　杉田定一君
堀家虎造君　戸狩權之助君
秋山元藏君　降旗元太郎君
畠山雄三君　橋元勗君
江角千代次郎君

當選者左ノ如シ

委員長　降旗元太郎君
理事　秋山元藏君

會議

第一回　明治三十二年二月二十七日午前十一時十五分開會

(當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク)

出席委員左ノ如シ

出水彌太郎君　秋山元藏君　杉田定一君
戸狩權之助君　畠山雄三君　堀家虎造君

出席政府委員左ノ如シ

松本莊一郎君　田尻稻次郎君

委員長代理秋山君　開議ヲ宣告シ鐵道敷設法中改正法律案ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員出水君　改正案ノ哩數並ニ金額ノ總計ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君政府委員田尻君答辯ヲ爲ス

委員杉田君　第一期線ニ加フヘキ線路ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス

委員杉田君　第一二期線ノ工事ノ竣功ノ期限ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス

委員戸狩君　鐵道工費ノ件ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス

委員堀家君　改正案ノ七線路中ノ工事ニ困難ナル線路ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松本君答辯ヲ爲ス

委員畠山君　豫定期限ヲ延長スヘキ期限ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員田尻君答辯ヲ爲ス

委員長代理秋山君　散會ヲ命ス于時午後零時十一分

第二回　明治三十二年三月七日午後四時三十分開會

出席委員左ノ如シ

出水彌太郎君　杉田定一君　戸狩權之助君

堀家虎造君　降旗元太郎君　橋元勗君
秋山元藏君　畠山雄三君　江角千代次郎君

委員長降旗君　開議ヲ宣告ス

委員杉田君　左ノ意見ヲ述フ

福井縣下三國港ヨリ本線ノ新條ノ間ハ僅ニ五哩ニシテ道路最モ平坦ナリ運輸交通ノ便利ヲ貴ムノ今日右五哩ノ線路ヲ追加スルノ必要アリ故ニ本員ハ茲ニ第二條第五號新條三國間ノ五哩ヲ加フルノ修正意見ヲ提出ス

委員堀家君　左ノ意見ヲ述フ

本案ニ依レハ四國線ノ中香川縣琴平ヨリ高知縣下高知ニ至ルノ線路ヲ廢棄シ代ユルニ德島ヲ起點トシ愛媛縣松山ヲ經テ八幡濱ニ至ルノ線路ヲ以テセリ然ルニ琴平ヨリ高知ニ至ルノ線路ハ松山ヲ經テ八幡濱ニ至ル鐵道ノ下ニ加フルニ右線路ヲ分岐シテ高知縣下須崎ニ至ルノ一線ヲ以テシ香川縣下琴平ヨリ德島縣下池田附近ニ於テ前行ノ線路ニ接續スル一線ヲ敷キ同縣多度津ヨリ今治ヲ經テ松山ニ至ルノ一線ヲ加ヘラレムコトヲ望ムニ付舉手ヲ以テ表決ヲ採ル

委員江角君　左ノ意見ヲ述フ

本員モ亦同條末項ニ島根縣濱田ヨリ山口縣下萩ヲ經テ馬關ニ至ルノ線路ヲ追加セムコトヲ望ム

委員長降旗君　委員杉田君ノ意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

舉手者多數　可決

委員長降旗君　委員堀家君ノ意見ニ付舉手ヲ以テ表決ヲ採ル

舉手者少數　否決

委員長降旗君　江角君ノ意見ニ付舉手ヲ以テ表決ヲ採ル

舉手者少數　否決

委員長降旗君　本案全部ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者多數　可決

委員長降旗君　私設鐵道條例中改正法律案ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員出水君　左ノ意見ヲ述フ

鐵道ノ運賃額ヲ定ムルニ當リテハ大ニ敷設費ノ多少及土地ノ情況ヲ酌酌セサルヘカラス專ラ收利ニ汲々スルノ弊ヲ矯ムルカ爲配當ニ制裁ヲ加フルノ必要アリ是レ本案ヲ提出シタル所以ナリ

委員堀家君　左ノ意見ヲ述フ

夫レ交通機關ノ經營ハ可及的公衆ノ便ヲ計ラサルヘカラス專ラ會社ノ利益ヲ顧慮シ故ラニ改正ヲ加ヘムトスル本案ノ如キハ本員ノ贊同スル能ハサル所ナリ

委員長降旗君　委員堀家君ノ意見ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者少數　否決

委員長降旗君　右二案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後五時四十分

報告

一鐵道敷設法中改正法律案(菊池九郎君外三十一名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月七日

衆議院議長片岡健吉殿

鐵道敷設法中改正法律案委員長

降旗元太郎

報告

一私設鐵道敷設條例中改正法律案(田口卯吉君外三十三名提出)

右ハ本院ニ於テ否決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月七日

私設鐵道敷設條例中改正法律案委員長

降旗元太郎

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年三月七日

委員長　降旗元太郎

理事　秋山元藏

○第五回內國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スルノ建議案(藤金作君外十三名提出)及第五回內國勸業博覽會開設ヲ東京市ニ設置スルノ建議案(星亨君外十三名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十一日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

秋岡義一君　利光鶴松君
喜多川孝經君　西村眞太郎君
淺香克孝君　廣瀨貞文君
菅原傳君
首藤陸三君

一明治三十二年二月二十三日正午十二時委員參集シ年長者藤金作君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

秋岡義一君　利光鶴松君
喜多川孝經君　西村眞太郎君
淺香克孝君　廣瀨貞文君
菅原傳君
首藤陸三君
藤金作君

當選者左ノ如シ

委員長　藤金作君
理事　淺香克孝君
首藤陸三君

會議

第一回　明治三十二年二月二十八日午後四時三十五分開會

出席委員左ノ如シ

藤金作君
菅原傳君
首藤陸三君
秋岡義一君
喜多川孝經君
淺香克孝君
利光鶴松君
西村眞太郎君
廣瀨貞文君

委員長代理々事淺香君　開議ヲ宣告ス

委員長代理々事淺香君　委員長藤君出席シタルヲ以テ復席スル旨ヲ告ク

委員淺香君　左ノ意見ヲ述フ

本案ハ頗ル簡單ニシテ亦詳論スルノ必要ナキヲ以テ單ニ意見ノ要旨ヲ述ヘム本員ハ第五回內國勸業博覽會ハ當然東京ニ開設スヘキモノト信ス而シテ其ノ理由ニ至リテハ既ニ諸君ノ知ル所又茲ニ贅セス

委員西村君　委員淺香君ニ左ノ質問ヲ爲ス

淺香君ノ意見ハ本委員會ニ付托セラレタル二案中一ヲ否決シ一ヲ可決スルト云フニ在ルカ然リ

委員西村君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ大阪ニ開設スヘキモノト信ス第五回內國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スルコトハ兼テ農商務次官ノ書面上ニモ既ニ明定セル所ニシテ殆ト政府ノ豫約ト見ルモ亦可ナリ殊ニ大阪ハ本邦商工業ノ中心タリ且既ニ東京ニハ第一、第二、第三ノ三回引續キ開設セシニ拘ラス關西ニ於テハ只一回第四回博覽會ヲ京都ニ開設セシニ過キス故ニ今回ノ第五回博覽會ハ宜シク之ヲ關西ノ大市タル大阪ニ開設スヘシト信ス

委員菅原君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ東京ニ開設スルヲ至當ト信ス其ノ理由ノ要點三アリ一第五回内國博業博覽會ハ戰勝後、内地雜居後、第一回ノ開設ニ屬スルハ可成的盛大ニスルノ利益トス而シテ大阪ハ其ノ道路狹隘ニシテ盛大ナル勸業博覽會ノ開設ニ適セス二農商務次官ノ曩日ノ明言如何ハ本案ヲ議スルニ何等ノ關係ナシ特ニ第四回ハ關西ノ京都ニ開キタルヲ以テ第五回ハ之ヲ關東ノ東京ニ開設スルハ事理ノ當然ナリ三戰勝ノ利益ハ事實關西ノ專有ニ歸シタリ此等ノ理由ニ依リ第五回内國勸業博覽會ヲ東京ニ開クハ當然ニシテ關西ニ開設スル要ナシト信ス

委員秋岡君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ大阪ニ開設スルヲ正當ナリト信ス既ニ第三回迄引續キ關東タル東京ニ開設シタルヲ以テ第四回、第五回ハ之ヲ關西ニ開設スルハ公平ヲ得タルモノナリ又開ク所ニ依レハ商工高等會議ニテハ三十五年ニ内國勸業博覽會ヲ開設シ四十年ニハ萬國博覽會ヲ開設スルト確定セリト果シテ然ラハ本回之ヲ東京ニ開カハ四十年ノ萬國博覽會ト引續キ東京ノ專有ニ歸シ公平ヲ得タルモノニアラスト信ス大阪ハ會場敷地ニ乏シト云フ者アラムモ本員ハ事實斯ノ如キ恐ナキヲ確信ス

委員喜多川君　左ノ意見ヲ述フ

本委員會ノ勢既ニ定マレルヲ以テ亦論議ノ要ナシト信スルモ一言ノ已ムヲ得サルモノアリ本員ハ第五回博覽會ヲ大阪ニ開設スルハ商工業上最モ必要アリト確信ス且夫之ヲ大阪ニ開設スルコトヲ書面上認メタル當時ノ西村農商務次官ハ假令大阪ニ緣故深シトスルモ其ノ豫約ハ議場ニ明言セラレ議院モ之ヲ暗默ニ認メタリ何ソ儀ニ之ヲ無効視スルノ理アラムヤ

委員首藤君　左ノ意見ヲ述フ

東京ニ開設スル理由ハ委員淺香君委員菅原君ノ說ク所ニテ既ニ盡キタリ然レモ本員ハ大阪說ノ根基トスル農商務次官ノ書面ニ付一言スル所アラムトス其ノ書面ナルモノハ思フニ本會ニテ議員中村君ノ朗讀セラレタルモノナラム該書面ノ追伸ニ依レハ京都、大阪府知事ノ間ニ有スルノ爭ニ對スル仲裁的書面ニシテ固ヨリ今回ノ博覽會ノ大阪ニ開設スト云フ豫約的效力アルモノニアラス議論ハ既ニ盡キタリト信スルヲ以テ速ニ採決セラレムコトヲ望ム

委員長藤君　第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スル建議案ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長藤君　第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京ニ設置スルノ建議案ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員秋岡君　左ノ陳述ヲ爲ス

第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スルノ建議案ハ否決セラレタルモ本員等ハ少數意見書ヲ提出スヘシ

委員長藤君　右二案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後五時二十五分

報告書

一第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設スルノ建議案(藤金作君外十一名提出)

右ハ本院ニ於テ否決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十八日　第五回内國勸業博覽會ヲ大阪ニ開設

スルノ建議案委員長　藤金作

報告書

一第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京市ニ設置スルノ建議案（星亨君外十三名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十八日　第五回内國勸業博覽會開設ヲ東京市ニ設置スルノ建議案委員長　藤金作

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十八日

委員長　藤金作
理事　淺香克孝

○衆議院議員選擧法改正法律案中第三十六條起草ニ關スル件委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十二日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

星　亨君　　西原清東君　　山口熊野君
永江純一君　　田口卯吉君　　堀田連太郎君
武市彰一君　　加藤政之助君　　濱口吉右衛門君

一明治三十二年二月二十二日午後四時ニ委員參集シ年長者加藤政之助君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

星　亨君　　西原清東君　　山口熊野君
永江純一君　　田口卯吉君　　堀田連太郎君
武市彰一君　　加藤政之助君　　濱口吉右衛門君

當選者左ノ如シ

委員長　星　亨君
理事　武市彰一君

會議

第一回　明治三十二年二月二十二日午後四時三十分開會

出席委員左ノ如シ

星　亨君　　西原清東君　　山口熊野君

永江純一君　田口卯吉君　堀田連太郎君
武市彰一君　加藤政之助君　濱口吉右衛門君

出席政府委員左ノ如シ

小倉久君

委員長星君　開議ヲ宣告ス
委員長星君　左ノ陳述ヲ爲ス
本件ニ關シ成案ヲ有スル諸君ハ其ノ成案ヲ提出セラレムコトヲ企望ス
委員田口君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ本件ニ付テハ單記、聯記、制限聯記共ニ其ノ不可ナルヲ信スルカ故ニ別ニ一案ヲ出サム即チ現行ノ選擧法ト同シク大體ニ於テ一選擧區一人ノ制度ヲ採ラムコトヲ望ム抑投票ノ方法ニ關シテハ泰西諸國ノ制度其ノ揆ヲ一ニセス或ハ連記トシ或ハ單記トスルモノアレトモ其ノ大選擧區制ヲ採ルモノハ投票ニ際シテ紛雜ヲ極メ騷擾ヲ生スルハ諸君ノ既ニ詳ニセラルヽ所ナルヘシ加之從來ノ小選擧區制度ヲ改メテ一府縣一選擧ト爲スハ恰モ封建ヲ廢シテ郡縣ヲ置クト同一ノ難事ニシテ現今ノ制度ニシテ別ニ不可ナキ以上ハ今俄ニ之ヲ改ムルノ要ナケレハナリ
委員西原君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ三分ノ二制限聯記案ヲ提出ス抑投票方法ヲ修正セムトセハ須ク一面ニ於テ比較的多數者カ比較的少數者ヲ抑壓スルヲ避ケ他ノ一面ニ於テ各政黨ノ爲可及的便利ヲ與ヘ以テ之カ發達ヲ企圖セサルヘカラス然ルニ今若シ俄ニ絕對單記制ヲ採ラムカ黨派内ノ平和ハ忽チニシテ

壞亂スルニ至ルヤ熟考ヲ俟タスシテ明カナリ而シテ又夫ノ絕對聯記制ノ採ルヘカラサルハ本員ノ堅ク信スル所ナリ故ニ之ヲ折衷シテ制限聯記制ヲ採ラムカ思フニ二大政黨間ノ所思ヲ貫徹スルニ庶幾カルヘシ元來本件ノ如キ兩黨間ニ於テ多少ノ雅量ヲ存スレハ容易ニ成立シ得ヘキ性質ヲ有スルモノナルニ拘ラス軋轢相持シ以テ此ノ重大ナル議案ヲ成立セシメサルカ如キコトアラハ倶ニ國家ニ忠ナル所以ニアラス而シテ本員ノ考案タル十分少數代表ノ餘地ヲ存スルモノナレハ貴族院ニ於テモ強テ之ニ反對スルノ理由ナキノミナラス政府ニ於テハ成ルヘク之カ通過ヲ務メサルヘカラサルヲ信ス故ニ諸君ニ於テモ多少ノ讓歩ヲナシ本案ヲ成立セシメ以テ國家ニ對スル責任ヲ全フセラレムコトヲ希望ス
委員加藤君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ先決問題トシテ明日マテ此ノ決議ヲ延ハシ其所屬黨派ノ熟議ヲ盡シ成ルヘク委員西原君ノ意見ヲ貫徹スルコトヽセムコトヲ希望ス
委員武市君　左ノ意見ヲ述フ
本員ハ加藤君ノ意見ニ贊成ス蓋シ明日午後一時マテニ議決スレハ緊急動議トシテ提出シ得ルヲ以テ敢テ差支ナキヲ以テナリ
委員永江君　左ノ意見ヲ述フ
明日午後一時マテニ協議纏マラサルトキハ頗ル困難ナルヘキモ若シ其ノ憂ナシトセハ委員加藤君ノ意見ニ贊成セム
委員長星君　散會ヲ命ス于時午後四時五十五分

第二回　明治三十二年二月二十三日午後零時二十五分開會

出席委員左ノ如シ

星　亨君　　西原清東君　　山口熊野君
永江純一君　　田口卯吉君　　堀田連太郎君
武市彰一君　　加藤政之助君　　濱口吉右衛門君

出席政府委員左ノ如シ

一木喜徳郎君

委員長星君　開議ヲ宣告シ且委員西原君ノ提案タル三分ノ二連記ヲ議題ト爲スヘキ旨ヲ告ク

委員長星君　委員西原君ノ提案ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長星君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後零時五十分

報告書

一衆議院議員選擧法改正法律案中第三十六起草ニ關スル件

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十三日　　衆議院議員選擧法改正法律案中第三十六條起草ニ關スル件委員長　星　亨

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙畧）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十三日

委員長　星　亨
理事　武市彰一

○耕地整理法案（政府提出）及明治三十年法律第三十九號中改正法律案（木村誓太郎君外二名提出）委員會會議錄

委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

金田平五郎君　金井貢君
堀尾茂助君　木村誓太郎君
鹽田忠左衛門君　永田佐次郎君
大村和吉郎君　佐治幸平君

一明治三十二年二月二十四日午後零時五十五分委員參集シ年長者金田平五郎君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

金田平五郎君　堀尾茂助君
武弘宜路君
鹽田忠左衛門君　木村誓太郎君
當選者左ノ如シ

委員長　木村誓太郎君
理事　堀尾茂助君

會議

第一回　明治三十二年三月二日午前十一時三十分開會

出席委員左ノ如シ

武弘宜路君　金田平五郎君　金井貢君

堀尾茂助君　鹽田忠左衛門君
永田佐次郎君　木村誓太郎君

出席政府委員左ノ如シ

岡野敬次郎君　和田彦次郎君

委員長木村君　開議ヲ宣告シ且耕地整理法案ヨリ審議スヘキ旨ヲ告ク

委員長木村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

第十九條ノ所謂公告ノ手續及其ノ必要ナル理由如何

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

公告ノ手續ハ本法中ニ之ヲ定メス其ノ理由ハ土地ノ情況ニ依リ公告ノ方法同一ニ出ル能ハサルヲ以テナリ例ヘハ新聞紙ノ存在スル土地ナルトキハ新聞紙ニ公告スル方法ヲ採ルヲ得ルモ新聞紙ナキ土地ナルトキハ町村役場ノ掲示場ニ公告セシムル方法ヲ採ラサルヲ得ス是レ本法ニ於テ其ノ手續ヲ一定セサル所以ナリ而シテ其ノ公告ヲナサシムル必要アル所以ハ耕地整理ナルモノハ一定ノ條件ヲ具備スルトキハ縱令多少不同意者アルモ之ヲ決行スルモノナルヲ以テ或不同意者カ耕地整理ノ總會ニ出席セサル場合モアルヘク又通知洩レ等ニテ總會ノ模樣ヲ知ラサル者ナキニシモアラス故ニ之等ノ者ニ知悉セシムルニハ公告ノ方法ニ依ルノ外ナシ是公告ノ必要ナル所以ナリ

委員長木村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

水害其ノ他ノ事故ニ依リ同意者ノ所有スル土地ノ地價減少シテ總額三分ノ二ニ達セサルトキハ第二十條三號ニヨリ遂ニ整理ヲ爲シ能ハサルニ至ルノ恐アリ此場合ニ處スル方法アリヤ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

元來耕地整理ナルモノハ第二十條ノ條件具備スルニ於テハ多少ノ不同意者アルニ係ラス强制シテ之ヲ實行スルモノニシテ而カモ其ノ整理工事ナルモノハ短日月ニ終了スルモノニアラスシテ數年ノ星霜ヲ經過シテ始メテ完了スルモノナリ依テ其ノ間種々ノ紛擾ヲ生シ爲ニ有益ナル整理工事ヲ半途ニシテ中止スルノ已ヲ得サルノ憂ナキニシモアラス故ニ些少ノ不便アルモ成ルヘク條件ヲ嚴重ニシ以テ此等ノ憂ヲ防ク策ヲ講セサルヘカラス故ニ質問ノ如キ耕地整理ヲ實行スルノ方法ナキ亦實ニ已ヲ得サルナリ

委員長木村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

荒地ヲ生シタル塲合ハ其ノ荒地トナリシ以前ノ地價ヲ以テ地價ト爲スモノナルヤ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

舊地價ニ依ル能ハス荒地トナリシ現時ノ地價ニ依ル

委員堀尾君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

荒地ヲ生シタル塲合ニ地價三分ノ二ニ達セサルトキハ特種ノ事情アルモノト云フ能ハサルカ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

特種事情如何ハ畢竟一ノ事實問題ナルヲ以テ當局者ノ認定如何ニ依ルノ外ナキ故茲ニ明言シ難シ

委員長木村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

登記ノ順位ニ影響ヲ及ホサストハ如何ナル理由ナルカ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

不動產登記法ニテハ登記簿ニ記載スル土地ノ情況ト土地ノ實況ト同一ナラサルヘカラサル主義ヲ採レリ故ニ若シ此ノ主義ヲ貫徹セムカ耕地整理中屢々登記ヲナサヽルヘカラサルニ至リ耕地整理ヲ行フニ非常ナル不便ヲ來タスヘシヲ以テ第七十條ヲ設ケテ之カ救濟ノ策ヲ採レリ故ニ結果登記ノ順位ニ影響ヲ及ホサムト規定シタルナリ

委員堀尾君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

山間ノ地又ハ一大字等ニテ其ノ全體耕地ヲ整理スルノ必要アルモ猶三十町歩ニ至ラサルトキハ特種ノ事情ト云フヲ得ルカ

政府委員和田君　左ノ答辯ヲ爲ス

此ノ如キコトハ當局者ノ認定如何ニ屬スルモ特種ノ事情ト云フヲ得ヘシ

委員永田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

整理ノ結果全國ニ於ケル利益ノ程度及整理ヲ爲スニ必要ナル土地ハ何レノ地ナルヤ

政府委員和田君　左ノ答辯ヲ爲ス

整理スヘキ地方ハ未タ決定セサルモ奥羽地方其ノ最モ著シキモノナラム又全國ニ於ケル利益ハ參考書ニ付一覽アラムコトヲ請フ

委員永田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

甲村ニ於テ耕地ノ整理ヲ爲スノ結果乙村ニ損害ヲ及ホスヘキ塲合ニ於テハ乙村ハ甲村ノ耕地整理ノ中止ヲ請求スル權利アリヤ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

本法ニ於テハ之カ規定ナキモ乙村ニ損害ヲ及ホシタルトキハ法理上當然ノ結果トシテ甲村カ賠償ノ責任アルハ勿論ナリ又重大ナル損害ヲ及ホス場合ニ於テハ農商務大臣ニ申請ヲ爲ス權利アルハ明カナリ此ノ場合ニ於テハ農商務大臣ハ本法第三十條第三十二條ニ依リ適當ノ處分ヲ爲スヘキナリ

委員永田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

土地ニヨリテハ水利上數村ニ關係スル場合アリ然ルニ本法ニ依レハ隣接地ノ圖面ノミヲ添附スヘシトアルニ過キサレトモ敢テ不都合ヲ生セサル考ナルヤ

政府委員岡野君　左ノ答辯ヲ爲ス

水利上數村ニ關係ヲ生スル場合ニ於テハ何レモ水利組合ノ設ケアルヲ以テ隣接地ノ圖面ノミニテ敢テ不都合ナキ考ナリ

委員長木村君　質問終了シタルヲ以テ逐條ニ付審議スヘキ旨ヲ告ク

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第一條第二項ヲ削除シ第一項其ノ所有者ノ下ニ共同シテノ四字ヲ挿入セム

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第二條ヲ第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第四十條及第五十條ノ規定ハ一人ニテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用スト修正セムコトヲ望ム

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第三條ヨリ第十條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第十二條中二市町村以上ノ渉ノ下リタノ二字ヲ削リ第十三條中晝ヲ劃ト改メタシ

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第十四條ヨリ第十八條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第二十條ヨリ第三十二條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第三十三條ヨリ第四十條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第四十一條中創業總會ノ議決ノ下及ヲ竝ニト改メ第三十九條ノ下ニ、ヲ加ヘタシ

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第四十二條ヨリ第四十八條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第四十五條中受取ルヘキノ下モノナルノ四字ヲ削除セムコトヲ望ム

委員長水村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第五十六條、第五十七條ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第五十八條中受取ルヘキノ下モノナルノ四字ヲ削除セムコトヲ望ム

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第五十九條ヨリ第六十三條マテニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　第六十四條、第六十五條ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

第六十六條第四號中第三十九條ノ下ニ及ノ一字ヲ挿入セムコトヲ望ム

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　明治三十年法律第三十九號中改正法律案ニ移ル旨ヲ告ク

委員長木村君　左ノ意見ヲ述フ

本案ハ耕地整理法案可決ノ結果當然消滅スヘキモノ故之ヲ廢棄セム

委員長木村君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長木村君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午後一時四十分

報告書

一耕地整理法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月二日

耕地整理法案委員長

木村誓太郎

衆議院議長片岡健吉殿

報告書

一明治三十年法律第三十九號中改正法律案(木村誓太郎君外二名提出)

右ハ本院ニ於テ耕地整理法案議決ノ結果廢棄スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年三月二日

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年三月二日

委員長　木村誓太郎

理事　堀尾茂助

○家祿引直處分法案(石黒涵一郎君外九名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月三十三日議長ノ指名ニ依リ本會委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

石黒涵一郎君　千田軍之助君　野田卯太郎君

山本幸彦君　深尾竜三君　小山久之助君

藤澤幾之輔君　望月長夫君　佐々木正藏君

一明治三十二年二月二十四日午後零時十分委員參集シ年長者山本幸彦君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

石黒涵一郎君　千田軍之助君　山本幸彦君

小山久之助君　藤澤幾之輔君

佐々木正藏君　望月長夫君

當選者左ノ如シ

委員長　山本幸彦君

理事　望月長夫君

會議

第一回　明治三十二年二月二十五日午後二時十九分開會

出席委員左ノ如シ

石黒涵一郎君　千田軍之助君

野田卯太郎君

山本幸彥君　小山久之助君　藤澤幾之輔君
望月長夫君　佐々木正藏君

出席政府委員左ノ如シ
松尾臣善君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長代理々事望月君　開議ヲ宣告ス
委員小山君　本案提出ノ理由ニ付委員石黑君ニ質問ヲ爲シ委員石黑君答辯ヲ爲ス
委員小山君　本案ニ對スル政府ノ意見ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　明治二年六月二十五日達ノ趣意ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　明治二年十二月二日布告ノ祿制ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　明治三年十二月十日達適用ノ範圍ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　各藩祿制ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員山本君　各藩制度届出書ノ提出ヲ望ム旨ヲ陳述シ政府委員山本君之ニ對スル陳述ヲ爲ス
委員千田君　各藩制度ト制度ニ依ル處分トノ關係ニ付陳述ヲ爲ス
委員藤澤君　仙臺藩ノ家祿處分ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員野田君　明治二年六月廿五日ノ布告ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員佐々木君　祿ノ免ノ計算ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　幕府草高面ノ制度ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員野田君　明治二年六月二十五日達ト法律第五十號トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員佐々木君　法律第五十號ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員藤澤君　舊仙臺藩士ニ對スル處分ノ法律第五十號ニハ適合スルヤ否ヤニ付取調ヲ乞フ旨ヲ陳述シ政府委員松尾君之ニ對スル陳述ヲ爲ス
委員佐々木君　法律第五十號施行法案ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員小山君　準士族ノ扶持ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員長山本君　散會ヲ命ス　于時午後四時五十一分

第二回　明治三十二年三月二日午前十一時十五分開會

出席委員左ノ如シ
石黑涵一郎君　千田軍之助君　山本幸彥君
藤澤幾之輔君　望月長夫君　關直彥君

出席政府委員左ノ如シ
松尾臣善君　永濱盛三君

（當回ノ議事ハ速記錄ニ詳ナルヲ以テ其ノ大要ヲ掲ク）

委員長山本君　開議ヲ宣告ス

委員石黑君　一般士族祿制ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員永濱君答辯ヲ爲ス
委員關君　明治二年六月二十五日達ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員永濱君答辯ヲ爲ス
委員關君　明治二年六月二十五日達ニ基キ各藩等シク家祿改正ヲ爲シタルヤ否ヤニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君　明治二年六月二十五日達ノ家祿改定率ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君　明治二年十二月祿制ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君　祿制處分ニ付陳述ヲ爲ス
委員石黑君　家祿處分ニ關スル當局者ノ方針ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　藩制施行ト其以前ノ政令法トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君　明治二年十二月ノ祿制ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君　廢藩置縣前ノ中央政府士族卒ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　明治二年六月十二日達ト藩制施行トノ間ニ藩債償却ニ關スル關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員石黑君　藩債償却ト祿制改革トノ關係ニ付政府委員ニ質問ヲ爲シ政府委員松尾君答辯ヲ爲ス
委員關君委員千田君參考書類取調要求ヲ爲ス

委員長山本君　散會ヲ命ス于時午後零時十三分
一本委員會ニ付託セラレタル議案ハ衆議院閉會ノ爲議決ニ至ラスシテ終レリ
右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル
明治三十二年三月九日

委員長　山本幸彥
理事　望月長夫

○辯護士法中改正追加法律案（鳩山和夫君外十七名提出）委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

多田　通君　　村瀬　庫次君　　重岡　薫五郎君
粕谷　義三君　　後藤　文一郎君　　鮫島　相政君
平岡　萬次郎君　　大塚　成吉君　　東　良三郎君

一明治三十二年二月二十四日正午十二時委員參集シ年長者大塚成吉君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

多田　通君　　村瀬　庫次君　　鮫島　相政君
平岡　萬次郎君　　東　良三郎君　　粕谷　義三君
後藤　文一郎君　　大塚　成吉君
當選者左ノ如シ

委員長　鮫島　相政君
理事　粕谷　義三君

會議

第一回　明治三十二年二月二十五日午後二時三十分開會

出席委員左ノ如シ

平岡　萬次郎君　　東　良三郎君　　大塚　成吉君

粕谷　義三君　　後藤　文一郎君

出席政府委員左ノ如シ

小松原英太郎君　　奥宮　正治君　　石渡　敏一君

委員長鮫島君　開議ヲ宣告シ且大體ニ付質問ヲ爲ス

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

政府ハ本案ニ同意セラルヽヤ

政府委員石渡君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案第四條ニハ別ニ不同意ナシ第十一條ニハ少シク質問ヲ要スヘキモノアリ

政府委員石渡君　委員平岡君ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案第十二條ハ辯護士裁判所ニ於テ切ルヘキカ或ハ辯護士裁判所ニ於テ其ノ職務ヲ行フ云々ト讀下スルノ意ナルヤ

委員平岡君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

之ヲ讀下スルト否トニ依リ如何ナル差異アルヤ

政府委員石渡君　左ノ答辯ヲ爲ス

裁判所ニ於テト讀切レハ裁判所内ニ限ルヘク然ラサレハ臨檢其ノ他ヲ含ムノ廣義ト爲ルヘシ

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

狹義ニ解スルノ意ナリ

政府委員石渡君　委員平岡君ニ左ノ質問ヲ爲ス

辯護士ト限定セハ辯護人ハ如何スルノ意カ

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案ハ辯護士法ノ改正ナルヲ以テ辯護人ニ關スル規定ヲ設ケス然レトモ他ノ法律ニテ同樣ノ規定ヲ設クルコトヽナルヘシ

政府委員石渡君　委員平岡君ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ハ辯護士ノ辯論ヲ保護スルニ止マリ檢事ニ付テハ何等ノ規定ナシ如何

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案ハ辯護士法ノ改正ナルヲ以テ檢事ニ關スル規定ヲ設ケス然レトモソハ他ノ法律ニテ規定セラルヽコトアルヘシ

政府委員石渡君　委員平岡君ニ左ノ質問ヲ爲ス

外國ノ例ハ如何

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

未タ全ク研究ヲ盡サヽレトモ英國トハ此ノ點ニ關シ全ク自由ナリト聞ケリ

委員多田君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

判檢事試驗ニ及第セシ者ヲ直ニ辯護士ニ登用セサリシ理由如何

政府委員奧宮君　左ノ答辯ヲ爲ス

歷史上ノ事實ニ止マリ別ニ大ナル理由アルニ非ス

委員粕谷君　委員平岡君ニ本案提出理由ノ質問ヲ爲ス

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案ヲ提出セシ理由ハ辯護士ノ辯論タル被告ノ權利伸張ノ意ニ出テタルモノナレハ假令法律ニ觸ルヽコトアルモ常人ノ刑ヨリ輕カラシメサルヘカラス然ルニ法律ハ此等ノ除外例ヲ設ケサルノミナラス辯護士法ニハ除名ノ規定アルヲ以テ事實一罪ニ付二重ノ制裁ヲ蒙ルノ結果トナリ辯護士ノ爲頗ル酷ニ失ス且辯護士ノ權利ヲ擴張スルハ寧ロ被告人ノ權利ノ救濟ニ利アリト信ス

委員東君　左ノ陳述ヲ爲ス

辯護士檢事ト辯論ノ末其ノ辯論ノ惡意ノ徵スヘキモノナキモ感情上稍モスレハ官吏侮辱ト爲ルハ各地方ノ裁判所共ニ其ノ例多シ故ニ辯護士ニシテ熱心ナル辯論ヲ爲サムト欲スル者モ多クハ之ヲ慮リ十分ナル辯論ニ及ハスシテ止ムノ狀アリ斯ノ如キハ畢竟法律ノ不備ヨリ來ル惡弊ナルヲ以テ茲ニ本案ヲ提出シタル理由ナリ

政府委員小松原君　委員平岡君ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ノ如クセハ辯護士專橫ノ弊ヲ生セシムルノ憂ナキヤ

委員平岡君　左ノ答辯ヲ爲ス

構成法百十一條ノ規定アリ其ノ憂ナカルヘシ

委員長鮫島君　本案ノ質問終了シタリト認ムルヲ以テ討議ニ移ルヘキ旨ヲ告ケ原案全體ヲ議題ト爲ス

委員大塚君　左ノ意見ヲ述フ

本案第四條第二項判事檢事登用第一回試驗及第者ノ下及文官高等試驗及第者ノ十字ヲ加ヘムコトヲ望ム文官高等試驗科目中民刑訴訟法ハ隨意科目ナルモ文官高等試驗登第者ハ實際盡ク之ヲ履修シタル者ニシテ其ノ人數モ多カラサレハ本文ノ如ク修正セラレムコトヲ望ム

委員東君　左ノ意見ヲ述フ

文官高等試驗受驗者ハ主トシテ財政經濟ヲ修メ辯護士ニ必要ナル民事訴訟法民法商法等ハ其ノ端緒ヲ窺ヒタルニ過キス委員大塚君ノ云フカ如クムハ高等文官試驗及第者ニ司法官試驗ヲ受クルモ亦可ナルヘシ敢テ本法ニ於テ司法官ナルノ資格ヲ與フルニ足ラス而シテ人數ノ多少ノ如キハ殆ムト論スルニ足ラサルナリ

委員長鮫島君　委員大塚君ノ修正意見ニ付政府委員ノ意見ヲ問フ

政府委員石渡君　左ノ答辯ヲ爲ス

希望スルニハ非サレトモ敢テ反對ヲモ主張セス

委員長鮫島君　委員大塚君ノ修正意見ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者多數　可決

委員大塚君　左ノ意見ヲ述フ

現行辯護士法第十二條全部ヲ削除セム

委員東君　左ノ意見ヲ述フ

判檢事ハ五年ヲ經サレハ控訴院ニ入ル能ハサルヲ以テ本條ノ削除ハ兩者間ノ權衡ヲ失スルモノト云ハサル可カラス且大審院ハ事實ト法律トノ分界ヲ知ルニ熟セル所謂實見家ヲ要スルヲ以テ法律上ノ知識ノミヲ有スル人ヲ直チニ大審院ニ入ラシムルハ頗ル弊害アラムト信ス

辯護士試驗及第者ヲ直チニ大審院ニ於テ職務ヲ行ハシムルハ委員東君ノ主張スル如キ不利益アルニ止マラス事務不熟練ノ爲訴訟ノ延滯ヲ來スコト甚大ナリ且大審院ハ上級裁判所トシテ下級裁判所ノ模範トナルヘキモノナレハ良判事ノ登用ヲ要スルト共ニ又好辯議士ノ列席ヲ希望セサルヘカラス如斯ハ單ニ學術ノ保證ニ過キサル辯議士試驗及第者ニ望ム可カラサルナリ

委員長鮫島君　委員大塚君ノ修正意見ニ付起立ヲ以テ表決ヲ採ル

起立者少數　否決

政府委員石渡君　左ノ意見ヲ述フ

本案第十二條ハ第一辯護人ニ適用ナキコトヲ第二撿事ニ對シテハ侮辱罪成立スルヲ以テ兩者間ノ權衡ヲ失スルコト第三外國ノ例ニ乏シキコト等ノ理由ヲ以テ之ニ反對ス

委員平岡君　左ノ意見ヲ述フ

本案ハ辯護士ニ關スル規定ヲ設ケサレトモ追テ此等ニ關スル規定ヲ設クヘシ第二ノ點ハ本案ハ素時弊ニ感シテ發セラレタルナリ判檢事間ニ於テ侮辱罪ノ成立セシヲ見ス外國ニ其ノ例ナシト云フト雖本案ニシテ時弊ニ感シテ生シタルモノトセハ外國例ノ有無ヲ問フ要ナシ況ムヤ外國ト日本トハ國情ノ異ナルコト大ナリ何ソ其ノ規定ノ一轍ニ出ツルヲ要セムヤ

委員東君　左ノ意見ヲ述フ

辯護人ヲ用フルハ殆ムト絶無ト稱スルヲ得ヘシ此少數ノ例ヲ以テ本案ヲ難スルハ甚タ酷ナリ若シ又必要ノ時來ラハ其ノ際規定スルヲ以テ足ルヘキナリ第二檢事ニ對シ權衡ヲ得スト云フモ概シテ法律ハ必要ヨリ起ルモノニシテ之ヲ必要ヨリ觀察スルトキハ檢事ニ此ノ權利ヲ認ムルノ必要ナクシテ辯護士ニ與フルノ必要多シ外國ニ其ノ例ナキハ要スルニ必要ナキヲ以テナリ必要アルハ社會ノ爲不祥ナリト雖モ既ニ此ノ必要アリトセハ之ニ對スル法則ヲ設定スルハ

又止ムヲ得サルナリ而シテ裁判長ハ職權ヲ以テ法廷ノ紀律ヲ保全スルカ故ニ辯護士ニシテ專橫ナル行爲アルトキハ退廷其他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ

政府委員石渡君　左ノ意見ヲ述フ

必要アリト雖モ政府此必要アルコトヲ認メス或ハ二三ノ人ニ屬スル例ヲ以テ云々スルハ其當ヲ得サルナリ

委員大塚君　左ノ意見ヲ述フ

辯護士ハ裁判所ニ於テトアルヲ辯護士法廷ニ於テト修正セム

政府委員小松原君　左ノ意見ヲ述フ

法廷ノ神聖ハ裁判官辯護士共ニ負ハサル可カラス本案ノ如クセハ辯護士ノ法廷ニ於ケル神聖ヲ保全スル能ハサルヤノ感ナキ能ハス

委員平岡君　左ノ意見ヲ述フ

法廷ノ神聖ハ裁判長ノ職權トシテ其ノ秩序ヲ保チ訴訟ノ進行ニ付テモ一ニ裁判長ノ許可ヲ待ツヘキモノニシテ之ニ反スル者ハ構成法其ノ他ノ法條ニ依テ處分セラルヽモノニシテ政府委員ノ主張セルカ如キ憂ナシ

委員長鮫島君　起立者多數　可決

委員長鮫島君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

時午後四時十分

報告

一辯護士法中改正追加法律案(鳩山和夫君外十七名提出)

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十五日　辯護士法中改正追加法律案委員長　鮫島相政

衆議院議長片岡健吉殿

(別紙略)

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十五日

委員長　鮫島相政

理事　柏谷義三

○東京市ニ關スル法律案(鳩山和夫君外七名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

早川龍介君	横山富次郎君	新井章吾君	
丸山嵯峨一郎君	西谷金藏君	安川繁成君	
星松三郎君	中島祐八君	小松喜平治君	

一明治三十二年二月二十四日午後零時三十分委員參集シ年長者安川繁成君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

横山富次郎君	新井章吾君	丸山嵯峨一郎君	
安川繁成君	中島祐八君	小松喜平治君	

當選者左ノ如シ

委員長　新井章吾君
理事　丸山嵯峨一郎君

會議

第一回　明治三十二年二月二十五日午前十時三十分開會

出席委員左ノ如シ

横山富次郎君	新井章吾君	丸山嵯峨一郎君	
安川繁成君	星松三郎君	中島祐八君	

小松喜平治君

委員長新井君　開議ヲ宣告ス

委員横山君　左ノ陳述ヲ爲ス

東京市ハ帝國ノ首府ニシテ輦轂ノ下ニ位シ人口百四十萬其ノ要スル經費モ亦年額二百萬圓以上ニ達シ到底他市ノ比ニアラサルノミナラス既ニ市區改正水道改良ノ事業ニ着手シ又將來東京灣築港ノ一大工事ヲ起スノ計畫アリ其ノ規模其ノ事業他市ノ比ニアラス從テ他ノ都市ト同一市制ノ下ニ支配セシメハ容易ニ其ノ治蹟擧ラサルヤ論ヲ俟タス而シテ市區改正、水道改良事業ノ如キハ内務省幷ニ市ノ經濟ニ影響スルコトナキカテ不便極リナク其ノ他將來ニ於テ諸般ノ事務ニ付直轄ト爲スノ至便ナルカ故ニ茲ニ本案ヲ提出セシ所以ナリ

委員中島君　委員横山君ニ左ノ質問ヲ爲ス

内務省幷ニ市ノ經濟ニ影響スルコトナキカ

委員横山君　左ノ答辯ヲ爲ス

別ニ影響ナカルヘシ

委員中島君　委員横山君ニ左ノ質問ヲ爲ス

郡部ノ意向如何

委員横山君　左ノ答辯ヲ爲ス

敎育費土木費治水費ニ付市ヨリ幾分ノ補助ヲ爲シ居ルニ付其ノ點ニ付或ハ異議アルヤノ疑アレトモ府會ハ依然タル府會ナルヲ以テ敢テ不都合ヲ生スルコトナカルヘシ

委員星君　左ノ陳述ヲ爲ス

本法ハ市ノミヲ内務省ノ直轄ト爲スニアレハ郡ノ負擔ハ之カ爲ニ敢テ增加セス從來ニ異ナルコトナク依然タリ又市區改正水道改良事業ノ如キハ市ノ事業ニシテ郡ノ事業ニアラス

委員横山君　左ノ陳述ヲ爲ス

電信電話ノ地下線ヲ敷設スルニ付テモ遞信省ハ先ツ市參事會ニ交涉シ市參事會ハ之ヲ市區改正委員會ニ交涉シ而シテ市區改正委員會ヨリ回答スルカ如キ狀態ニシテ急速ヲ要スル事務モ遲延スルノ傾向アリ

委員安川君　左ノ陳述ヲ爲ス

政府ニ於テ經費ヲ要セス市ニ於テモ亦然ルノミナラス政府ノ事業タル電信電話線上等ニモ大ニ便利ニシテ徒ラニ繁雜ノ手續ヲ爲スノ勞ナク又將來畫策スヘキ事業等悉ク便利ナリト信ス

委員長新井君　原案全體ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長新井君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于時午前十一時

報告書

一東京市ニ關スル法律案（鳩山和夫君外七名提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十五日

東京市ニ關スル法律案委員長

新井章吾

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十五日

委員長　新井章吾

理事　丸山嵯峨一郎

○國有林野調査會設置ニ關スル建議案(杉田定一君外四名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

首藤陸三君	關信之介君	大久保鐵作君	門脇重雄君
中村彌六君	工藤行幹君	畠山雄三君	中埜廣太郎君

一明治三十二年二月二十四日午後零時三十分委員參集シ年長者工藤行幹君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

工藤行幹君	畠山雄三君
中村彌六君	關信之介君

當選者左ノ如シ

委員長	工藤行幹君
理事	中埜廣太郎君

會議

第一回　明治三十二年二月二十五日午後一時四十分開會

出席委員左ノ如シ

杉田定一君	中埜廣太郎君
工藤行幹君	中村彌六君
畠山雄三君	

委員長工藤君　開會ヲ宣告ス

委員杉田君　左ノ陳述ヲ爲ス

本案提出ノ理由ヲ述ヘムニ國有林野處分ノ事タル國家重要ノ問題ニシテ速ニ之カ整理ヲ爲サヽルヘカラス今ヤ政府ハ國有林野法案國有林野下戻法案及不用林野下戻法案等ヲ提出シ議會ノ協賛ヲ經テ向フ十六年間ヲ期シ二千三百有餘萬ノ資金ヲ投シ一大山林事業ヲ經營セムトス實ニ國運ノ一進歩ト云フヘシ而シテ現在官有林野ハ七百餘萬町ニシテ從來屢々盜伐濫伐行ハレ火災亦少カラス爲ニ世間往々其ノ監督方法ヲ非議スル者アリ山林賣却及下戻ノ事ニ就テハ其ノ非難特ニ甚シ且之カ整理處分ニシテ一歩ヲ誤マルアラムカ治水、交通、國防其ノ他衛生漁業等ノ上ニ非常ノ影響ヲ及ホシ不測ノ不利ヲ釀スハ言ヲ俟タス其ノ愼重ヲ要スル既ニ此ノ如シ故ニ獨リ之ヲ農商務省ニ一任スルハ稍不安ノ虞ナキニ非ラス從テ關係アル當局者及各省ノ官吏及貴衆兩院議員其ノ他本問題ニ就テ學識經驗アル朝野ノ人士ヲ委員ニ選任シ國有林野調査會ヲ設ケ以テ其ノ處分方法ヲ調査セシムルハ最モ必要ノ施設ニシテ政府モ亦之ニ同意ヲ表セリ且本案ハ國有林野下戻法案及國有林野法案等ノ委員會ノ進行上ニモ一大關係アレハ直ニ可決アラムコトヲ望ム

委員中村君　左ノ陳述ヲ爲ス

從來種々ノ調査會ノ設立アリシモ其ノ成蹟ニ徹スルニ一モ得ル處ナク反テ弊害ヲ釀セシモノ多シ其ノ能ク功ヲ奏セシハ一法典調査會アルノミ是レ全ク人選ノ宜キヲ得タルカ爲ナリ然ルニ若シ杉田君ノ說ノ如ク本案調査會員中ニ貴衆兩院議員ヲ加フルモノトセハ選任其ノ當ヲ得ス弊害或ハ百出セム然レトモ其ノ組織權限ノ規定ヲ政府ニ一任セハ或ハ其ノ弊害ヲ免カルヽ

ニ足ラム

委員中埜君　左ノ陳述ヲ爲ス

木員ハ國有林埜調査會ノ設置ニハ同意アレトモ其ノ委員ニ貴衆兩院議員ヲ加フルハ不可ナリト信ス

委員中村君　左ノ陳述ヲ爲ス

本員ハ國有林野調査會ノ組織權限ニ付政府委員ニ質問アレハ其ノ出席ヲ求メムコトヲ望ム

委員長工藤君　政府委員ノ出席ヲ求ムル旨ヲ告ケ散會ヲ命ス于時午後一時三十分

第二回　明治三十二年二月二十五日午後二時四十五分開會

出席委員左ノ如シ

杉田定一君　首藤陸三君　關信之介君
大久保鐵作君　門脇重雄君　中村彌六君
工藤行幹君　畠山雄三君

出席政府委員左ノ如シ

藤田四郎君　原保太郎君

委員長工藤君　開議ヲ宣告ス

委員中村君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

從來種々ノ調査會ハ一種ノ政略ニ依リ設立サレタルモノニシテ往々行政事務ヲ侵害シ或ハ之ヲ澁滯セシメシコト已往ニ徵シ明白ナル事實ニシテ朝野ノ人士ノ等シク認ムル處ナリ今若シ政府ニシテ山林調査會設置ニ同意セハ如何ナル組織ニ依リ如何ナル權限ヲ附與スルノ意カ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

國有林野處分ノ事タル國家重要ノ問題ナレハ政府ニ於テモ關係アル當局者ノ審議ヲ經テ愼重ニ其ノ方針ヲ定ムル意見ナレトモ朝野ノ人士ヲ集メテ調査セシムルノ必要ヲ認メス

委員杉田君ハ本案提出ノ理由ヲ再演ス

委員首藤君　政府委員ニ左ノ質問ヲ爲ス

本案ノ趣旨ニハ不同意ナルヤ否ヤ

政府委員藤田君　左ノ答辯ヲ爲ス

本案ノ趣旨ニハ不同意ナレトモ兎ニ角其ノ方針ヲ定ムル委員ヲ設クルコトハ政府ニ於テモ既ニ決定セリ

委員畠山君　左ノ意見ヲ陳述ス

本員ハ從來ノ調査會ニ徵シ本案ノ調査會ヲ設クルノ必要ナシト信ス

委員中村君　左ノ意見ヲ陳述ス

國有林野調査會ノ組織權限モ未タ判然セス從テ之ヲ設置スルモ利益ナキモノト信ス

委員長工藤君　本案ノ反對意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者少數　否決

委員長工藤君　本案ノ贊成意見ニ付擧手ヲ以テ表決ヲ採ル

擧手者多數　可決

委員長工藤君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス于

時午後三時三十分

報告

一國有林野調査會設置ニ關スル建議案(杉田定一君外四名提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十五日

國有林野調査會設置ニ關スル建議案委員長

工藤行幹

衆議院議長片岡健吉殿

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十五日

委員長　工藤行幹

理事　中埜廣太郎

○良種牛補給ニ關スル建議案(奈須川光寶君外四名提出)委員會會議錄

委員成立

一明治三十二年二月二十三日議長ノ指名ヲ以テ本會ノ委員九名ヲ選定ス其ノ氏名左ノ如シ

西村淳藏君　河口善之助君

古谷新作君　山口定省君

高橋九郎君　奈須川光寶君

星野甚右衛門君　高川定次郎君

高橋元勗君

一明治三十二年二月二十四日正午十二時委員參集シ年長者奈須川光寶君投票管理者ト爲リ委員長及理事ヲ互選ス

出席委員左ノ如シ

奈須川光寶君　高橋元勗君

高川定次郎君　西村淳藏君

古谷新作君　河口善之助君

星野甚右衛門君　山口定省君

高橋九郎君　奈須川光寶君

委員長

理事　星野甚右衛門君

當選者左ノ如シ

會議

第一回　明治三十二年三月二十五日午後一時十五分開會

出席委員左ノ如シ

西村淳藏君　高橋元勗君

古谷新作君　高橋九郎君

河口善之助君　奈須川光寶君　山口定省君
橋元　勗君　星野甚右衛門君　高川定次郎君

出席政府委員左ノ如シ

和田彦次郎君

委員長奈須川君　開議ヲ宣告ス

委員長奈須川君　左ノ陳述ヲ爲ス

國民經濟ノ發達ト共ニ牛畜ノ需用增加スルハ自然ノ數ニシテ近時我國モ亦著シク其ノ增加ヲ見ルニ至レリ然ルニ民間斯業ノ情態萎靡振ハス稍モスレハ衰退ノ狀アルハ畢竟良種牛ノ缺乏ニ由ラスムハアラス而シテ未タ斯業ニ關シ官民共ニ前途ノ長計ヲ劃スル者アルヲ聞カス是本案ヲ提出シテ種牛所ノ設置ヲ切望スル所以ナリ

委員長奈須川君　左ノ意見ヲ述フ

本員ハ本案提出後更ニ熟考セシ所「良種牛補給ニ關スル建議案」ト改メ本文第一行中「牛畜及」ノ下ニ「其ノ」ノ二字ヲ加ヘ第六行中「良種牛補給ノ途ヲ啓カレム」ノ十二字ヲ削除シ「速ニ種牛所設置アラム」ノ十字ヲ加フルヲ妥當ナリト信ス

委員長奈須川君　自己ノ意見ニ付異議ノ有無ヲ問フ

異議ナシ　可決

委員長奈須川君　本案ノ審査結了シタルヲ以テ報告書ヲ議長ニ提出スヘキ旨ヲ告ケ閉會ヲ命ス

于時午後一時四十五分

報告

一良種牛補給ニ關スル建議案（奈須川光寶君外四名提出）

右ハ本院ニ於テ別紙ノ通リ修正スヘキモノト議決致候此段及報告候也

明治三十二年二月二十五日　良種牛補給ニ關スル建議案委員長

奈須川光寶

衆議院議長片岡健吉殿

（別紙略）

右衆議院規則第五十八條ニ依リ會議錄ヲ作ル

明治三十二年二月二十五日

委員長　奈須川光寶

理事　星野甚右衛門